男女共同参画社会に関する意識
調査報告書

平成26年7月

那　須　塩　原　市

目　　次

Ⅰ　調査の概要 …… 1

Ⅱ　調査対象者の属性 …… 2

Ⅲ　調査結果 …… 4

1　男女平等について …… 4

［1］（1）家庭生活 …… 5

（2）職場 …… 8

（3）学校教育 …… 11

（4）地域社会 …… 14

（5）社会通念・慣習・しきたり …… 17

（6）政治の場 …… 20

（7）法律や制度 …… 23

（8）社会全体 …… 26

［2］職場における男女平等 …… 29

2　男女の役割意識について …… 33

（1）「男は仕事、女は家庭」という考え方 …… 33

（2）日常生活の夫婦の分担 …… 36

3　男女の地域・社会参画について …… 38

（1）地域・社会参画の状況 …… 38

（2）地域・社会参画していない理由 …… 40

4　DVやセクハラについて …… 42

（1）配偶者・パートナー間の暴力について …… 42

（2）DVの相談先 …… 47

（3）相談しない・しなかった理由 …… 48

（4）セクハラについて …… 49

5　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について …… 51

（1）ワーク・ライフ・バランスの認知度 …… 51

（2）ワーク・ライフ・バランスの現実 …… 53

（3）ワーク・ライフ・バランスの理想 …… 59

（4）ワーク・ライフ・バランス実現のために必要なこと …… 65

6　男女共同参画社会づくりについて …… 67

（1）市が力を入れるべき取り組み …… 67

（2）職場で力を入れるべき取り組み …… 69

（3）私たち自身が必要な取り組み …… 71

（4）知っている市の施策 …… 73

（5）意見・要望 …… 74

※　各設問における「その他の意見」 …… 84

Ⅳ　調査票 …… 88

Ⅰ　調査の概要

１．調査目的

那須塩原市における男女共同参画社会の形成状況や市民の意識を明らかにするとともに、平成24年3月に策定した「第２次那須塩原市男女共同参画行動計画（平成24年度～28年度）」の評価目標値のうち市民意識に関する項目について、調査開始の平成17年、及び中間調査（平成20年）、基準年次（平成22年）からの意識変化の状況を把握し、今後の事業展開の参考とすることを目的に実施しました。

２．調査内容

（１）　男女平等について
（２）　男女の役割意識について
（３）　男女の地域・社会参画について
（４）　DVやセクハラについて
（５）　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
（６）　男女共同参画社会づくりについて

３．調査の設計

（１）　調査地域　　市内全域
（２）　調査対象　　20歳以上の男女
（３）　標本数　　２，000人
（４）　抽出方法　　無作為抽出
（５）　調査方法　　郵送による調査用紙送付及び回答
（６）　調査時期　　平成25年11月10日（日）～12月1日（日）

４．回収結果

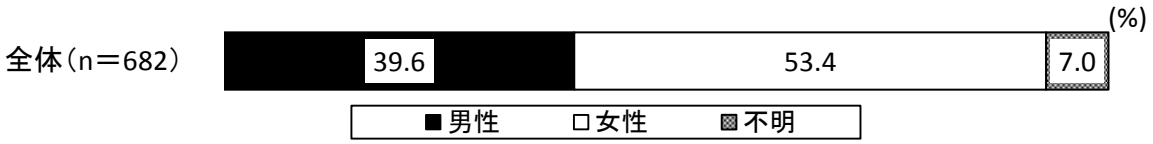
性　別	配付数	回収数	回収率
男	１，000	270	27．0%
女	１，000	364	36．4%
不明		48	
計	２，000	682	34．1%

５．報告書の見方

集計結果で示す数値は、百分率（%）で表示した。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値は100%とならない場合がある。

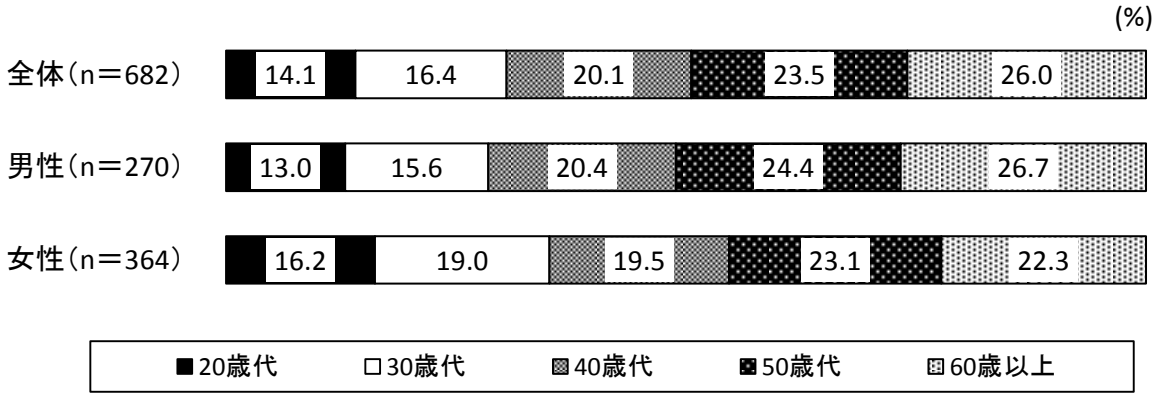
Ⅱ　調査対象者の属性

1.　性別



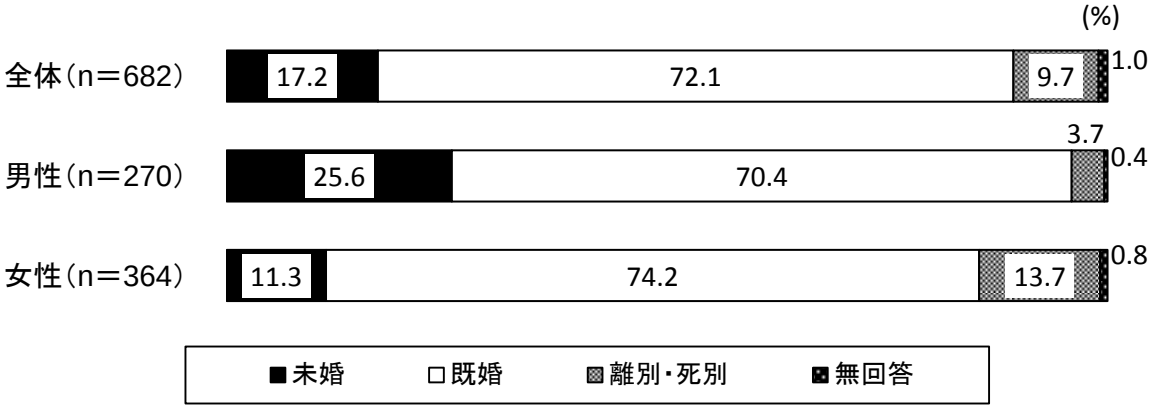
回答者の性別は、「男性」39．6％、「女性」53．4％となっている。

２．年齢別



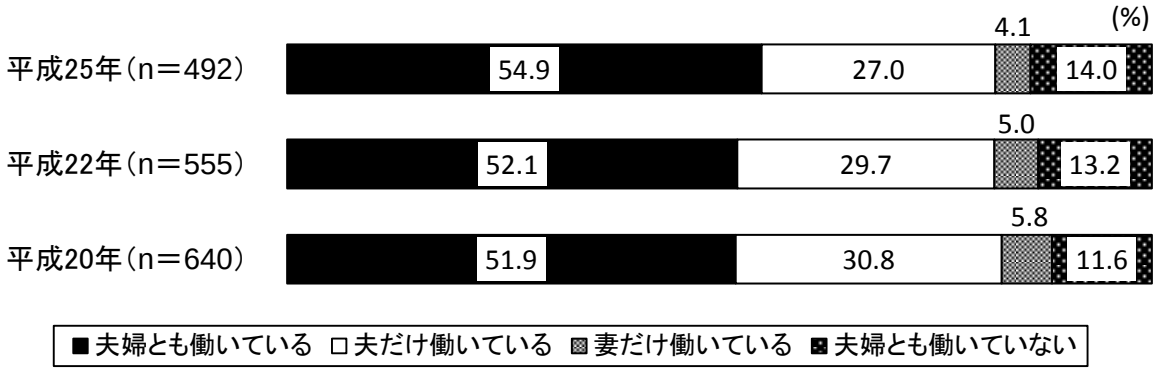
アンケートを抽出した対象者は、各年代200名ずつ抽出している。回答者の年齢は、「60歳以上」（26．0％）が最も多く、次いで「50歳代」（23．5％）と続き、若い世代よりも年齢の高い世代のほうが回答割合が高くなっている。

３．結婚別



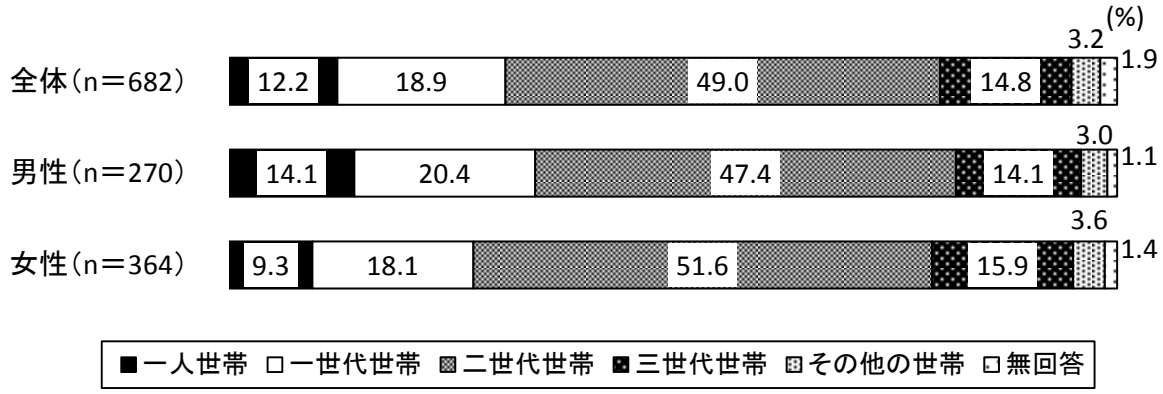
回答者の結婚状況は、男女ともに「既婚（事実婚を含む）」の割合が最も高く、次いで男性は「未婚」（25．6％）、女性は「離別・死別」（13．7％）とそれぞれ続いている。

４．働き方



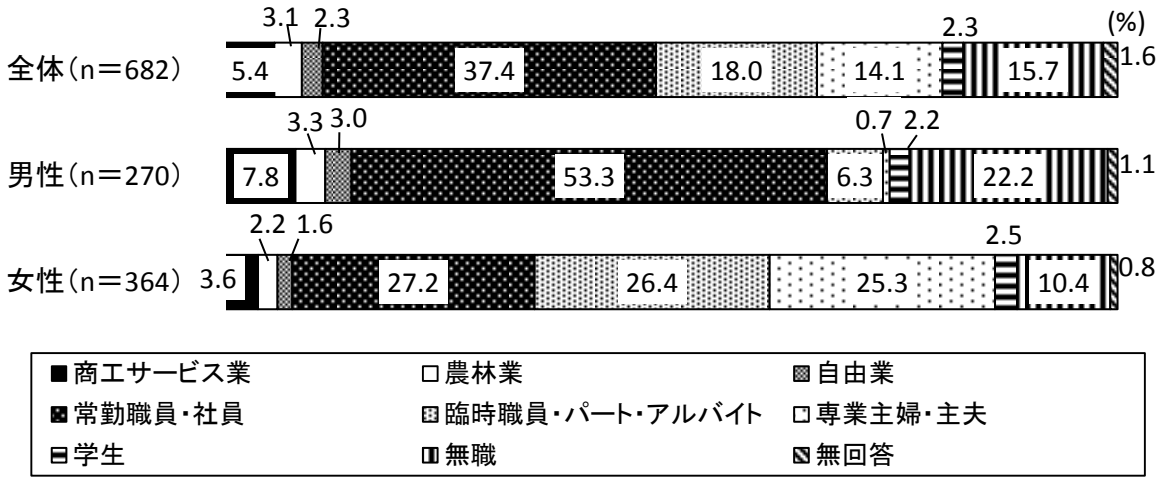
回答者の働き方は、前回調査とほぼ同じ結果となっている。「夫婦とも働いている」（54．9％）が前回に比べ2．8ポイント多くなっており、「夫だけ働いてる」（27．0％）が2．7ポイント少なくなっている。

５．世帯構成



世帯の状況では、男女とも「2世代世帯（親と子）」の割合が最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が、「男性」20．4％、「女性」18．1％とそれぞれ続いている。

６．職業

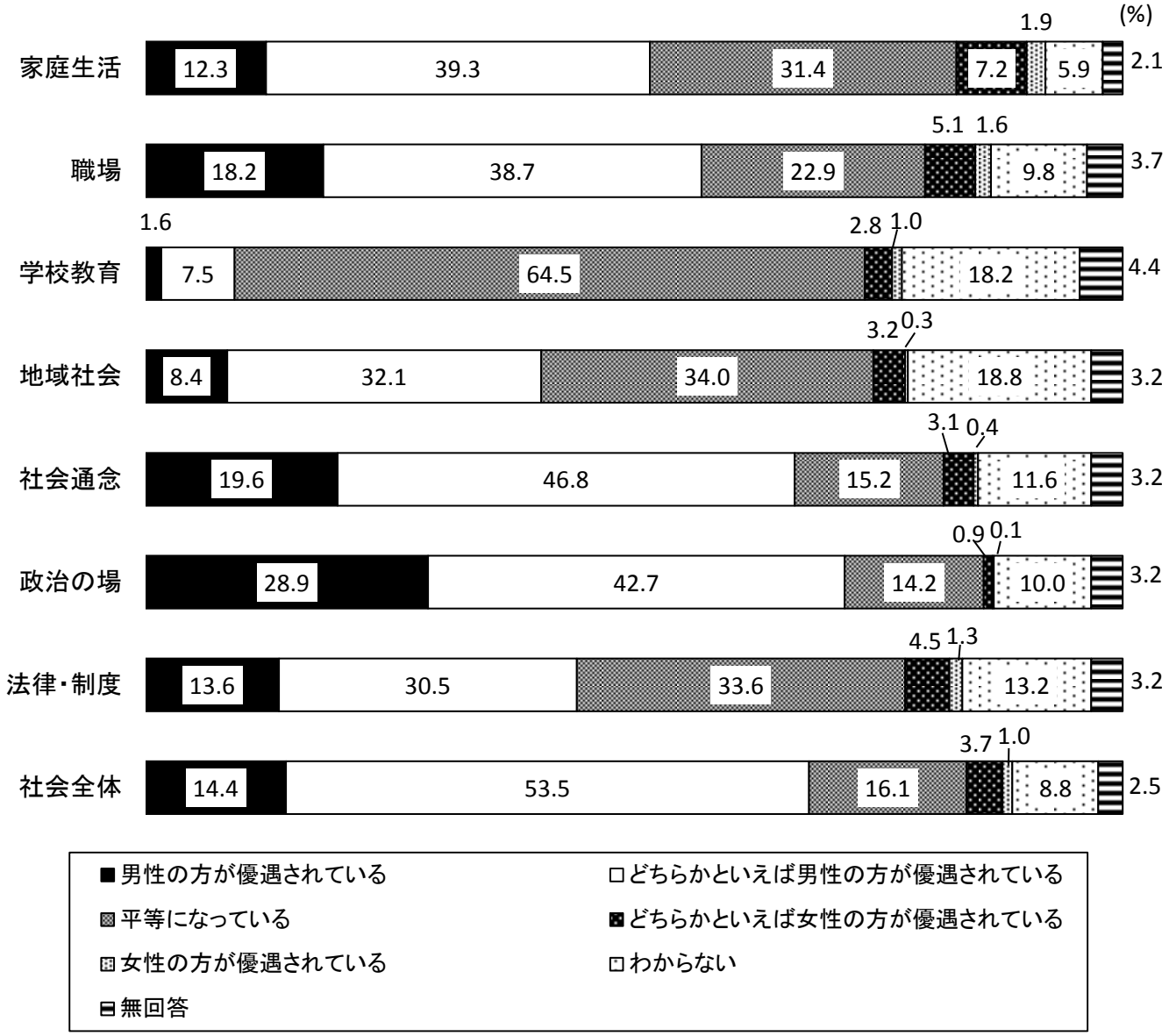


男性の職業は、「常勤職員・社員」が53．3％と半数を超えており、次いで「無職」が22．2％と続いている。女性の職業は、「常勤職員・社員」が27．2％と最も多く、「臨時職員・パート・アルバイト 」と「専業主婦」はほぼ同じ割合になっている。

Ⅲ　調 査 結 果

1. 男女平等について

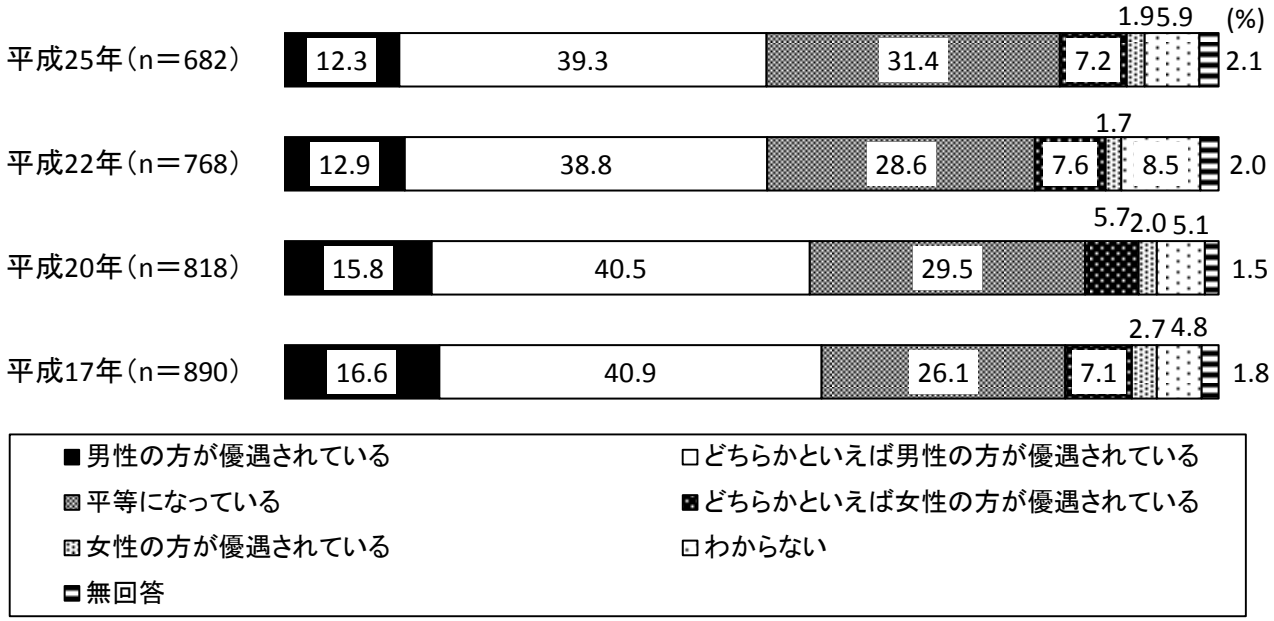
問1　あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の（1）～（8）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つずつお選びください。（○は1つずつ）



「学校教育」を除く全ての項目で「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が多くなっており、「政治の場」の項目は7割以上、「社会通念・慣習・しきたり」、「社会全体」の項目でも6割以上の回答となっている。
また、「平等になっている」では、「家庭生活」、「地域社会」、「法律・制度」の項目で3割を超えている。

（1）家庭生活

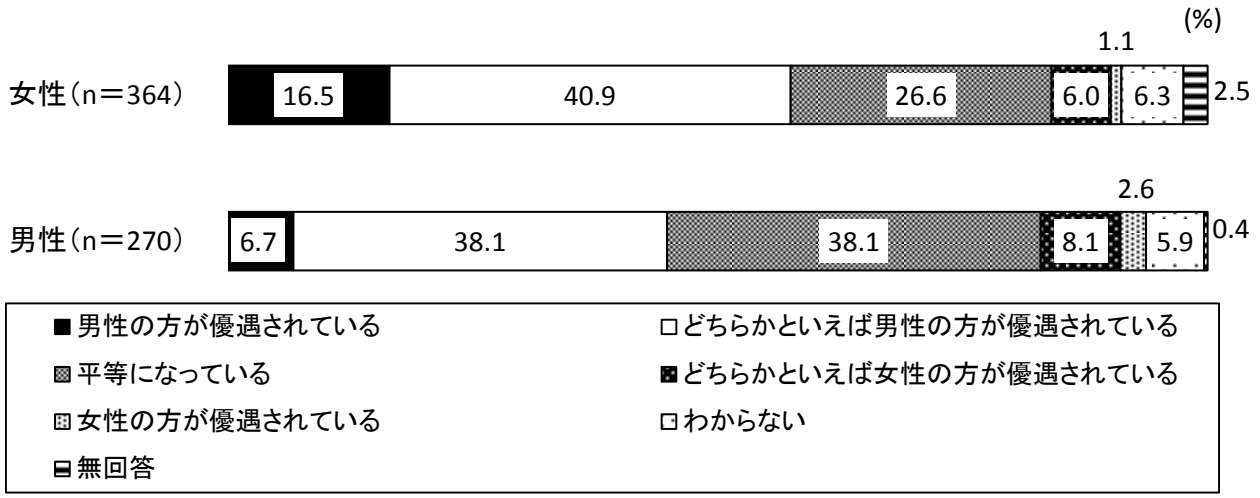
【全　体】



〇内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成24年10月実施）「平等」47.0%
〇栃木県「男女共同参画に関する意識調査」（平成21年11月実施）「平等になっている」29.5%
〇佐野市「男女共同参画に関する市民アンケート」（平成24年11月実施）「平等になっている」35.4%
※国、県、他市の調査結果については、以下調査の名称等を略して表示します。

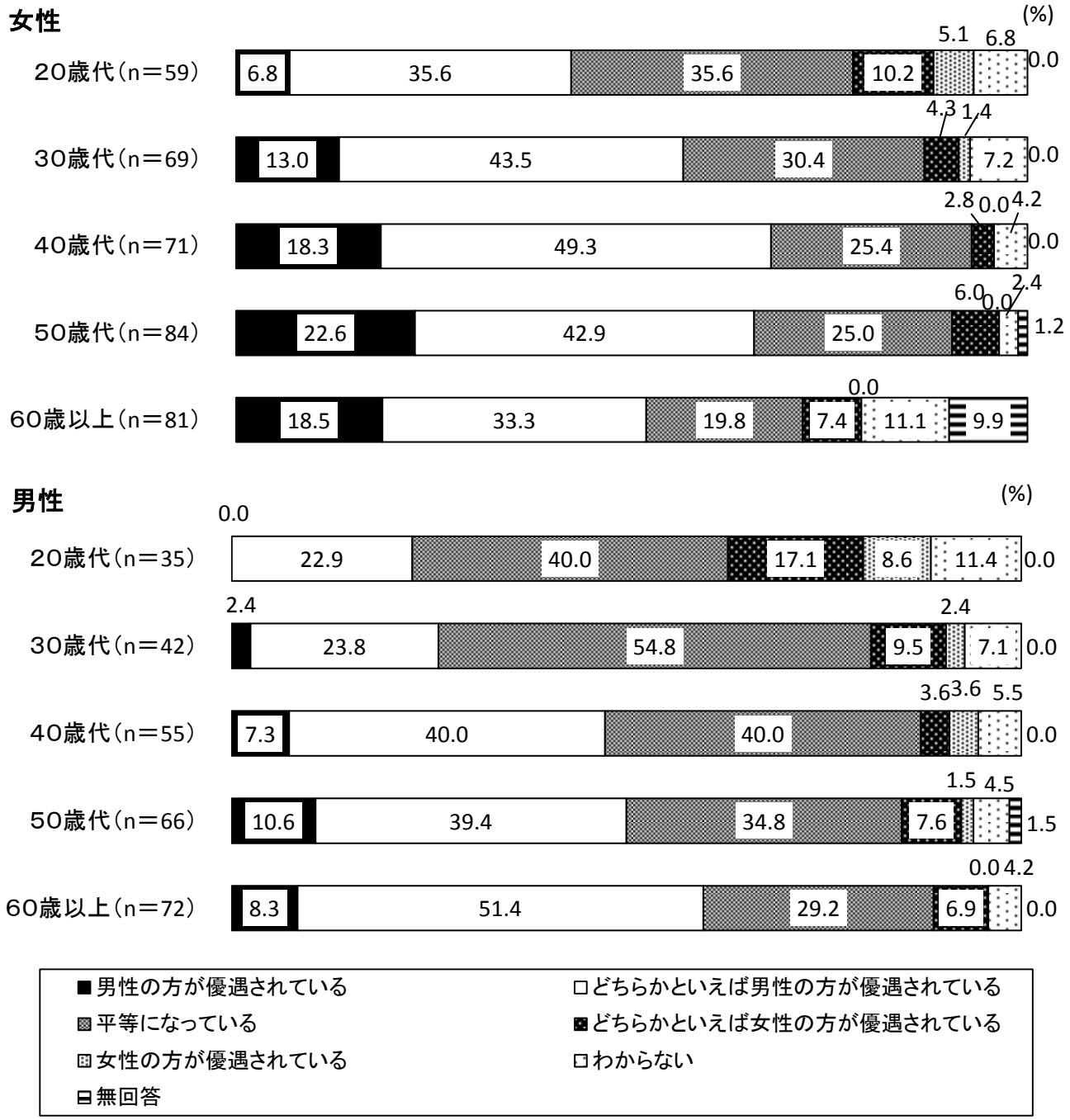
家庭生活において「平等」と感じている人の割合は、31．4%と前回調査（平成22年調査を言う。以下同じ）から2．8ポイント増加、平成17年調査からは5．3ポイント増加しているが、依然として「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含め「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合（以下「男性が優遇（計）」という）は、半数を超えている。

【性　別】



「平等」と感じている人の割合は、男性が38．1%であるのに対し、女性は11．5ポイント少ない26．6%となっており、逆に「男性の方が優遇されている」と感じている人は、男性の6．7%に対し女性は9．8ポイント多い16．5%となっている。

【性・年齢別】

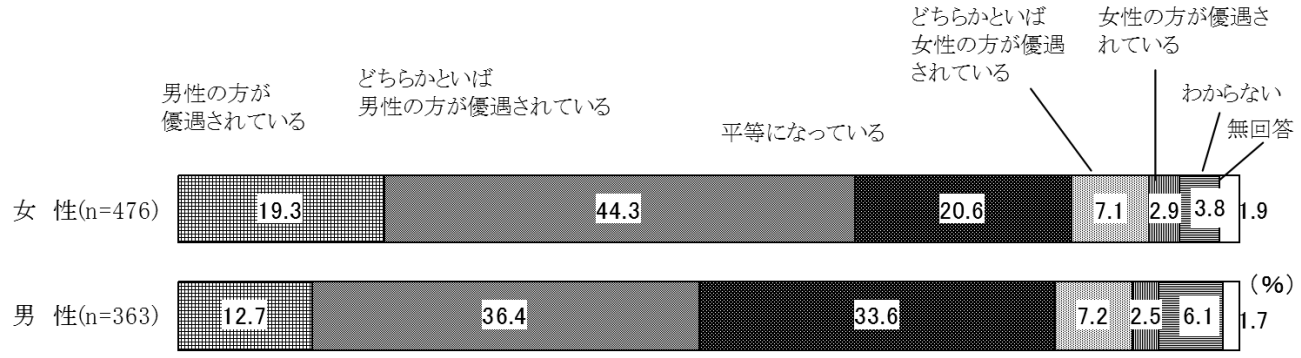


家庭生活において、「平等」と感じている人の割合が最も高い年代は、男性は30歳代（54.8%）、女性は20歳代（35.6%）となっているが、その差は19．2ポイントと差が大きい。
女性は、20歳代を除いた全年代で「男性が優遇（計）」と感じている人が5割を超えている。

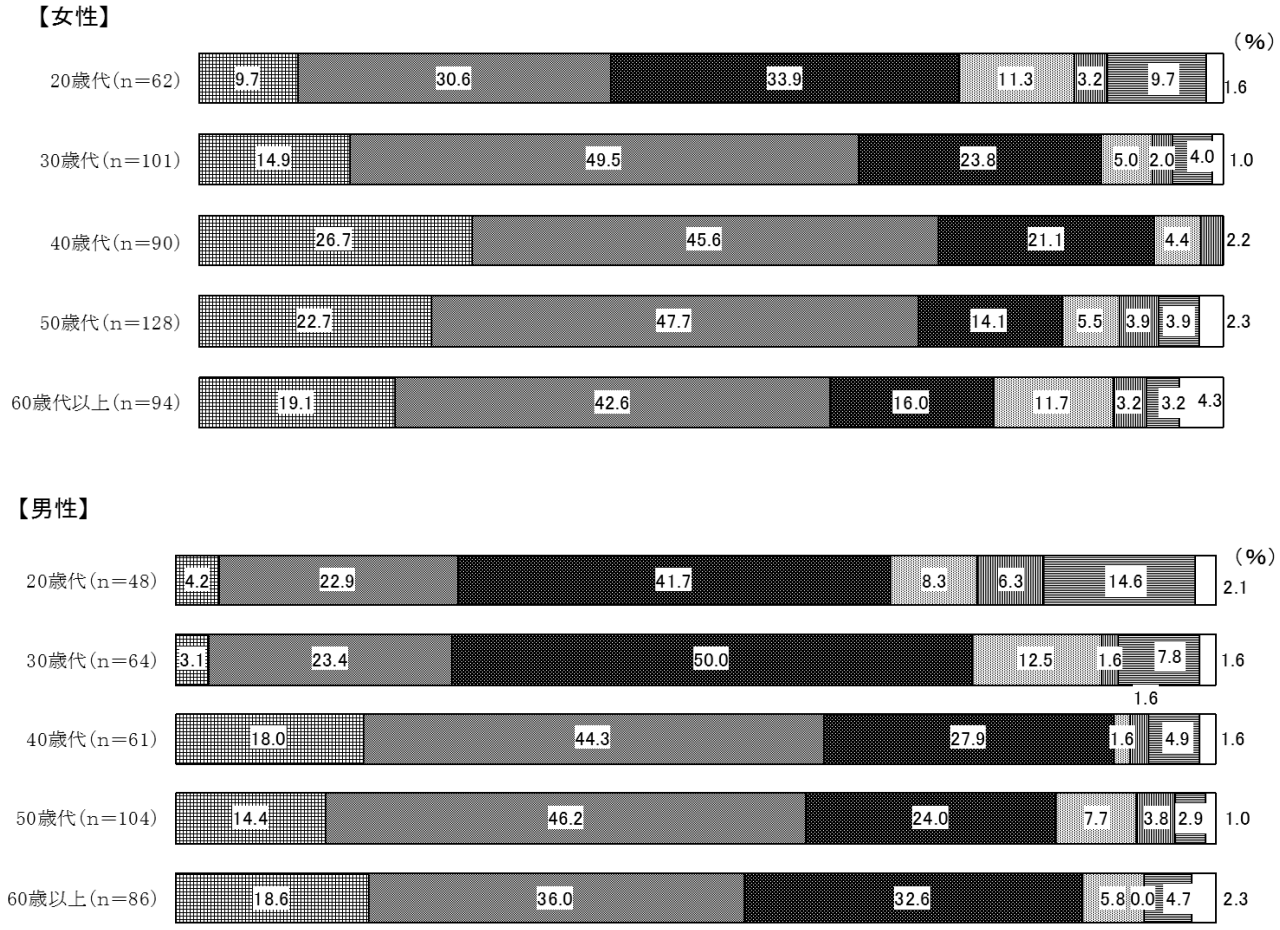
家庭生活

参　考　平成17年10月調査結果

【性　別】

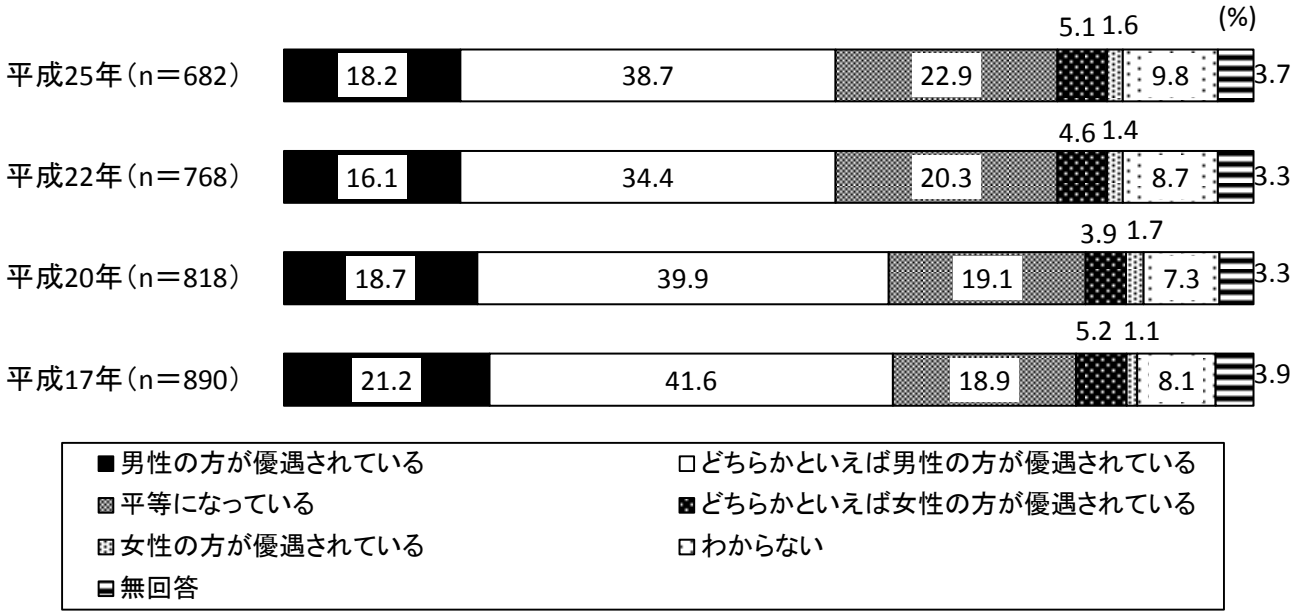


【性・年齢別】



（2）職場

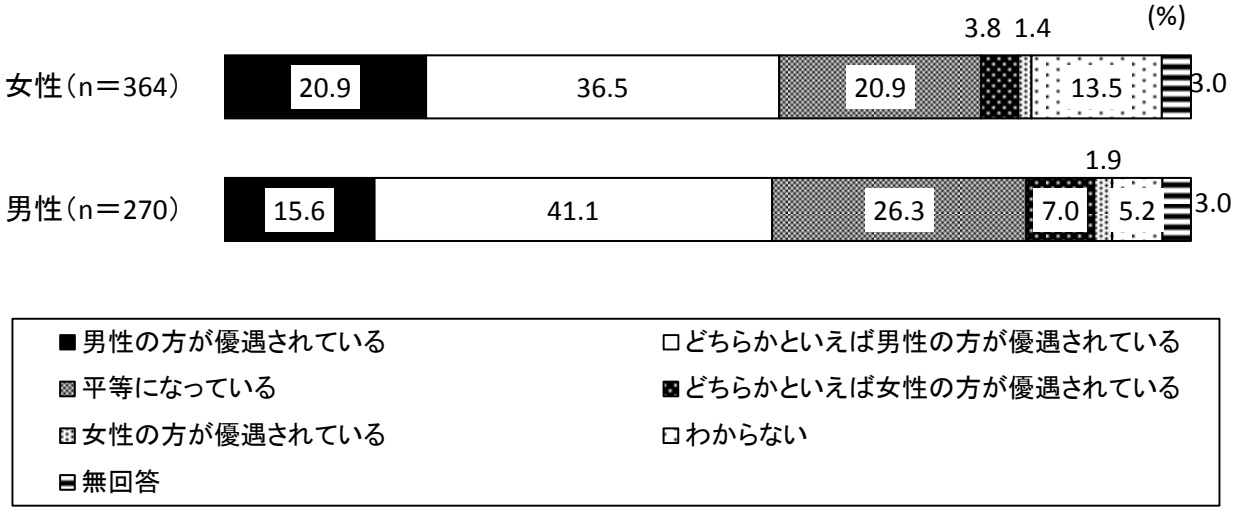
【全　体】



〇内閣府（H24.10）「平等」28.5%
〇佐野市（H24.11）「平等になっている」22.4%
〇栃木県（H21.11）「平等になっている」17.2%

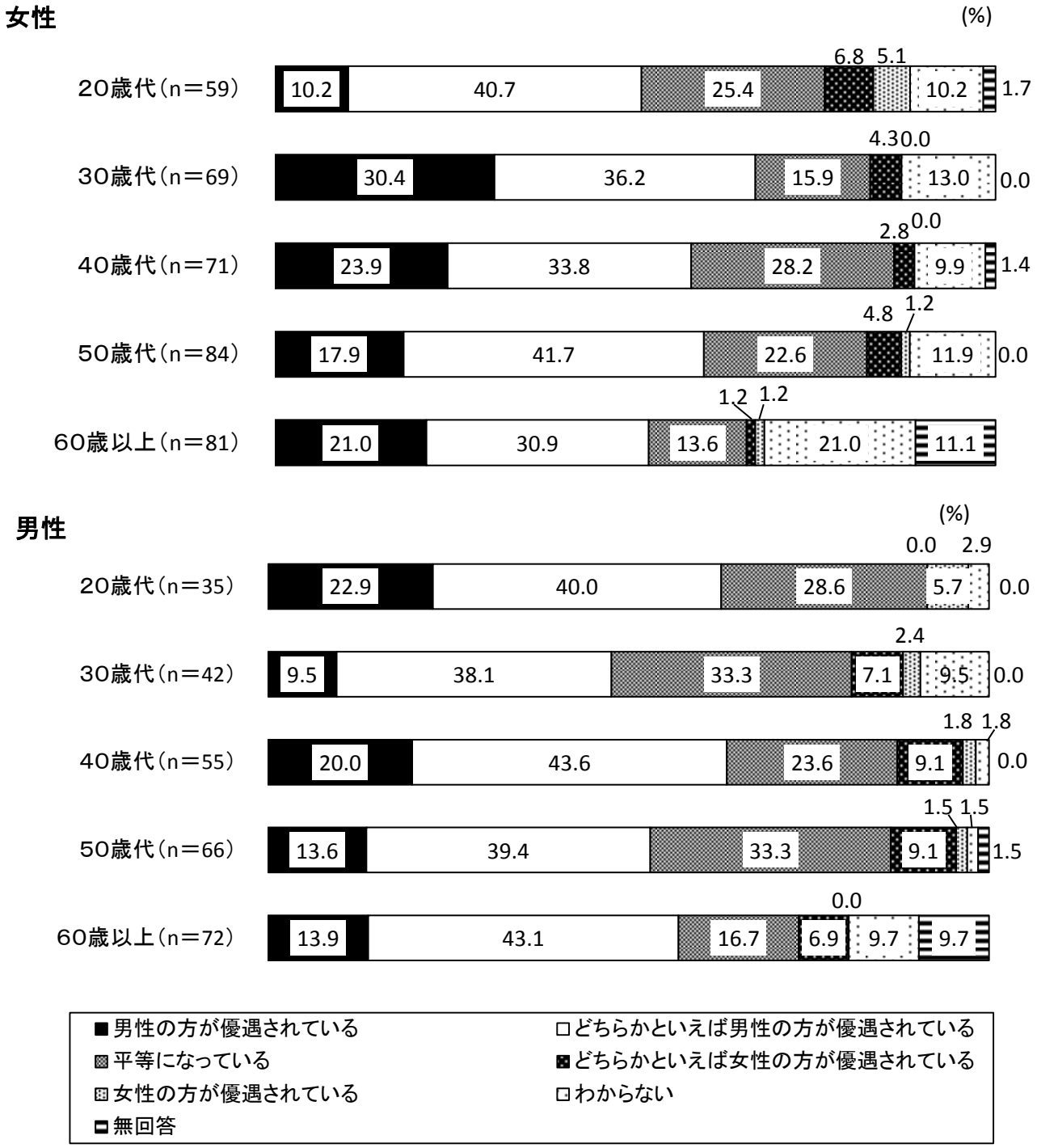
職場において「男性が優遇（計）」と感じている人の割合は、56．9%と前回調査より6．4ポイント多くなっているが、「平等」と感じている人の割合も平成17年調査から徐々に増加している。

【性　別】



「平等」と感じている人の割合は、女性が20．9%であるのに対し、男性は5．4ポイント多い26．3%となり、平成17年調査からは男女とも増加している。

【性・年齢別】

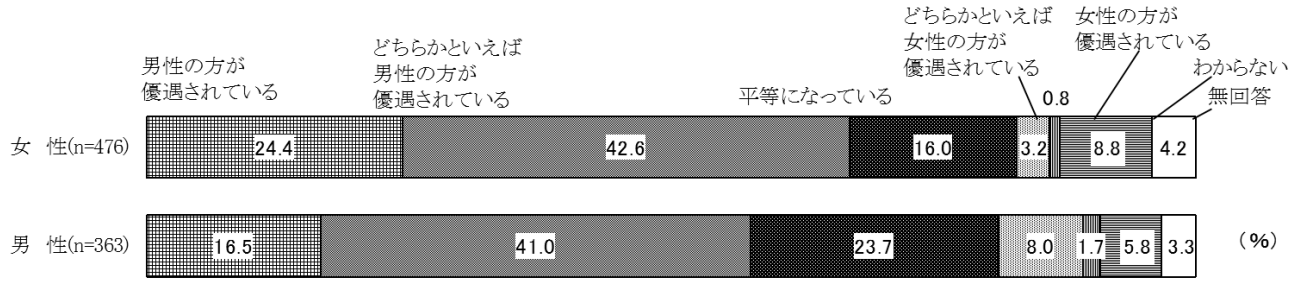


職場において、「男性が優遇（計）」と感じている人の割合は、女性は全年代で5割を超えており、男性は30歳代を除く全ての年代で5割を超えている。また、「平等」と感じている人の割合は、男女とも年代によって大きな差があり、60歳以上は男女とも2割以下となっている。

職　場

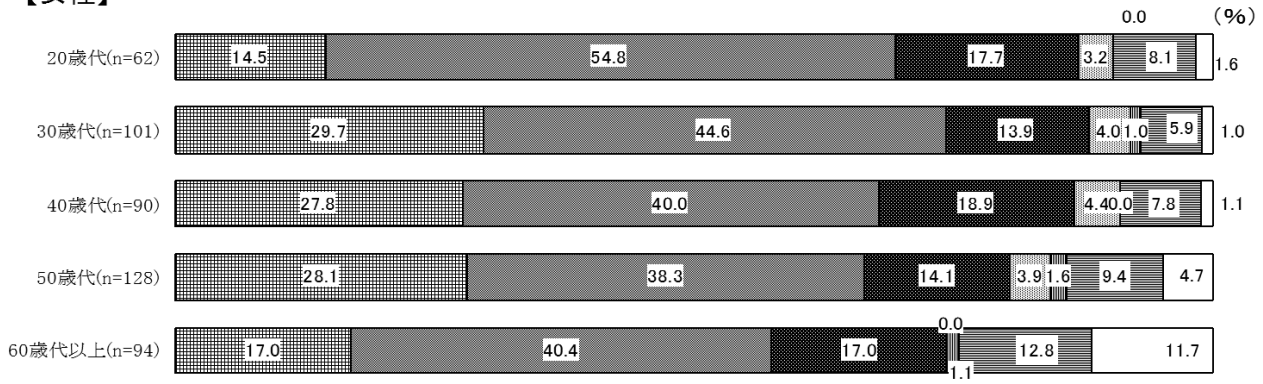
参　考　平成17年10月調査結果

【性　別】

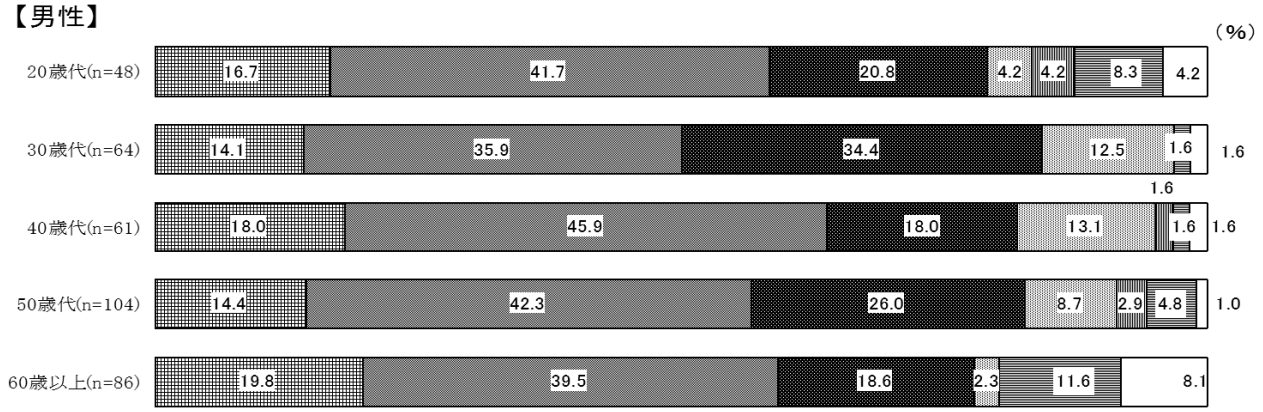


【性・年齢別】

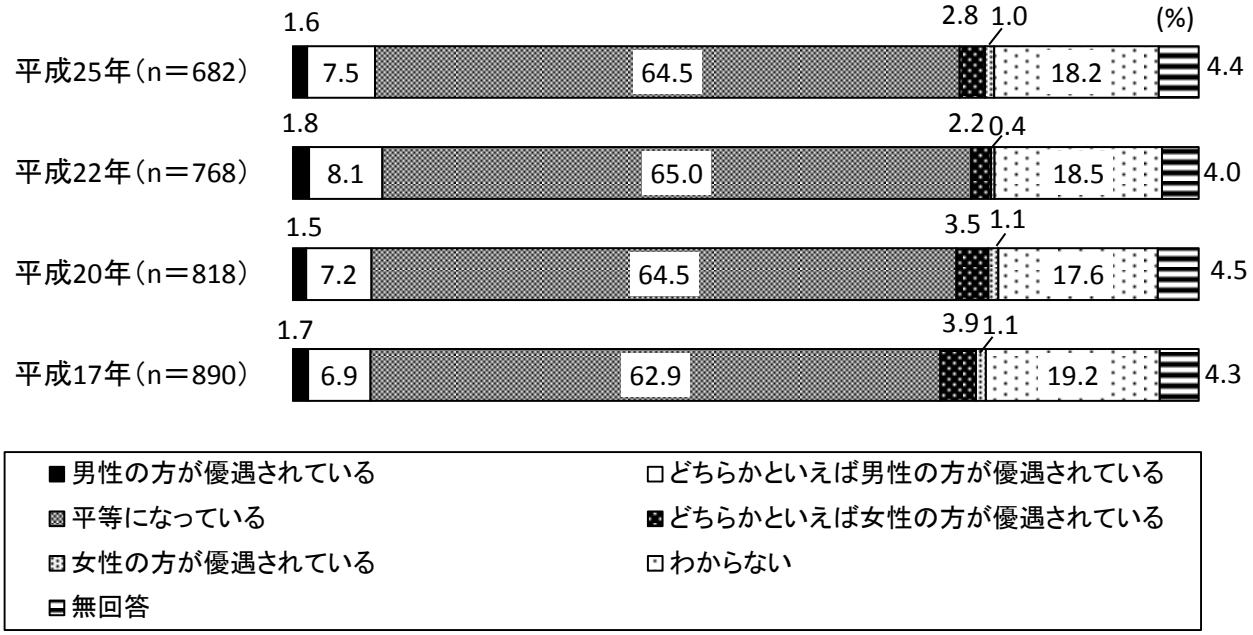
【女性】



【男性】



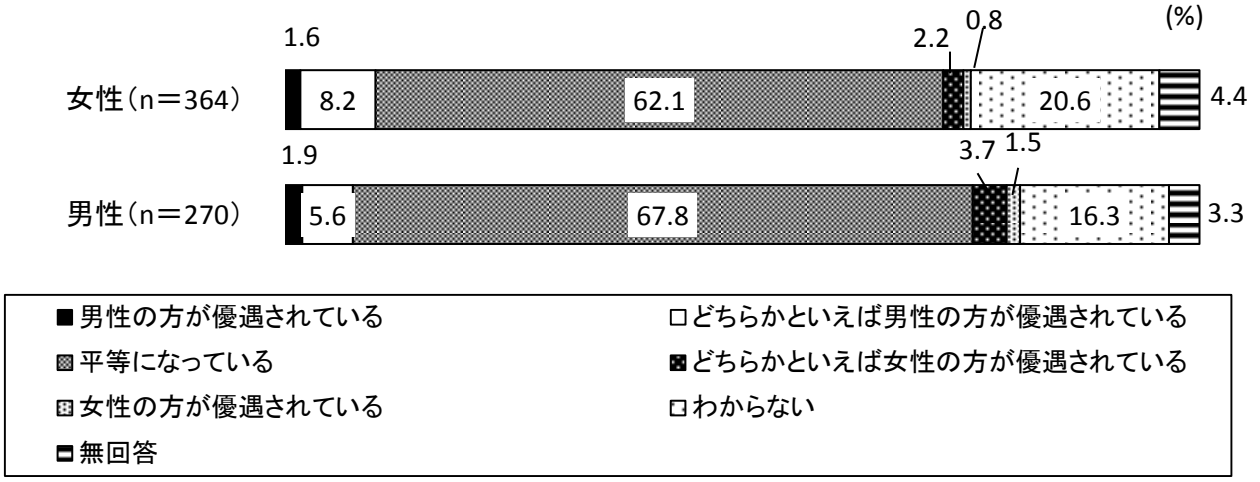
（3）学校教育
【全　体】



○内閣府（H24.10）「平等」67.0%
○栃木県（H21.11）「平等になっている」50.9%
○佐野市（H24.11）「平等になっている」50.4%

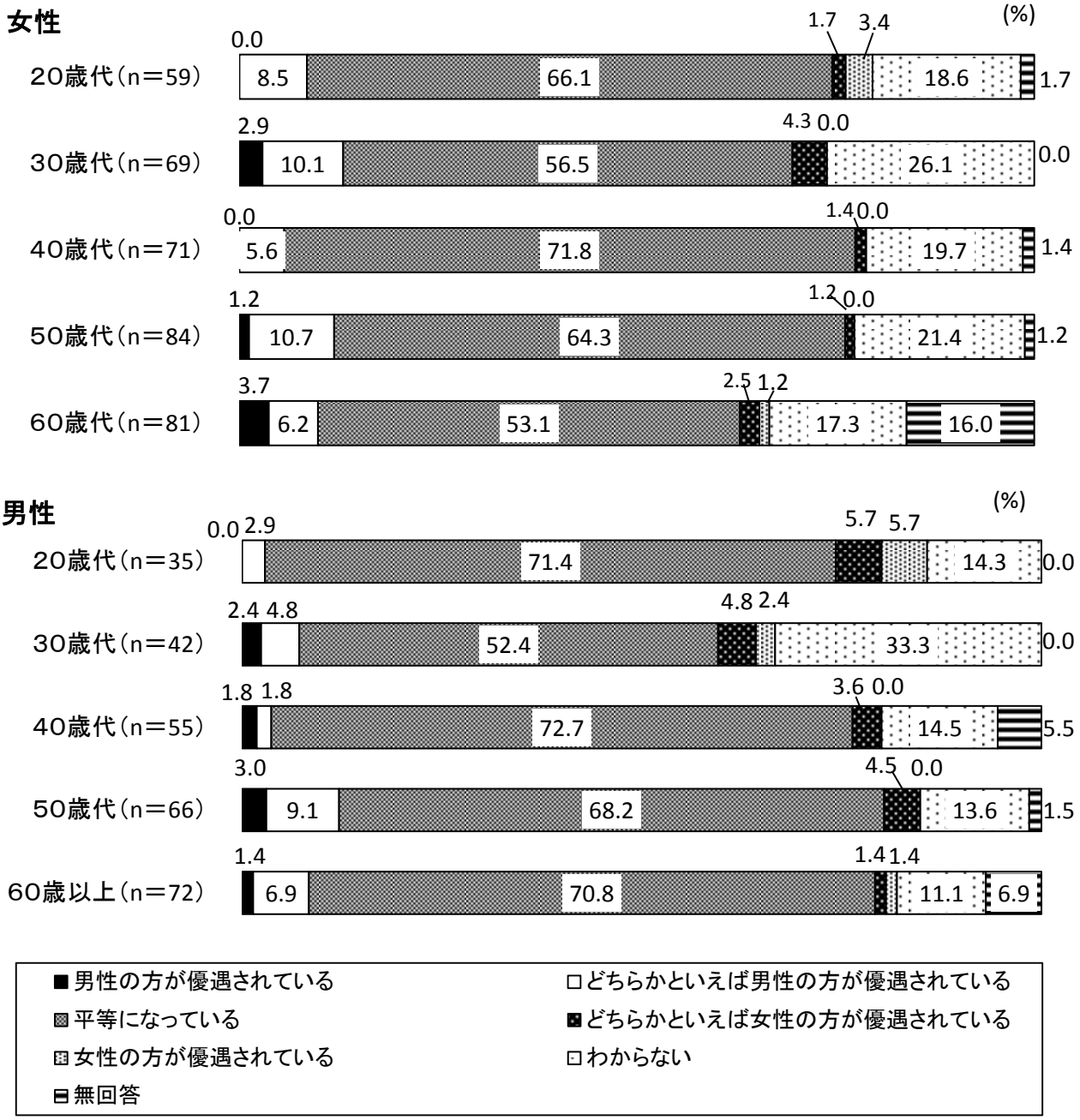
学校教育において「平等」と感じている人の割合は、64．5%と前回調査に比べ0．5ポイント少ないが、平成17年調査開始以降ほぼ横ばいである。

【性　別】



「平等」と感じている人の割合は、男性が67．8%であるのに対し、女性は5．7ポイント少ない62．1%となっており、どちらも平成17年調査からは増加している。

【性・年齢別】



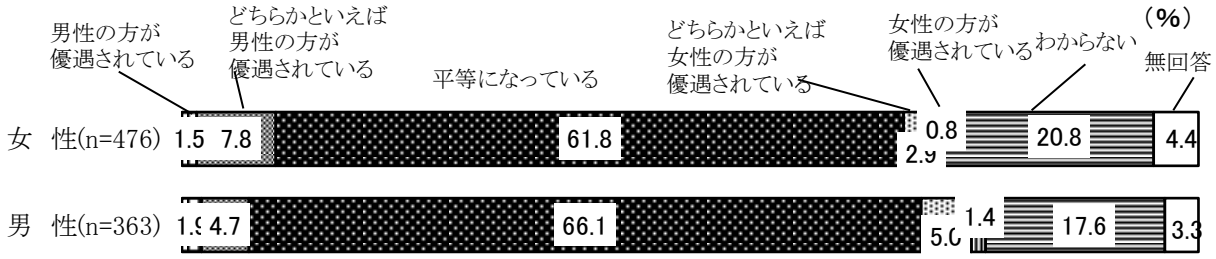
学校教育において、「平等」と感じている人の割合は平成17年調査と比べ、50歳代の女性と20・40・50歳代、60歳以上の男性で増加している。

これに対し、他の年代では減少しており、特に30歳代の男性で22．6ポイントと大きく減少している。

学校教育

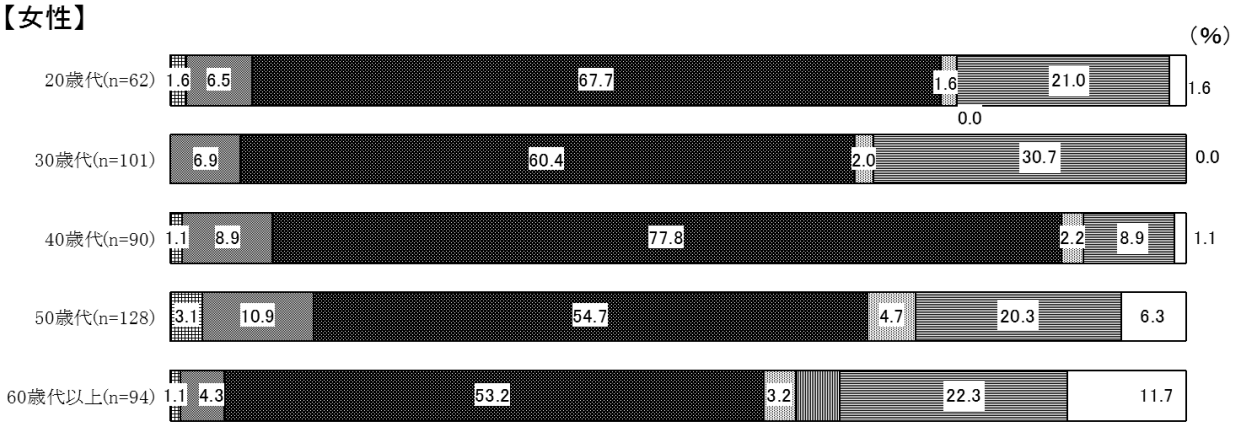
参　考　平成17年10月調査結果

【性　別】

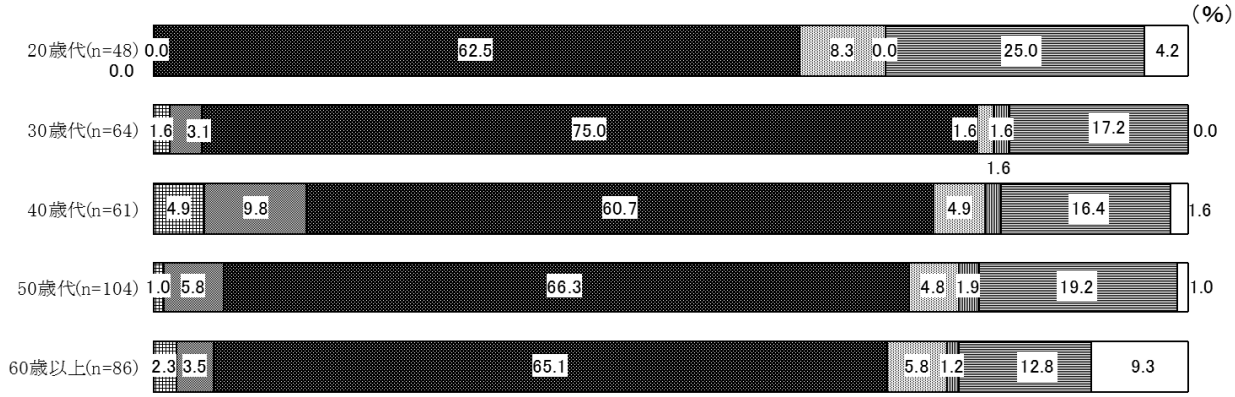


【性・年齢別】

【女性】

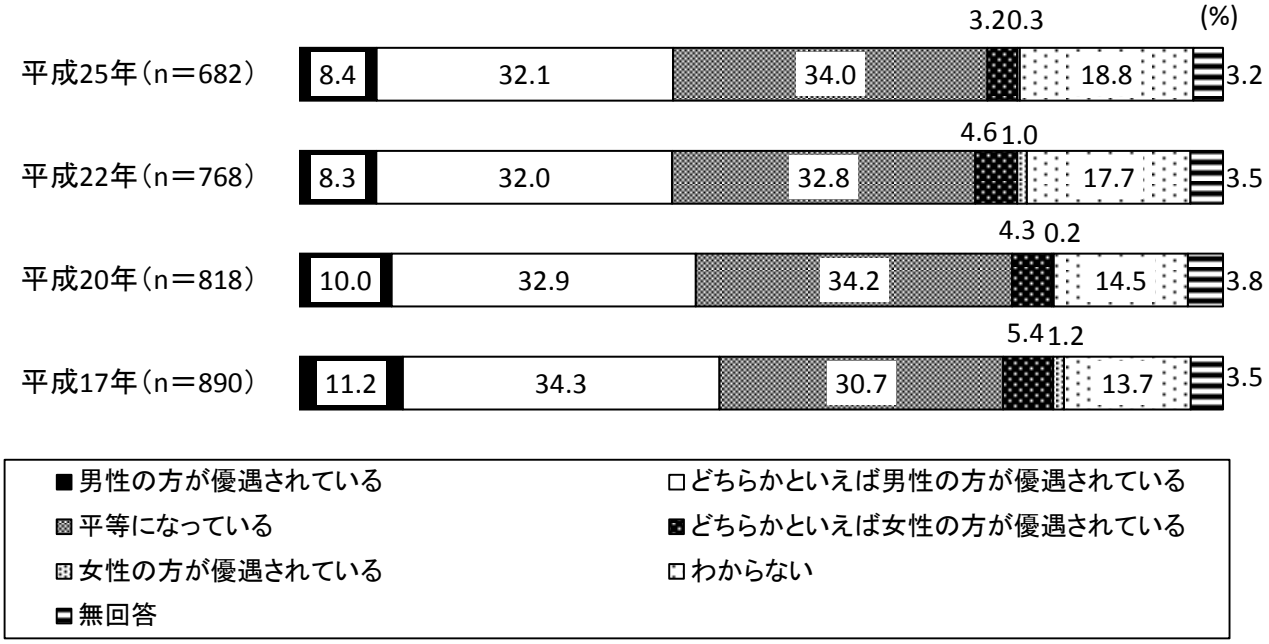


【男性】



（4）町内会や自治会などの地域社会

【全　体】



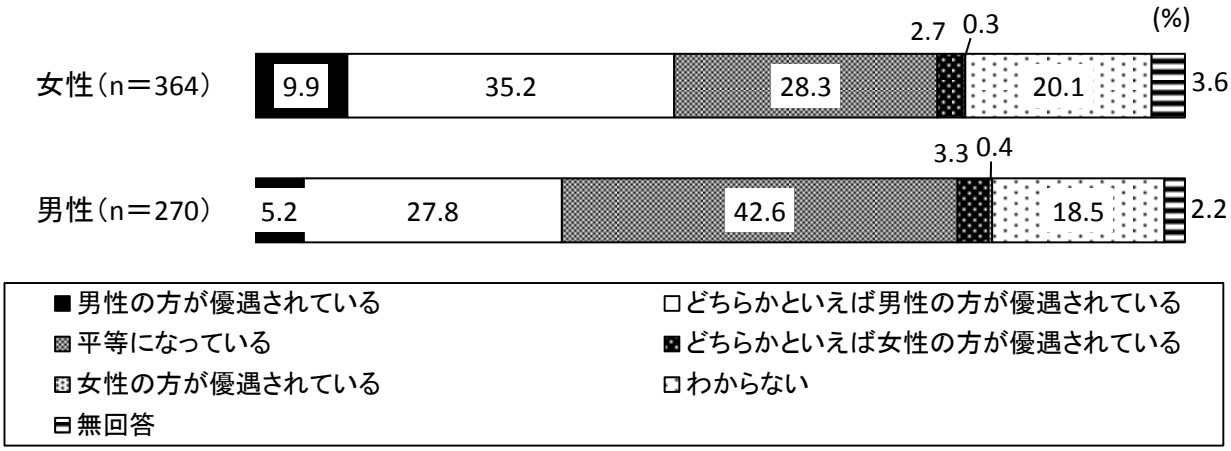
〇内閣府（H24.10）「平等」52.1%

〇佐野市（H24.11）「平等になっている」 32.4%

〇栃木県（H21.11）「平等になっている」27.7%

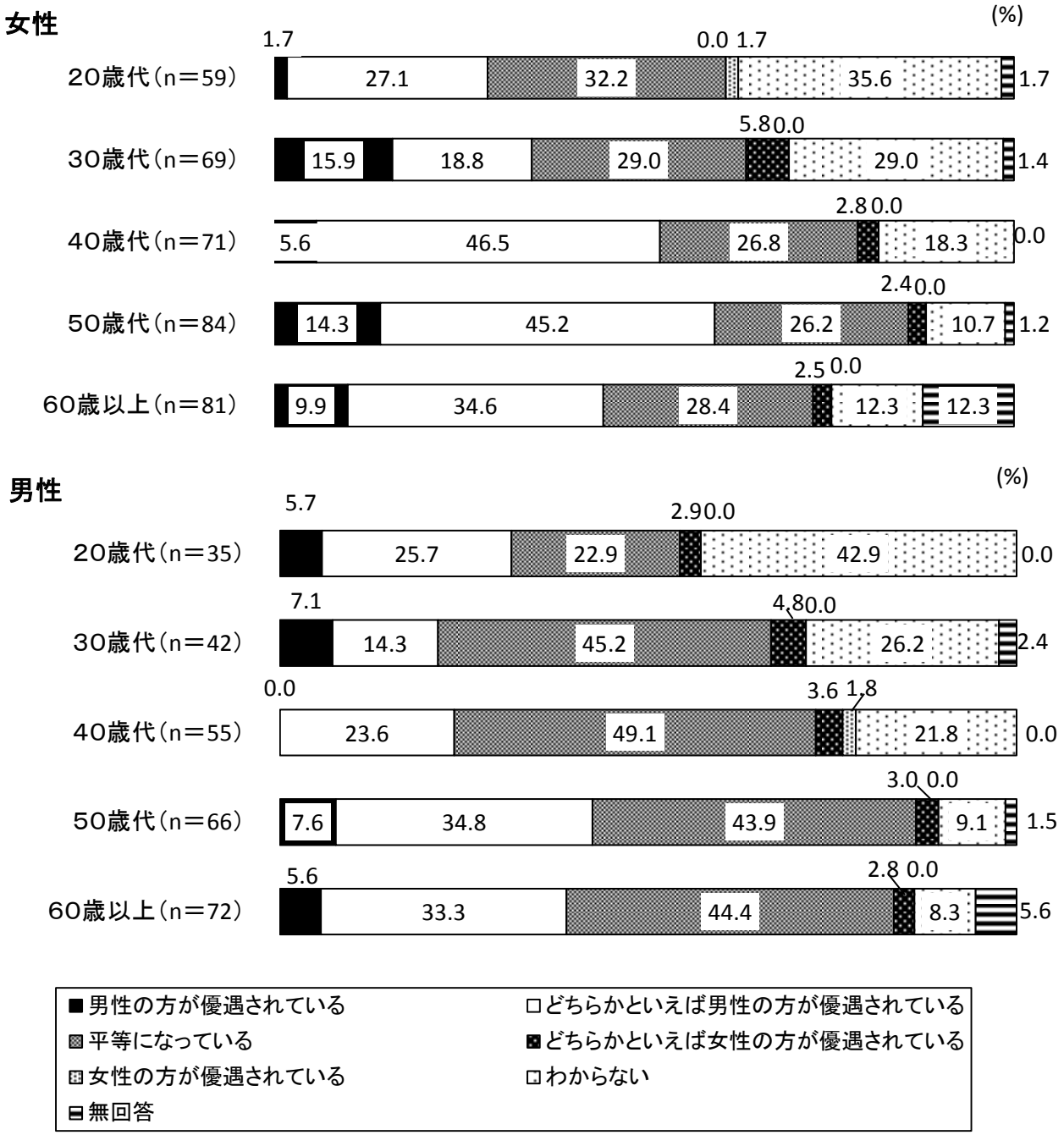
地域社会において、「平等」と感じている人の割合は、34．0%と平成17年調査から3．3ポイント増加している。これに対し、「男性が優遇（計）」は40．5%と平成17年調査から5ポイント減少している。

【性　別】



「平等」と感じている人の割合は、女性が28．3%であるのに対し、男性は14．3ポイント多い42．6%となっており、どちらも平成17年調査からは増加している。

【性・年齢別】

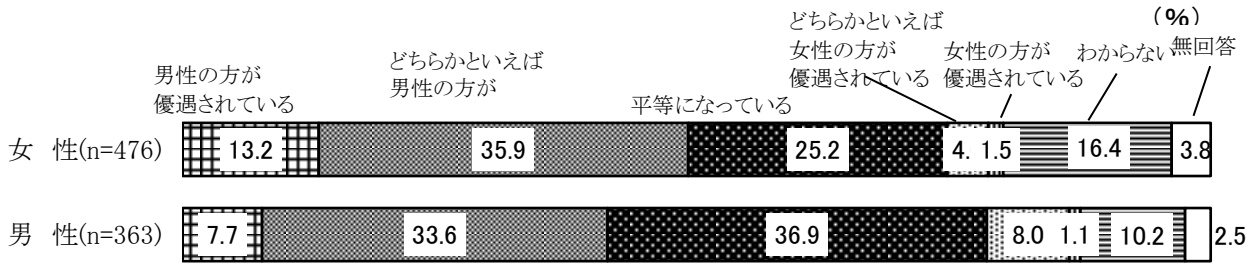


地域社会において、「平等」と感じている人の割合で平成25年と17年調査を比べると、女性は60歳以上を除く全ての年代、男性は40・50歳代、60歳以上で増加し、特に30歳代の女性で9．2ポイント、50歳代の男性で14．1ポイント増加している。これに対し、20歳代の男性は12．5ポイント減少しており、年代による差が大きい。

地域社会

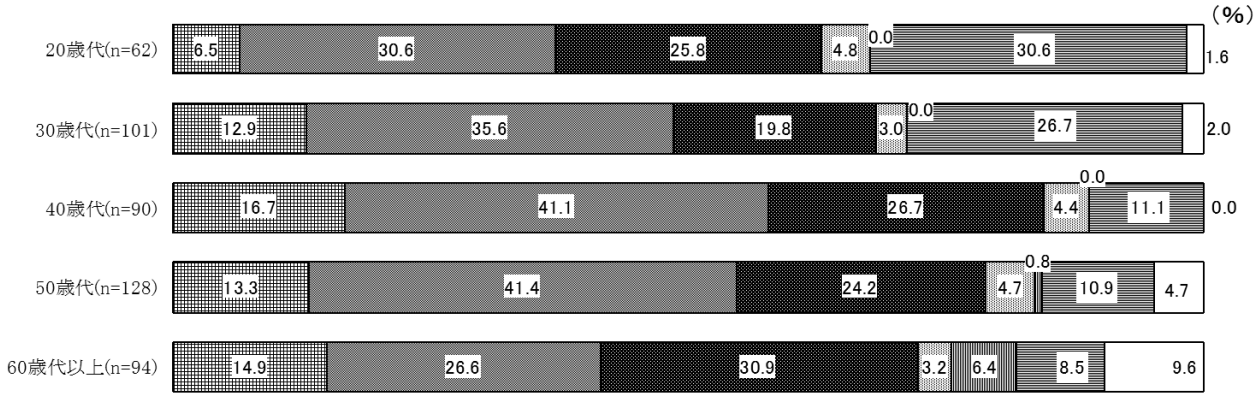
参　考　平成17年10月調査結果

【性　別】

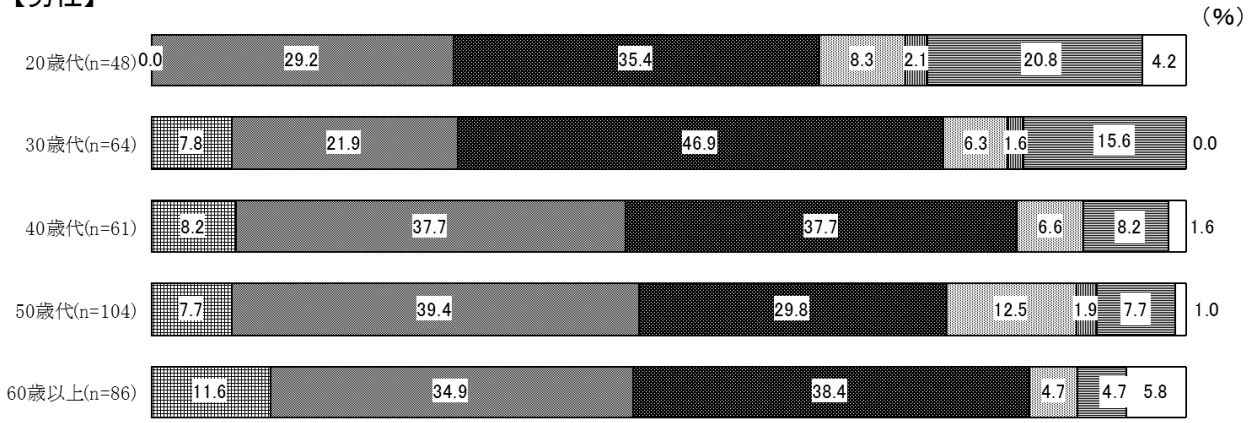


【性・年齢別】

【女性】

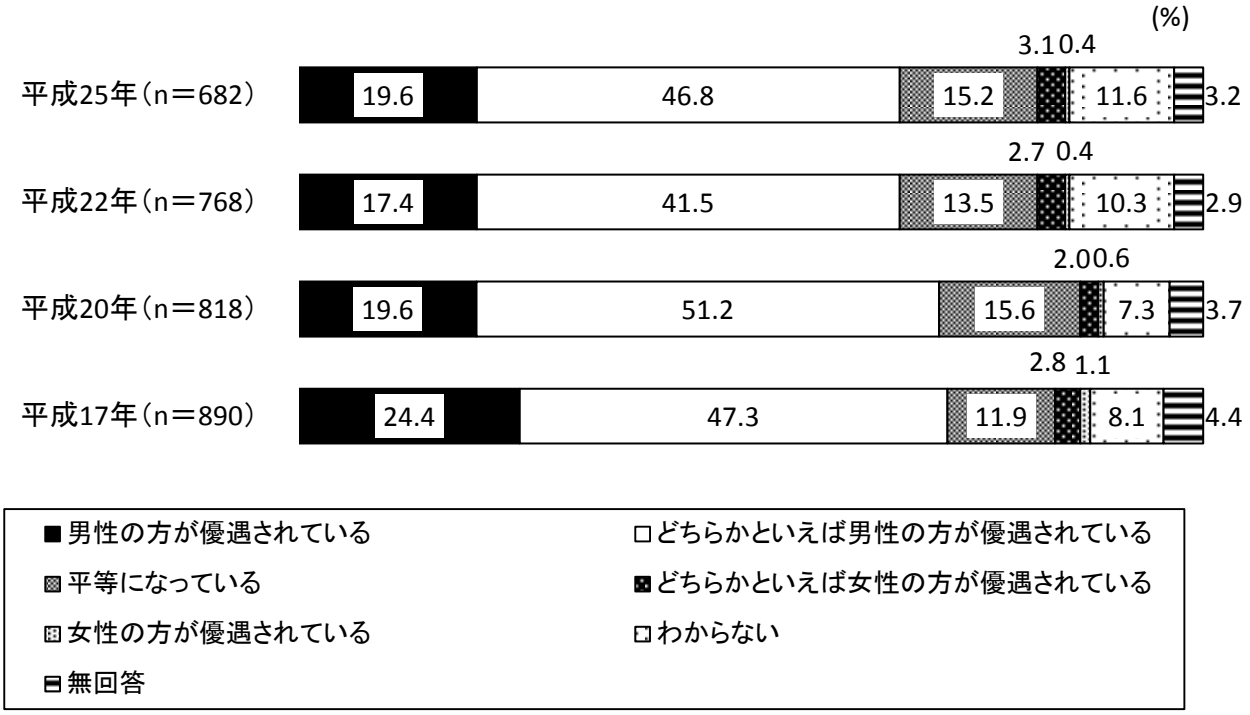


【男性】



（5）社会通念・慣習・しきたり

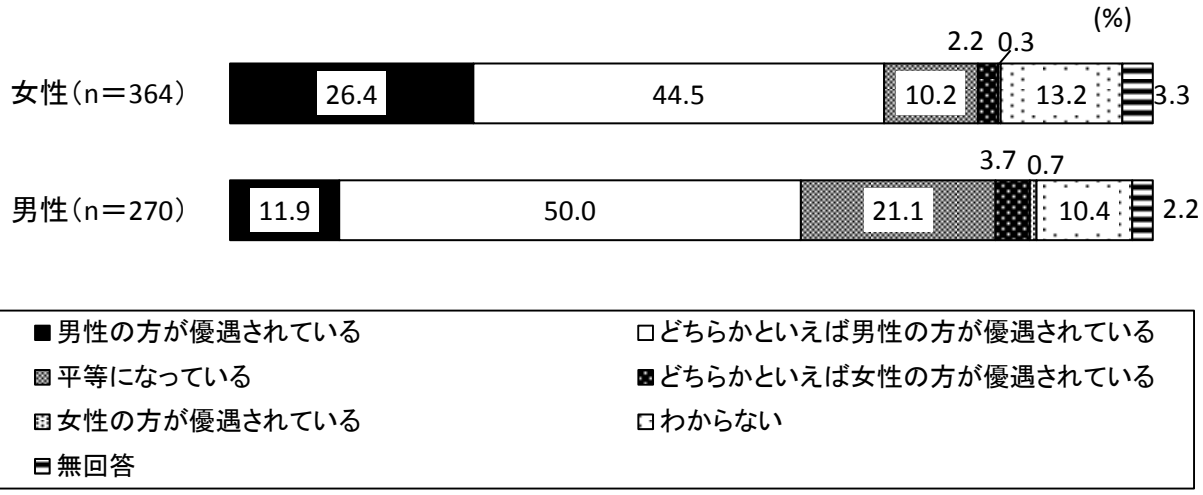
【全　体】



○内閣府（H24.10）「平等」21.4%
○栃木県（H21.11）「平等になっている」12.4%
○佐野市（H24.11）「平等になっている」19.3%

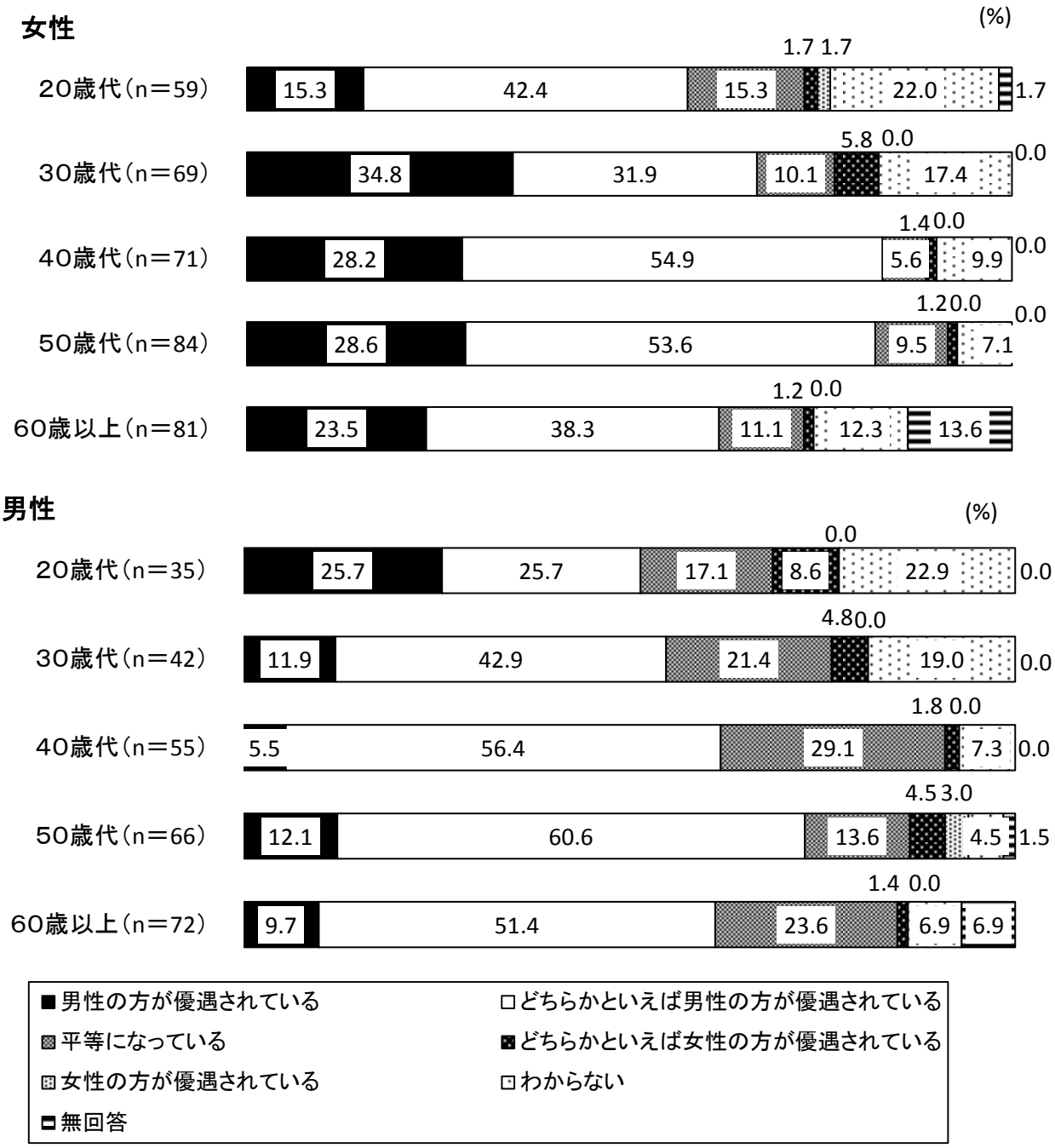
社会通念・慣習・しきたりにおいて「平等」と感じている人の割合は、平成17年調査に比べ3．3ポイント増加している。これに対し、「男性が優遇（計）」は、66．4%と平成17年調査から5．3ポイント減少している。

【性　別】



「平等」と感じている人の割合は、女性が10．2%であるのに対し、男性は10．9ポイント多い21．1%となっており、どちらも平成17年調査からは増加している。特に男性は、6．5ポイント増加と女性に比べ増加が大きい。

【性・年齢別】

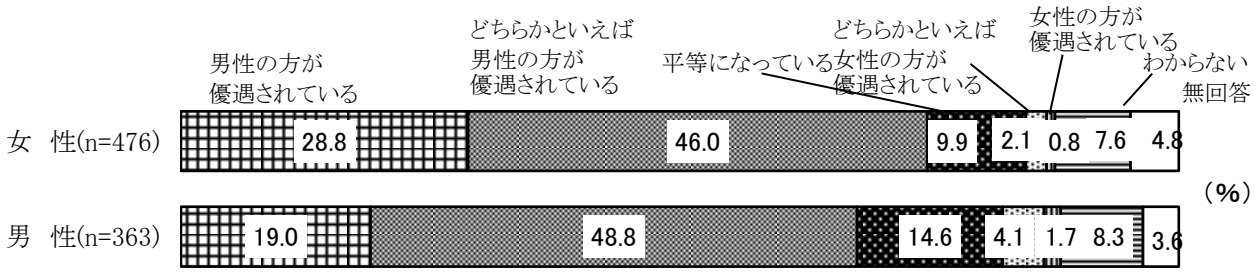


社会通念・慣習・しきたりにおいて、「平等」と感じている人の割合で男性は全ての年代で10％を超えているが、女性は40・50歳代で10％を下回っている。これに対し「男性が優遇（計）」は、女性の40・50歳代で8割を超えており、男性の50歳代では72．7％とそれぞれ高い割合になっている。

社会通念・慣習・しきたり

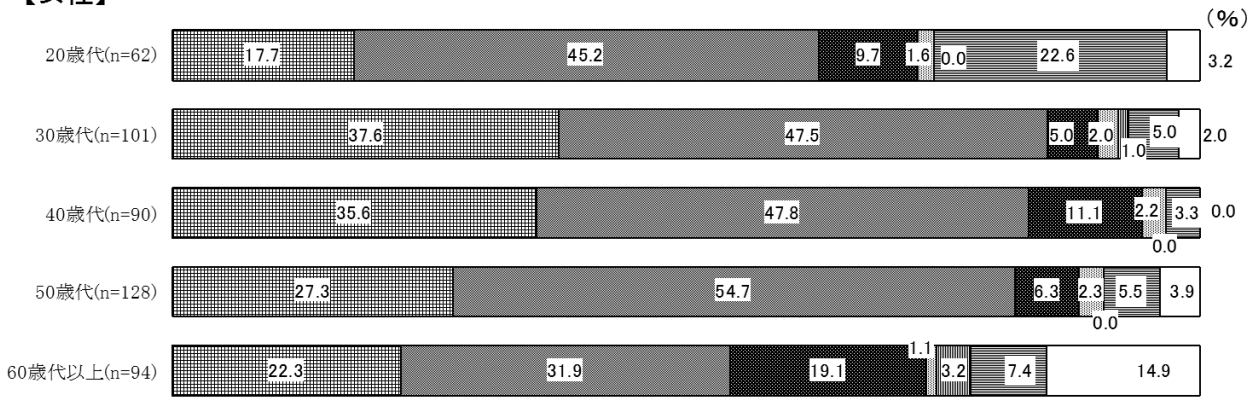
参　考　平成17年10月調査結果

【性 別】

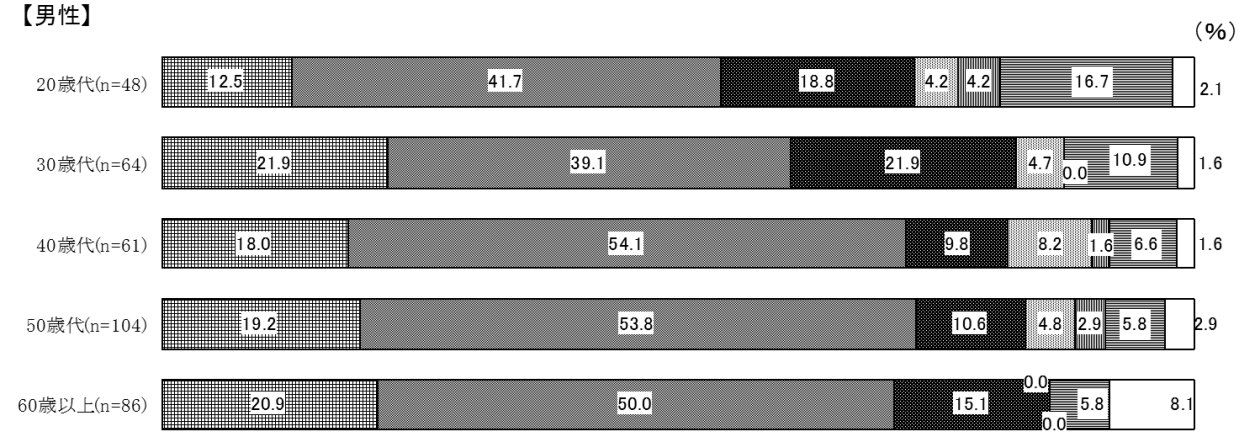


【性・年齢別】

【女性】

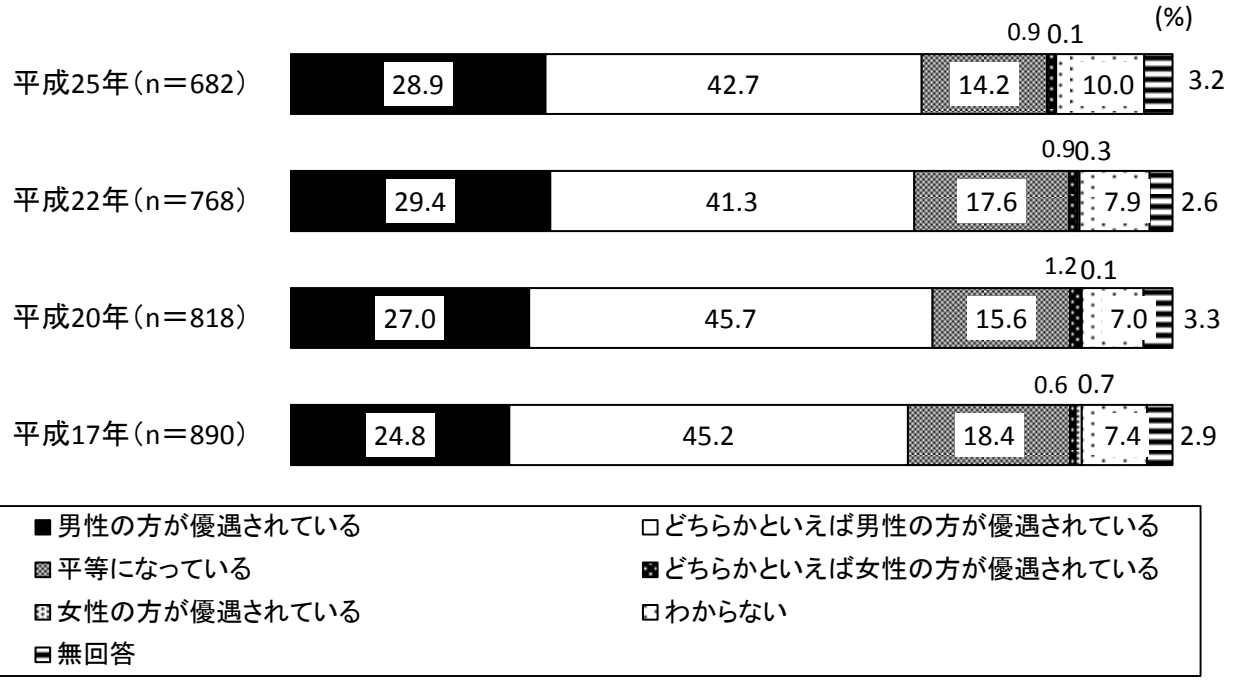


【男性】



（6）政治の場

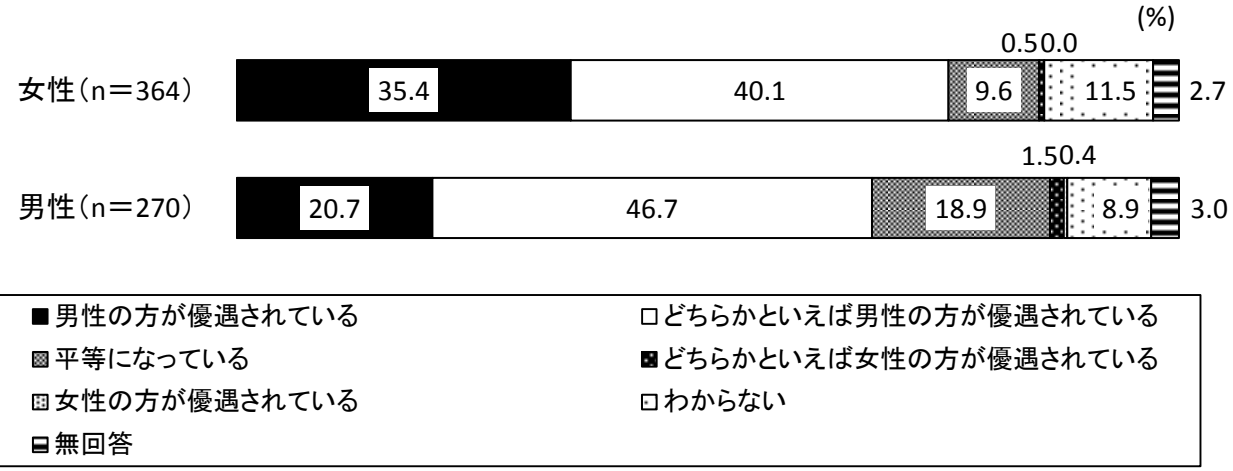
【全　体】



〇内閣府（H24.10）「平等」18.6%
〇栃木県（H21.11）「平等になっている」18.0%
〇佐野市（H24.11）「平等になっている」17.3%

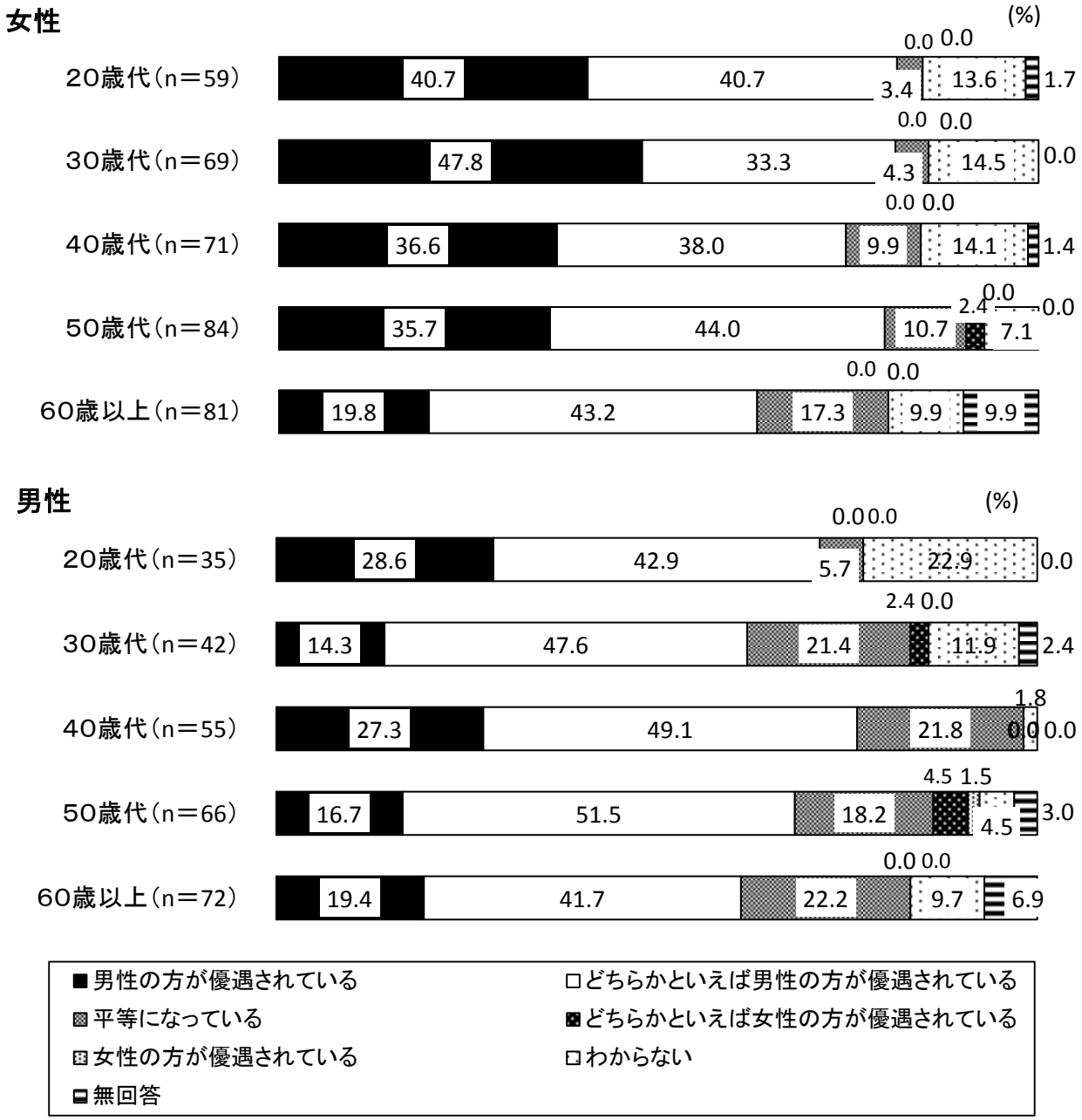
政治の場において「平等」と感じている人の割合は、14．2%と平成17年調査に比べ4．2ポイント減少している。一方で「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合は、平成17年調査から4．1ポイント増加している。

【性　別】



「平等」と感じている人の割合は、女性が9．6%であるのに対し、男性は9．3ポイント多い18．9%となっており、平成17年調査と比べ男女差が広がっている。

【性・年齢別】

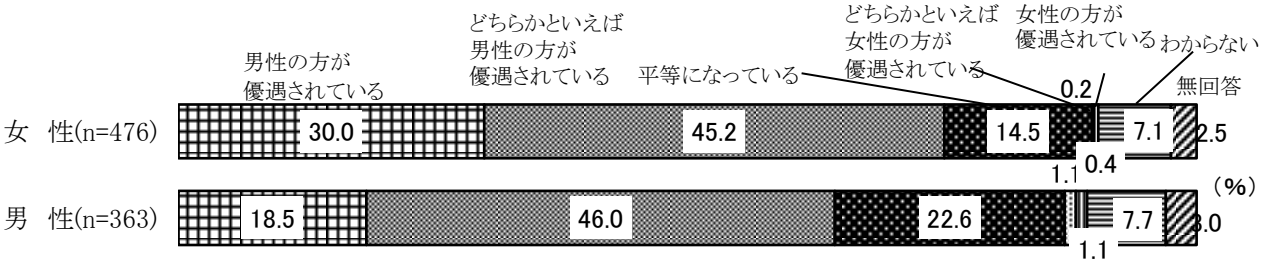


政治の場において、「平等」と感じている人の割合が最も高い年代は、男女ともに60歳以上であり、60歳以上の女性は17．3%、60歳以上の男性は22．2%となっている。これに対し、最も低い年代は、男女とも20歳代であり、若い世代のほうが政治の場において男女差を感じている傾向にある。

政治の場

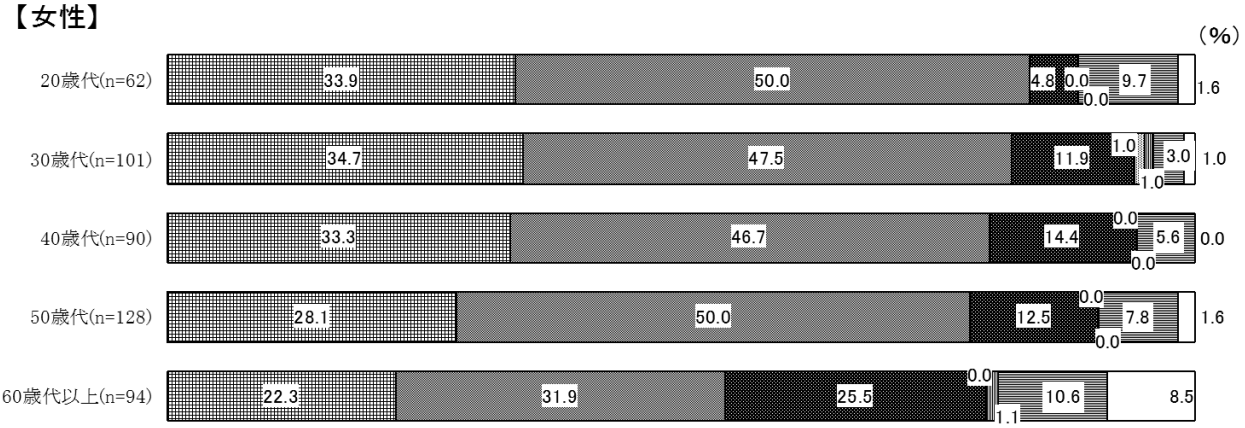
参　考　平成17年10月調査結果

【性　別】

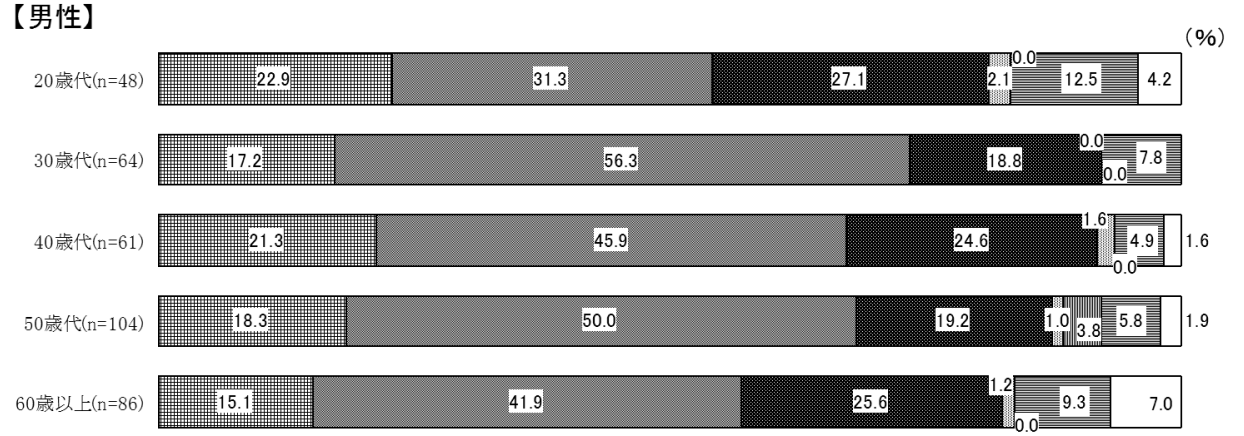


【性・年齢別】

【女性】

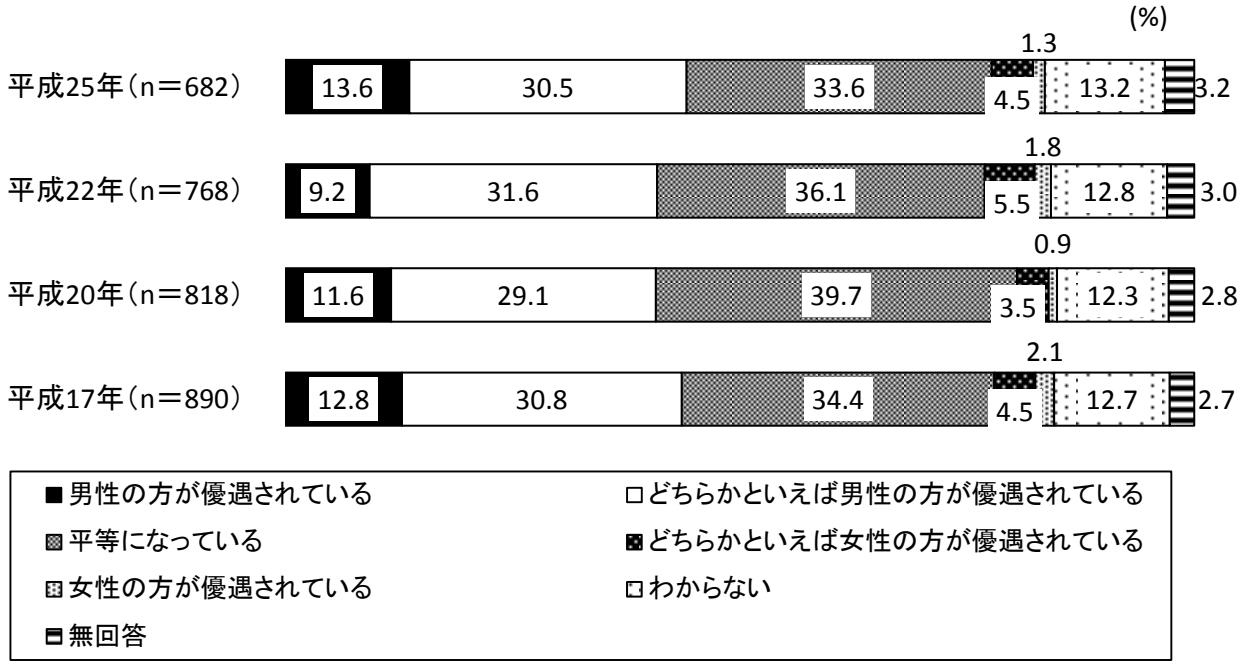


【男性】



（7）法律や制度

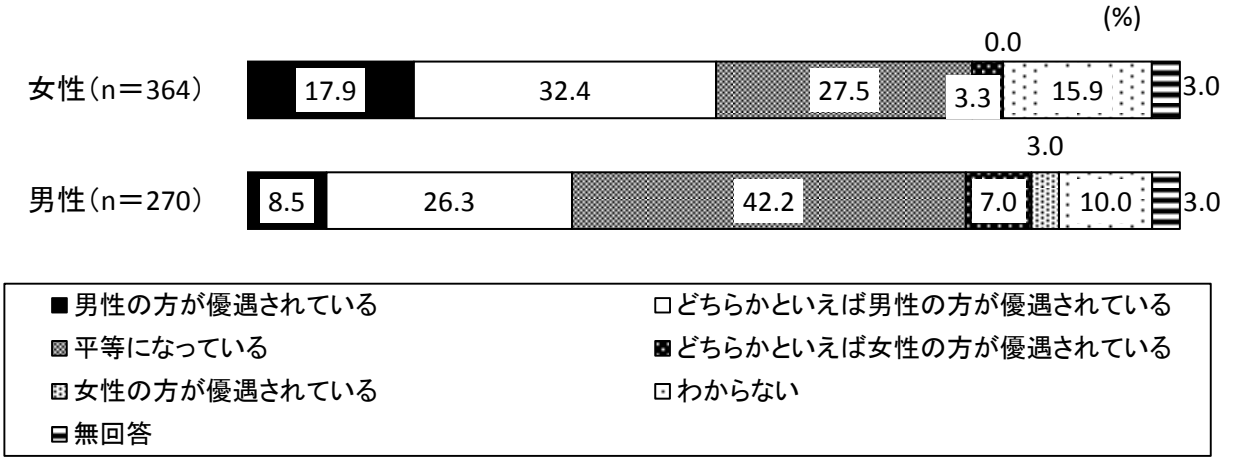
【全　体】



○内閣府（H24.10）「平等」45.4%
○栃木県（H21.11）「平等になっている」33.3%
○佐野市（H24.11）「平等になっている」36.7%

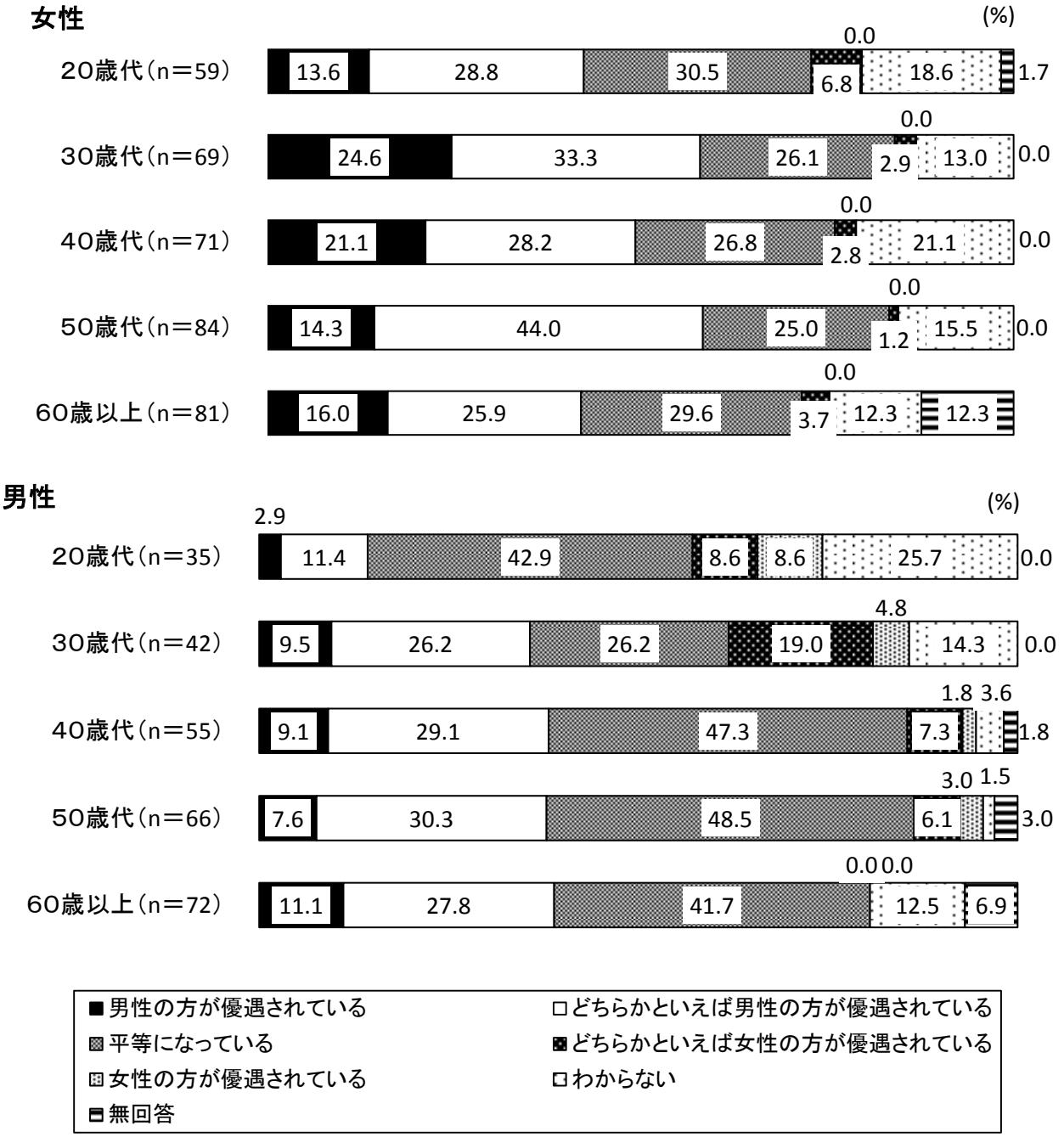
法律や制度において「平等」と感じている人の割合は、33．6%と最も高かった平成20年調査から6．1ポイント減少している。これに対し、「男性が優遇（計）」は、44．1%と前回調査に比べて3．3ポイント増加している。

【性　別】



「平等」と感じている人の割合は、女性が27．5%であるのに対し、男性は14．7ポイント多い42．2%となっている。また、平成17年調査と比べると「平等」と感じている男性が3．3ポイント減少している。

【性・年齢別】

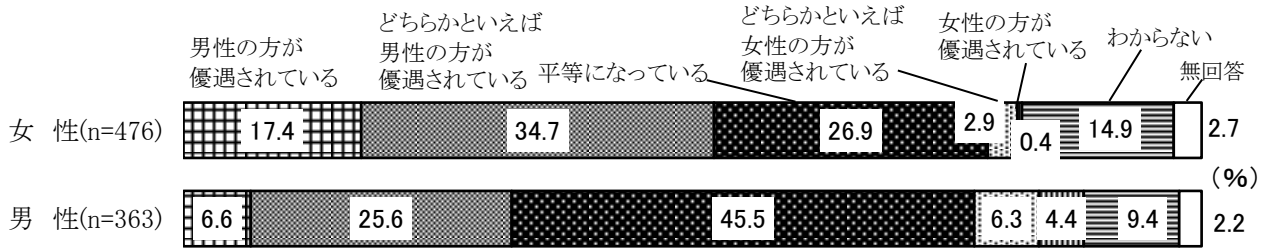


法律や制度において、「平等」と感じている人の割合は、女性が平成17年調査と比べて20・30・40歳代で増加傾向にあり、特に20歳代は6．3ポイント増加している。一方で、男性の30歳代は、平成17年調査から22．2ポイントと大きく減少している。

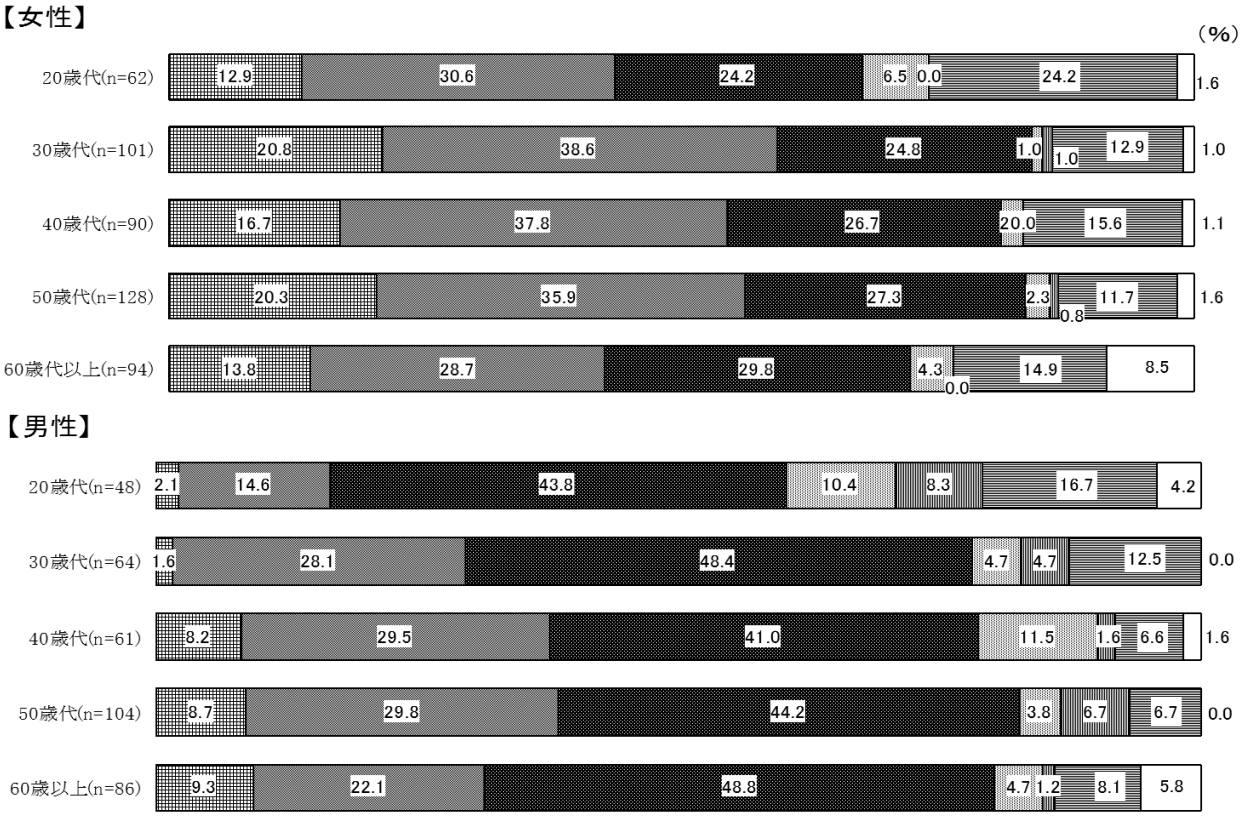
法律や制度

参　考　平成17年10月調査結果

【性　別】

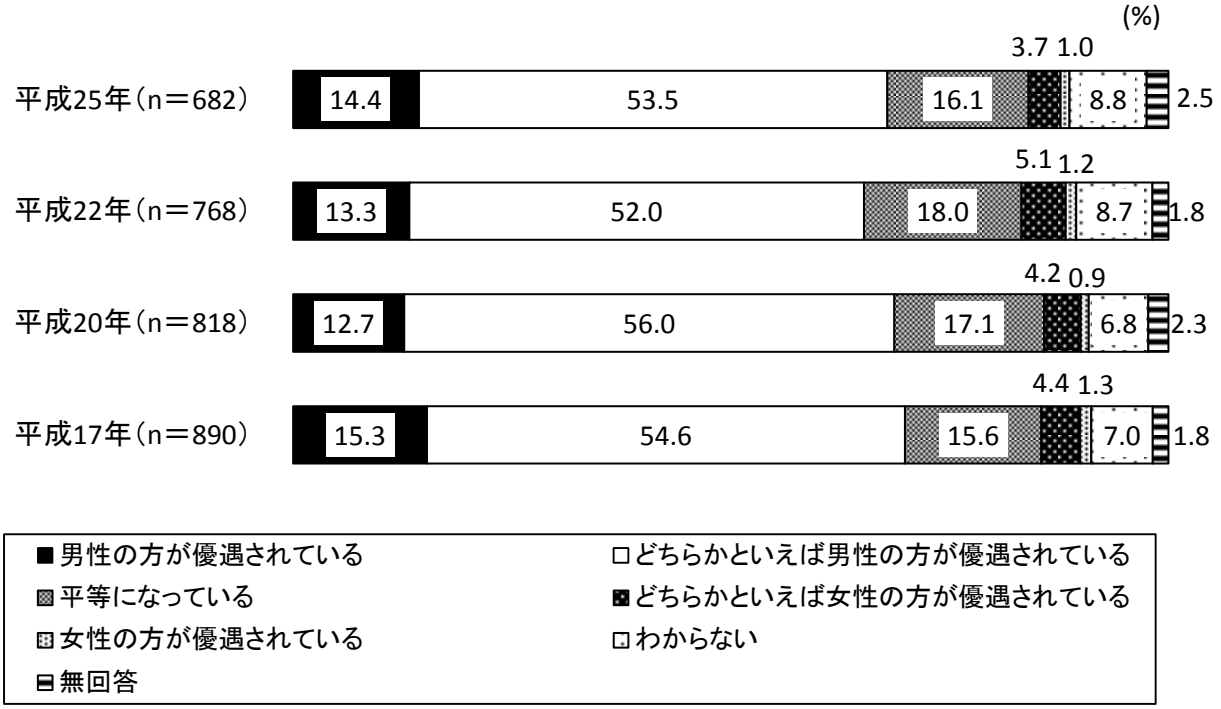


【性・年齢別】



（8）社会全体

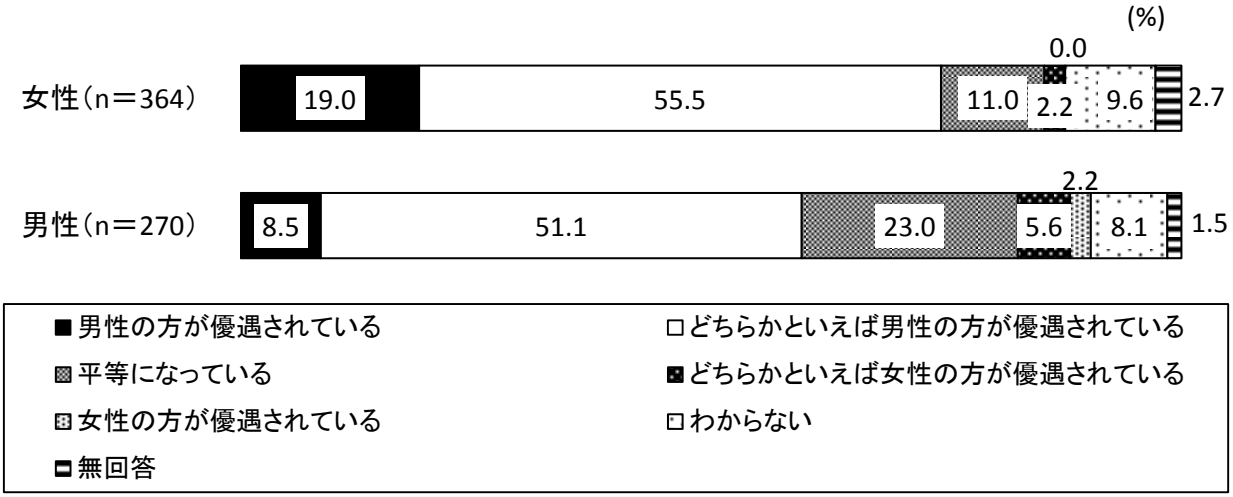
【全　体】



〇内閣府（H24.10）「平等」24.6%
〇栃木県（H21.11）「平等になっている」18.5%
〇佐野市（H24.11）「平等になっている」21.7%

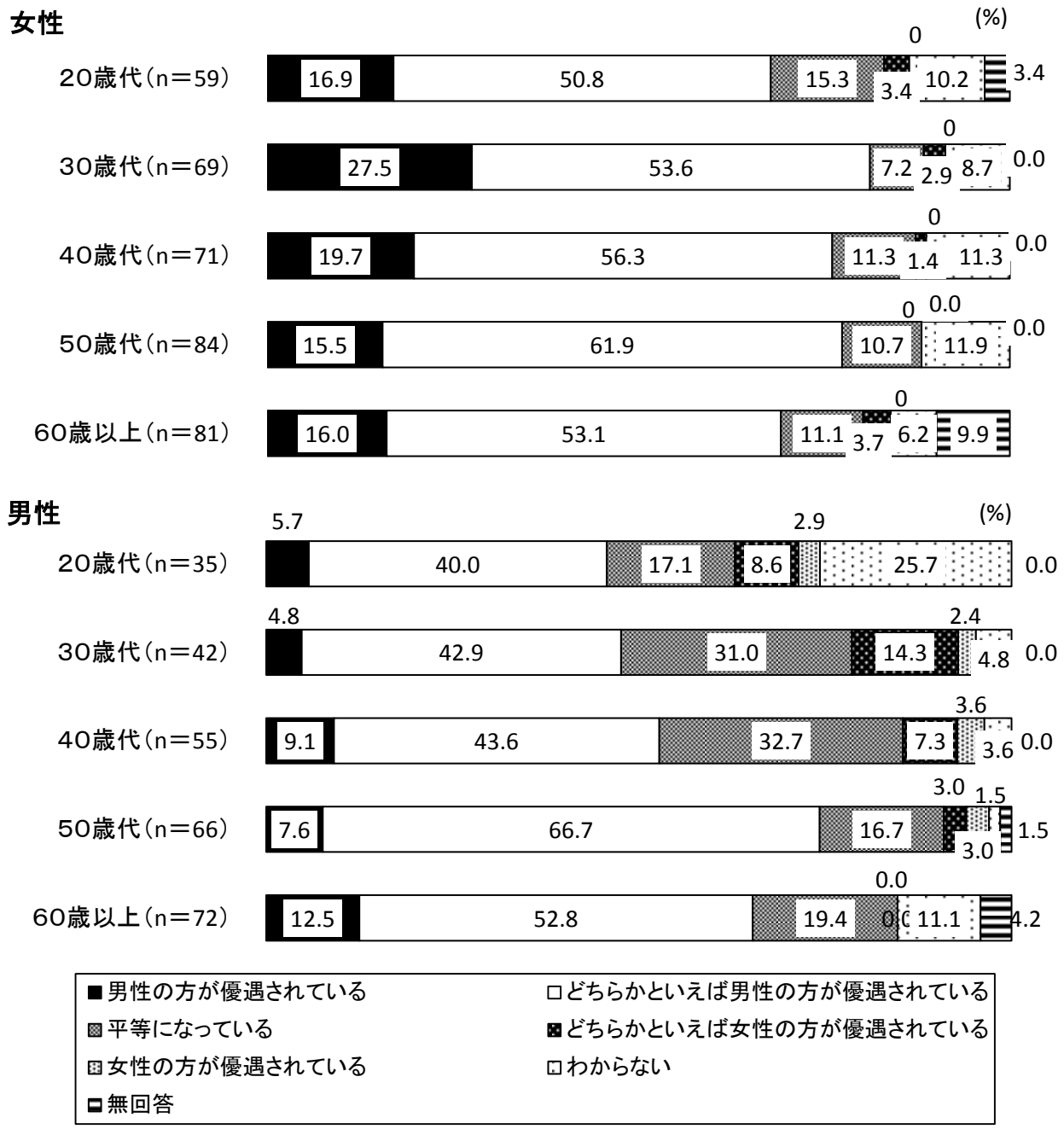
社会全体において「平等」と感じている人の割合は、前回調査に比べ１．９ポイント減少している。また、「男性が優遇（計）」と感じている人の割合は、６７．９%と平成１７年調査開始から依然として高い。

【性　別】



「平等」と感じている人の割合は、女性が１１．０%であるのに対し、男性は１２ポイント多い２３．０%となっている。また平成１７年調査と比べると、「平等」と感じる女性が２．４ポイント減少している一方、男性は４．５ポイント増加している。

【性・年齢別】

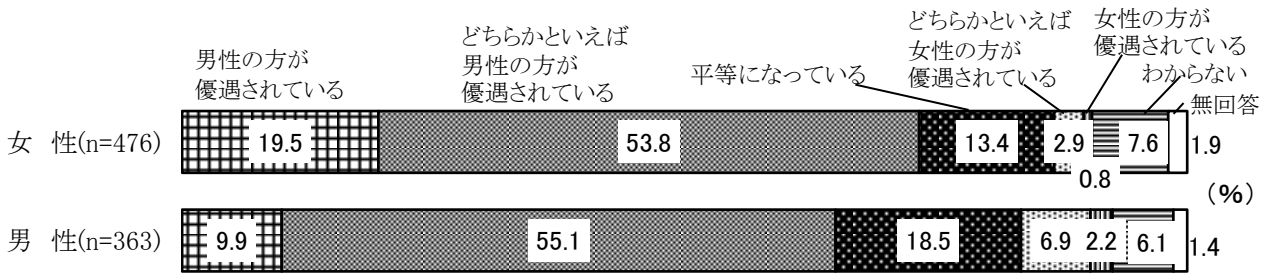


社会全体において、「平等」と感じている人の割合で、女性は平成17年調査と比べ30・40歳代、60歳以上で減少しており、特に60歳以上は11．2ポイント減少している。これに対し、「平等」と感じている男性は、20歳代を除く全ての年代で増加しており、男女間に差がある。

社会全体

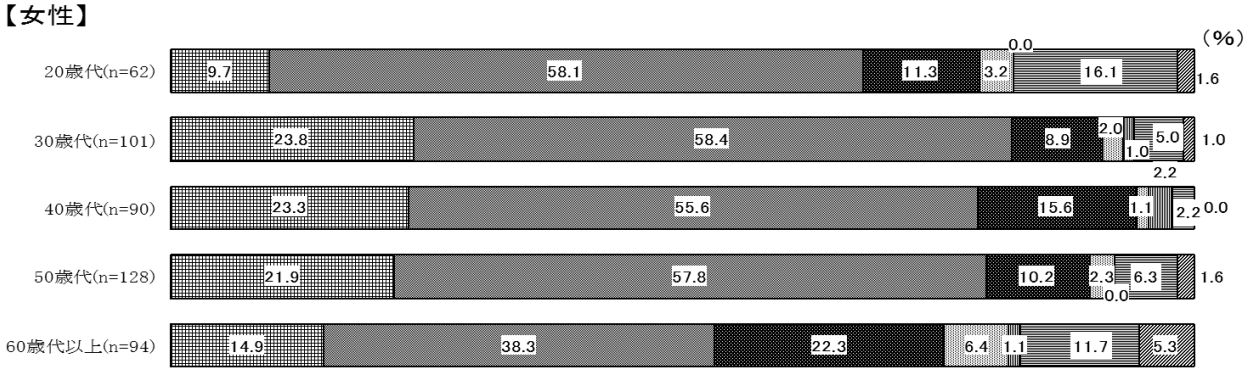
参　考　平成17年10月調査結果

【性　別】

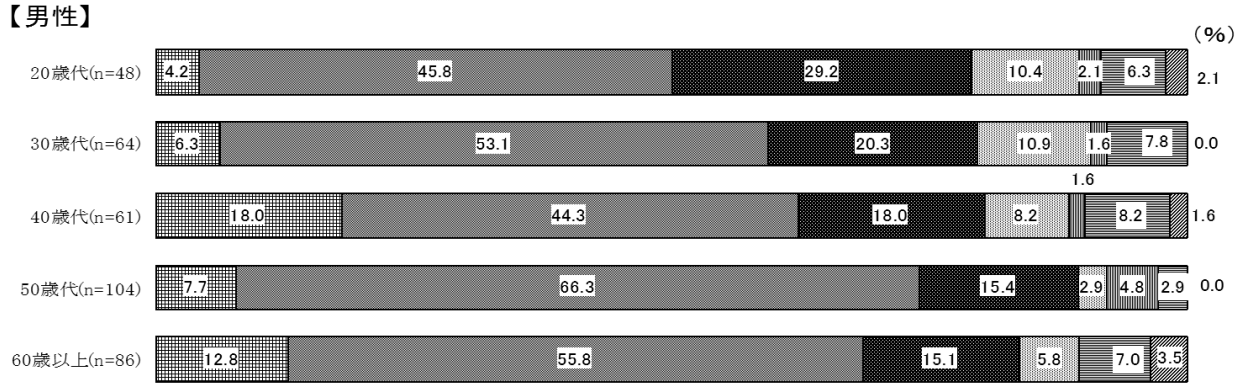


【性・年齢別】

【女性】

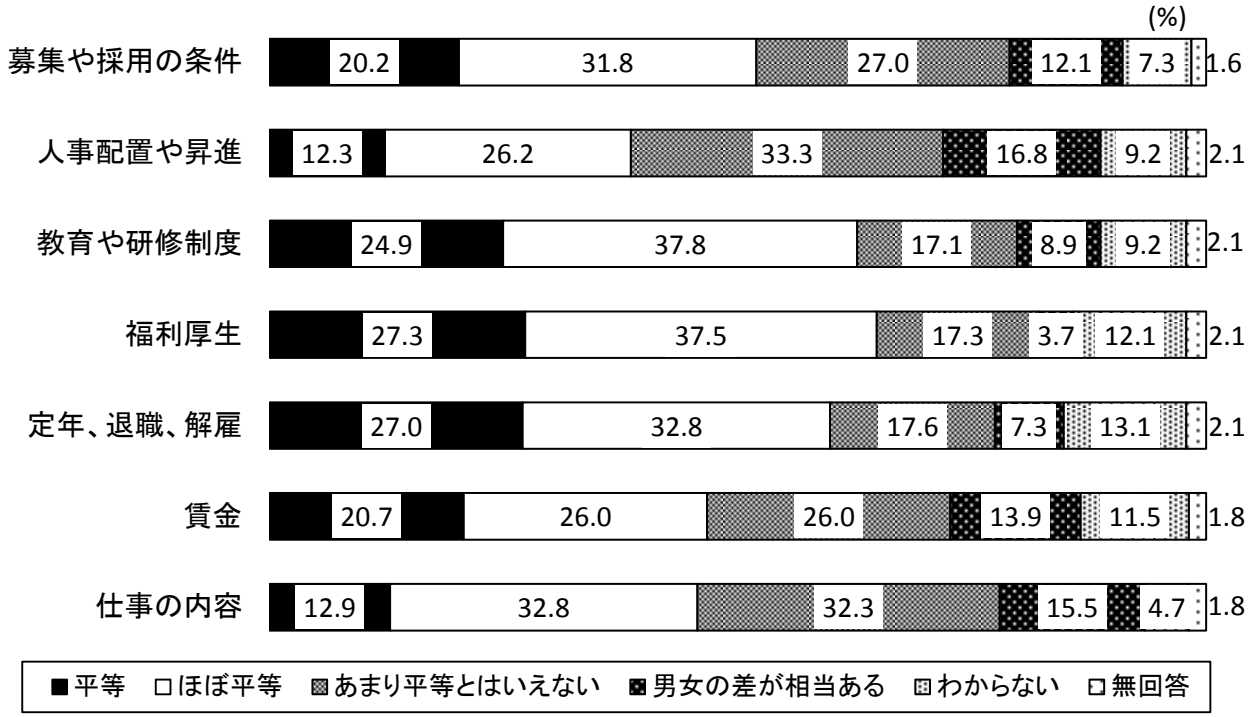


【男性】



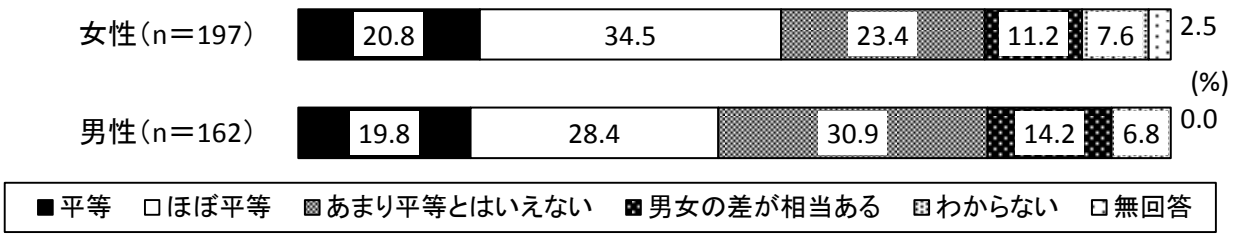
［2］ 職場における男女平等

問2 勤め人の方におたずねします。（1ページの職業が 4．及び 5．の方）
あなたの職場では、次の（1）～（7）のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。
それぞれについて1つずつお選びください。（○は1つずつ）



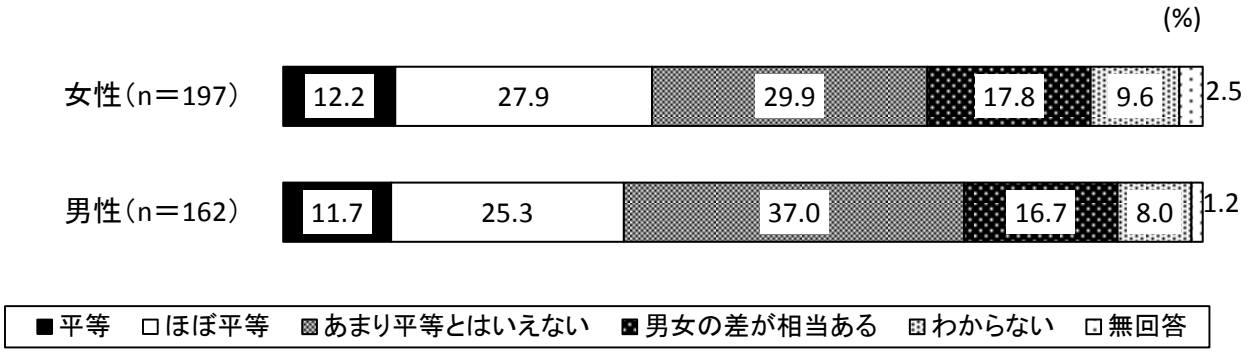
職場での男女平等について、「平等」、「ほぼ平等」と感じている人の割合は、「人事配置や昇進」、「賃金」、「仕事の内容」以外の項目で5割を超え、また、平成17年調査に比べ「福利厚生」、「仕事の内容」を除き増加している。
「あまり平等とはいえない」、「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合は、平成17年調査に比べ「募集や採用条件」、「福利厚生」、「定年・退職等」、「仕事の内容」の項目で増加している。

① 募集や採用の条件



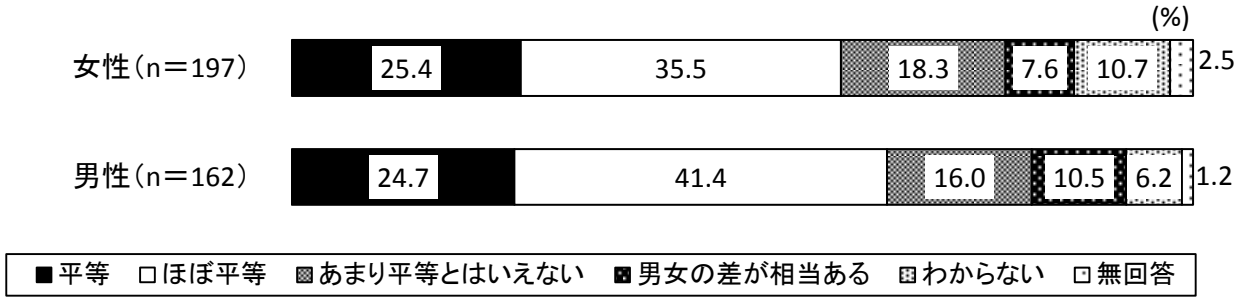
「平等」、「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性のほうが7．1ポイント多く、「あまり平等とはいえない」、「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合は、女性より男性のほうが10．5ポイント多い。

②人事配置や昇進



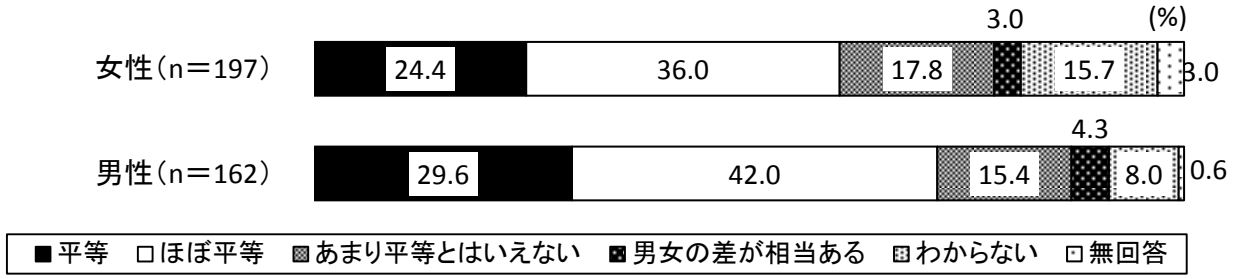
「平等」、「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男女差が3．1ポイントだが、「あまり平等とはいえない」、「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合は、女性より男性のほうが6ポイント多い。

③教育や研修制度



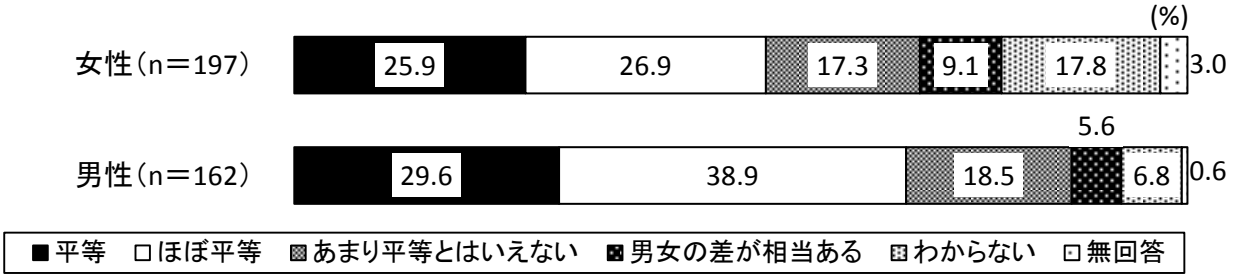
「平等」、「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、女性より男性のほうが5．2ポイント多く、「あまり平等とはいえない」、「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合も、女性より男性のほうが0．6ポイント多い。

④福利厚生



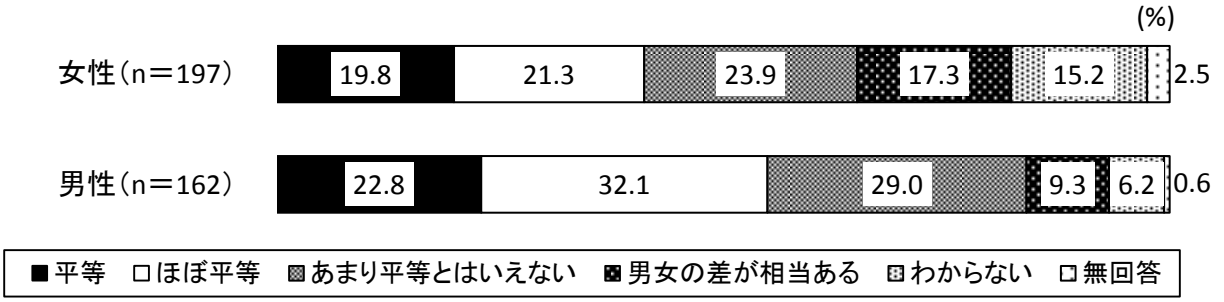
「平等」、「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、女性より男性のほうが11．2ポイント多く、「あまり平等とはいえない」、「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性のほうが1．1ポイント多いが、その差は小さい。

⑤定年・退職・解雇



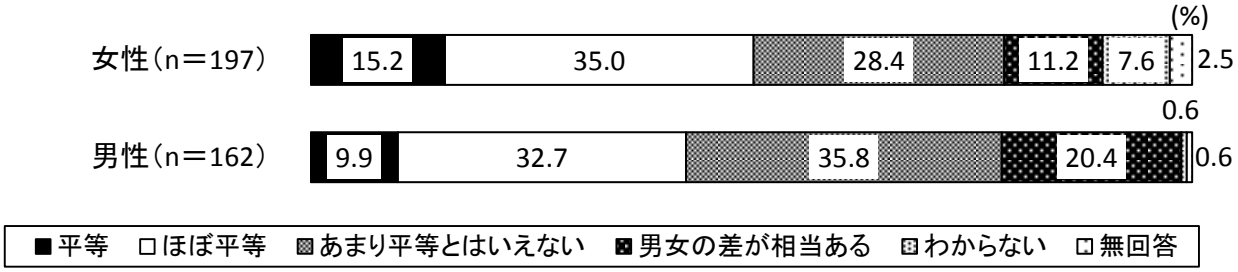
「平等」、「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、女性より男性のほうが15．7ポイント多く、「あまり平等とはいえない」、「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性のほうが2．3ポイント多い。

⑥賃金



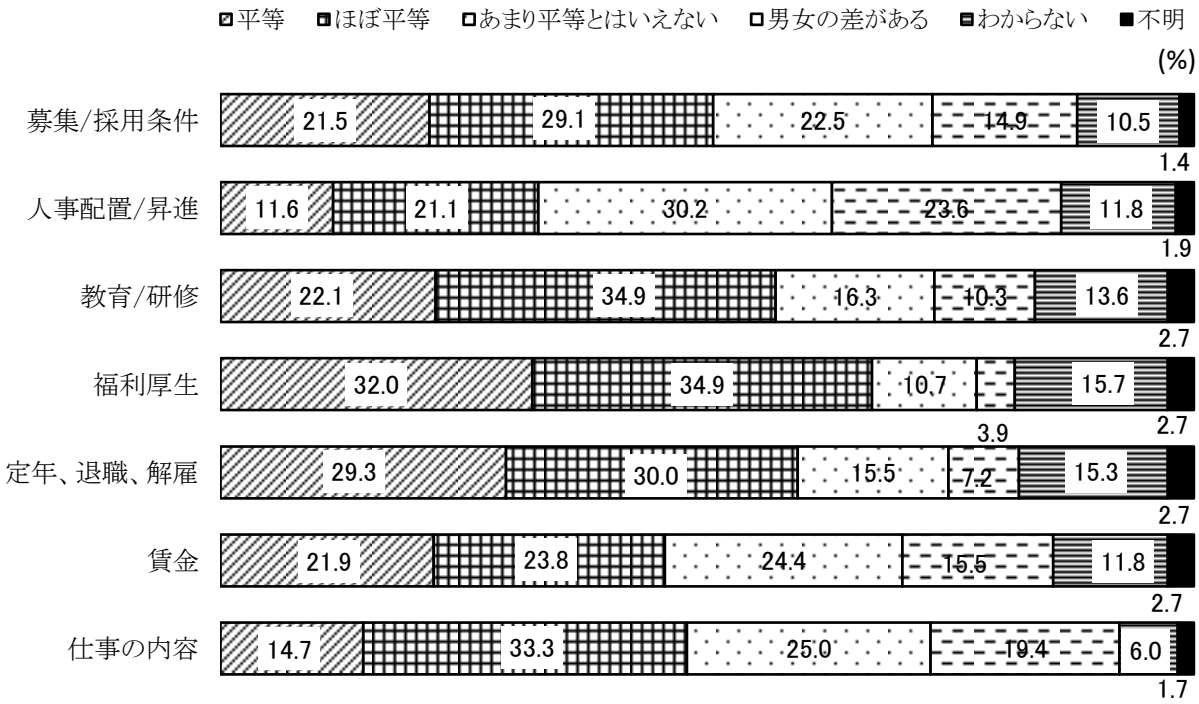
「平等」、「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、女性より男性のほうが13．8ポイント多く、「あまり平等とはいえない」、「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性のほうが2．9ポイント多い。

⑦仕事の内容



「平等」、「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性のほうが7．6ポイント多く、「あまり平等とはいえない」、「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合は、女性より男性のほうが16．6ポイント多い。

参　考　平成17年10月調査結果

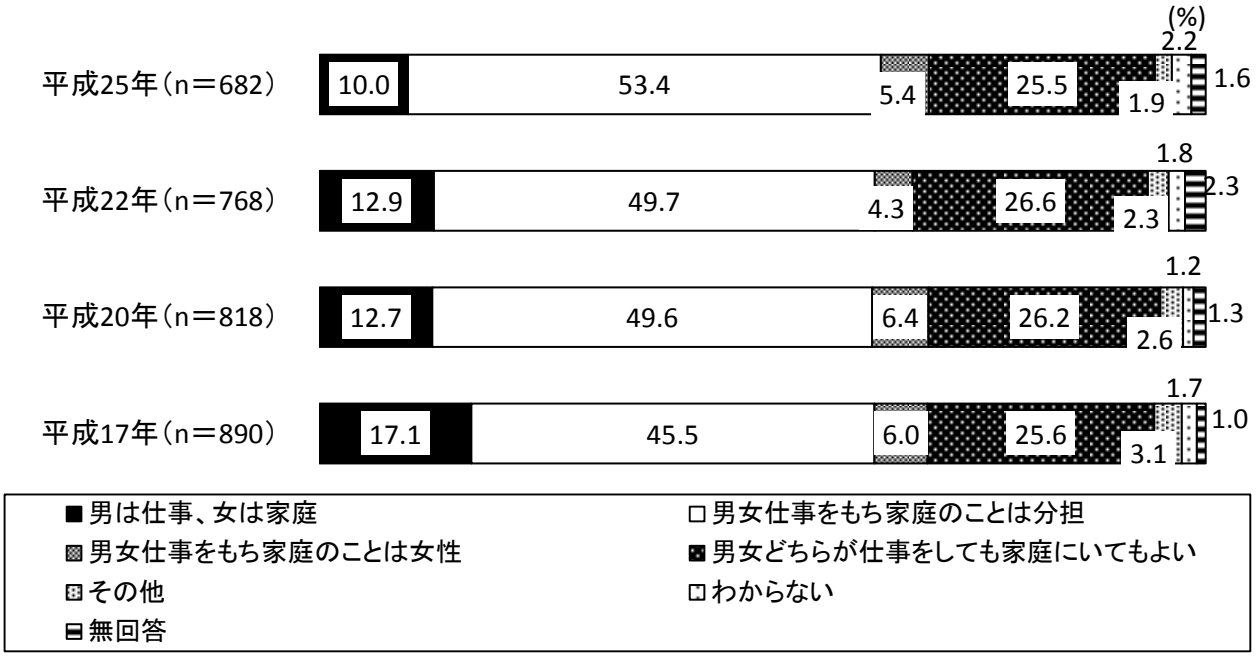


2. 男女の役割意識について

(1)「男は仕事、女は家庭」という考え方

【全　体】

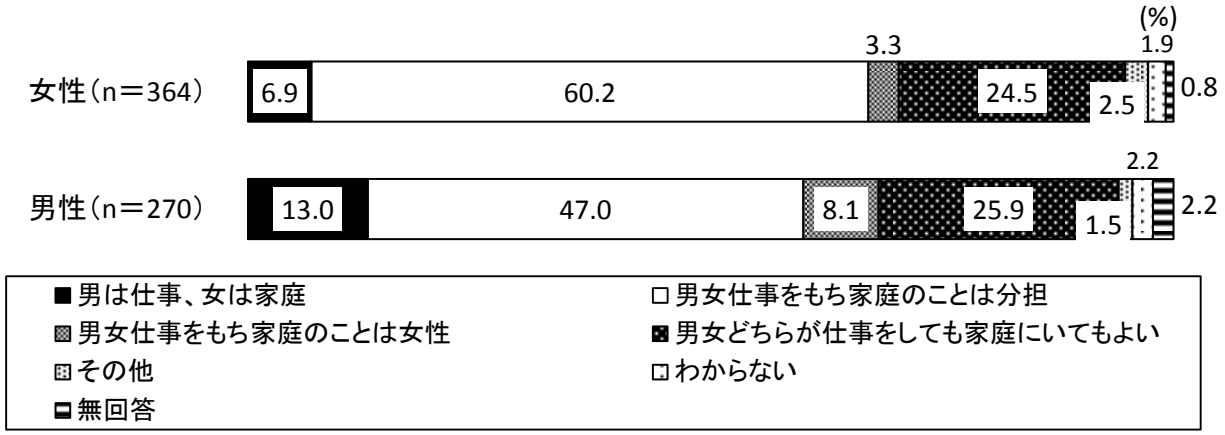
問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどう思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つだけお選びください。(○は1つだけ)



○内閣府(H24.10)「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきに賛成」12.9%「どちらかといえば賛成」38.7%
○栃木県(H21.11)「男は仕事、女は家庭」15.1%
○佐野市(H24.11)「男は仕事、女は家庭」10.9%

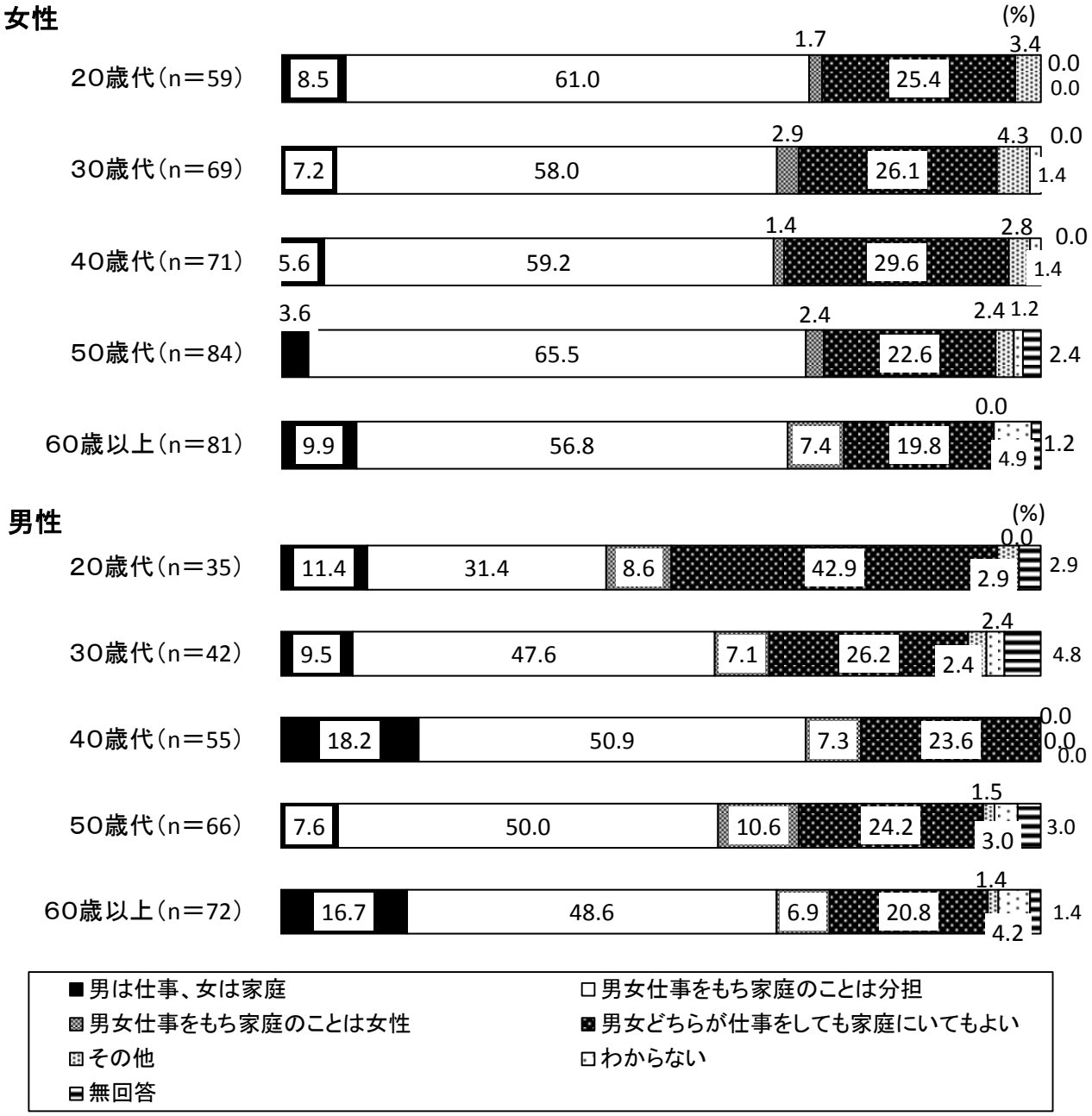
「男は仕事、女は家庭」と考える人の割合は、平成17年調査から7．1ポイント減少している。また、「男女仕事をもち家庭のことは分担」と考える人の割合は53．4%と平成17年調査開始以降増加している。

【性　別】



「男は仕事、女は家庭」と考える人の割合は、平成17年調査から男女とも減少している。また、「男女仕事をもち家庭のことは分担」と考える人の割合は男女とも約10ポイントずつ増加している。

【性・年齢別】



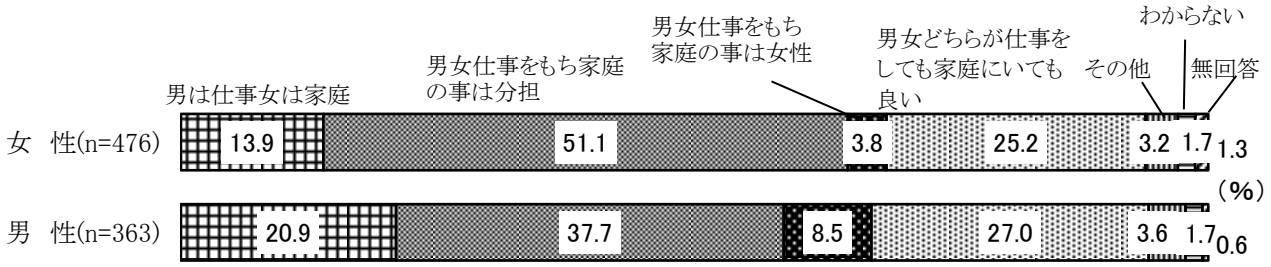
「男は仕事、女は家庭」と考える人の割合は、平成17年調査から女性は全ての年代で減少し、男性は40歳代を除く年代で減少している。一方で「男女仕事をもち家庭のことは分担」と考える人の割合は、全体的に大きく増加している。

また、20歳代の男性は、「男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」と考える人の割合が4割を超えている。

「男は仕事、女は家庭」という考え方

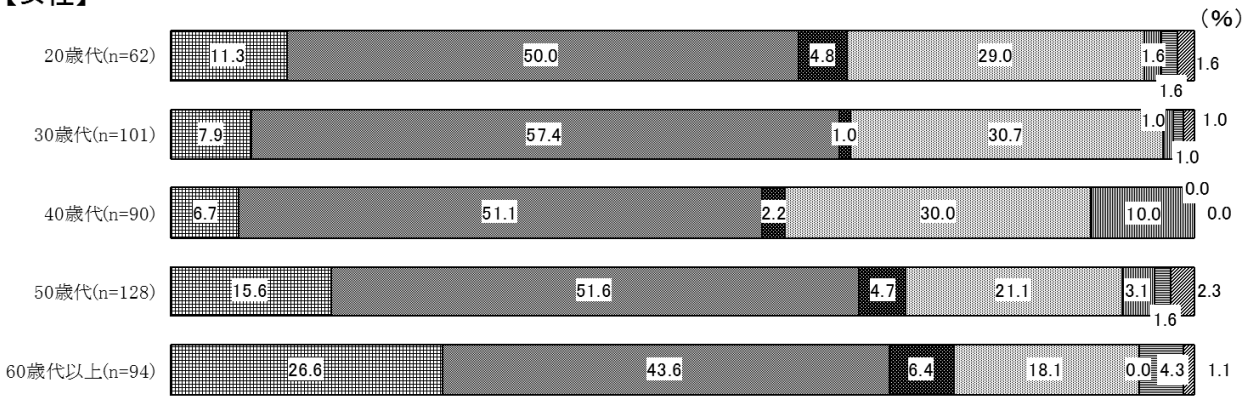
参　考　平成17年10月調査結果

【性 別】

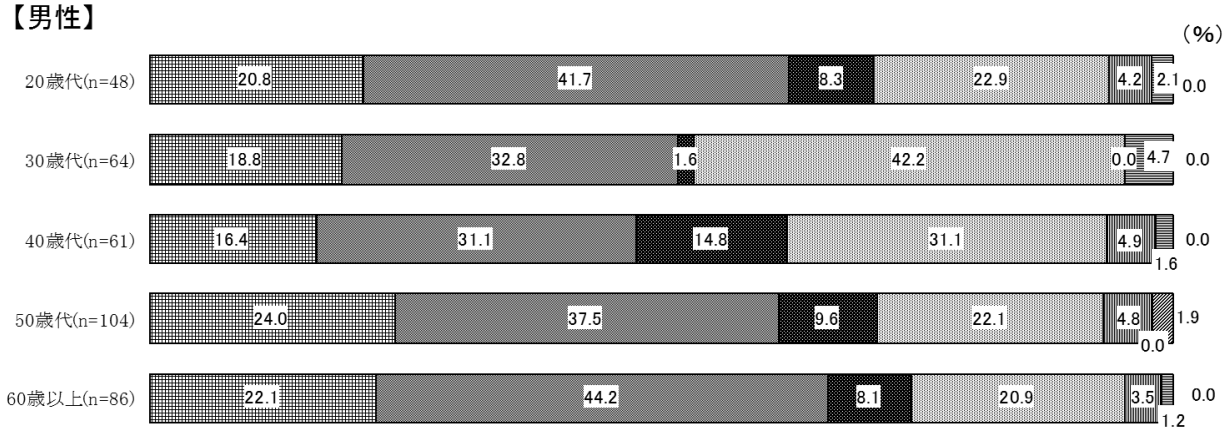


【性・年齢別】

【女性】

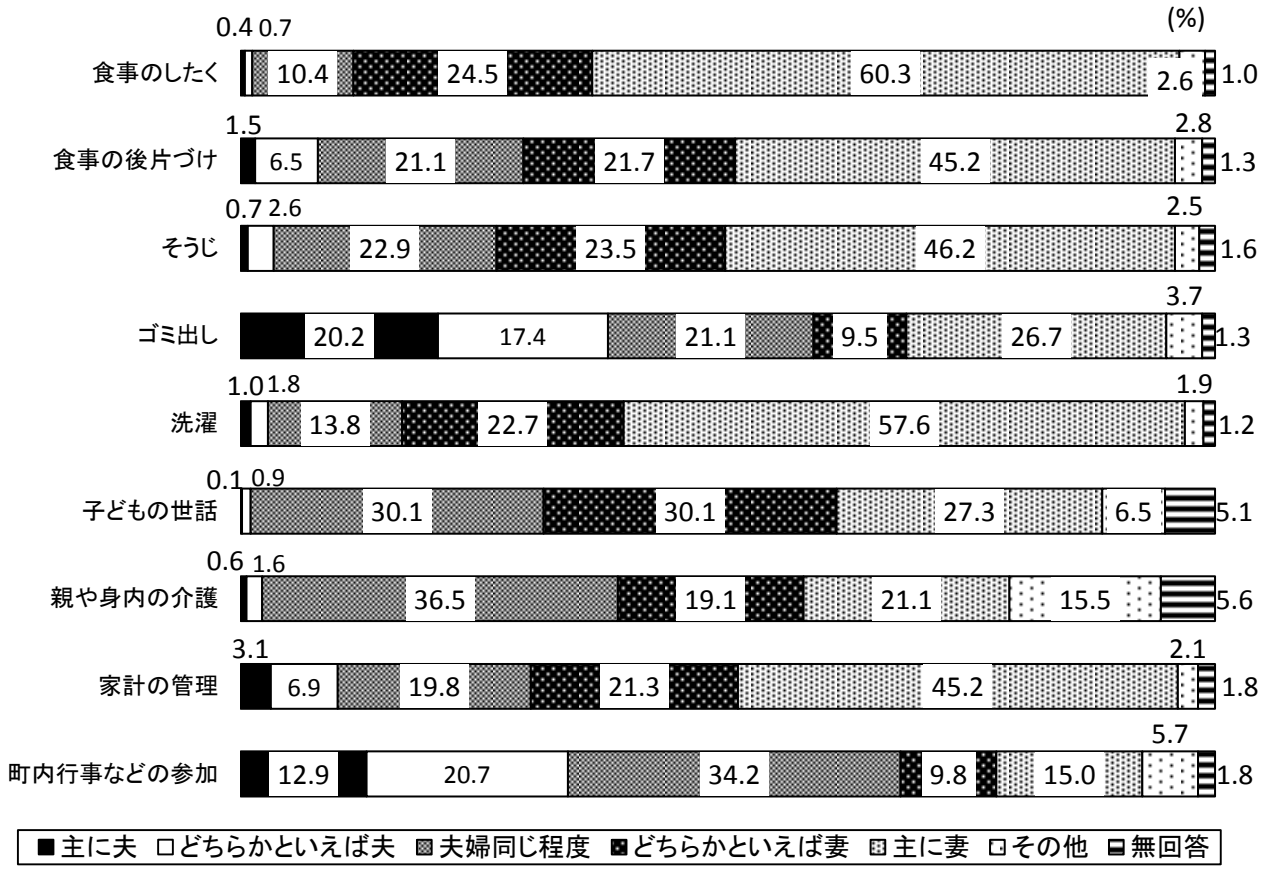


【男性】



（2）日常生活の夫婦の分担

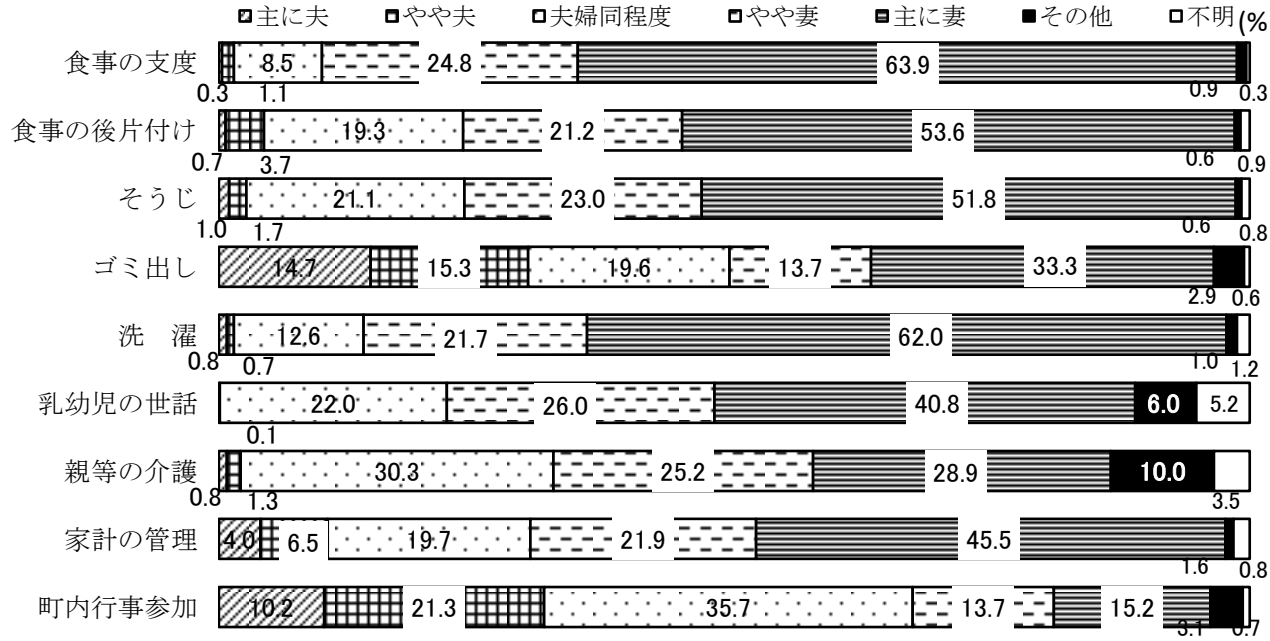
問4　日常生活における夫婦の分担はどのようにしていますか。配偶者がいない方は、いると仮定してどのようにしたいと思いますか。次の（1）～（9）それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。（○は1つずつ）



「主に妻」、「どちらかといえば妻」という回答割合が多く目立つ。「ゴミ出し」、「町内行事などの参加」では、「主に夫」、「どちらかといえば夫」の割合が多くなっているが、家庭での男女の役割分担の多くが依然として女性に偏っている。

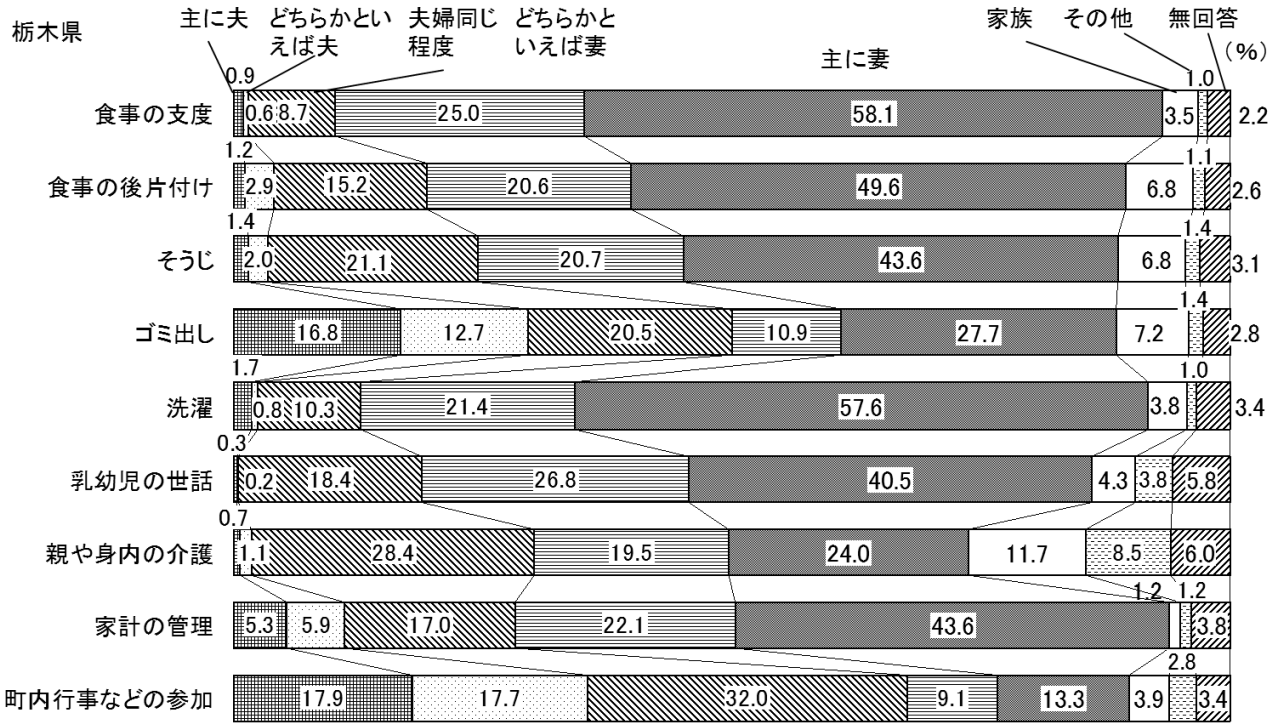
一方で、「子どもの世話」、「親や身内の介護」の項目で、「夫婦同じ程度」と回答する人の割合は、平成17年調査からそれぞれ8．1ポイント（子どもの世話）、6．2ポイント（身内の介護）増加している。

参　考　平成17年10月調査結果



日常生活の夫婦の分担

参　考　栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査（平成21年11月）

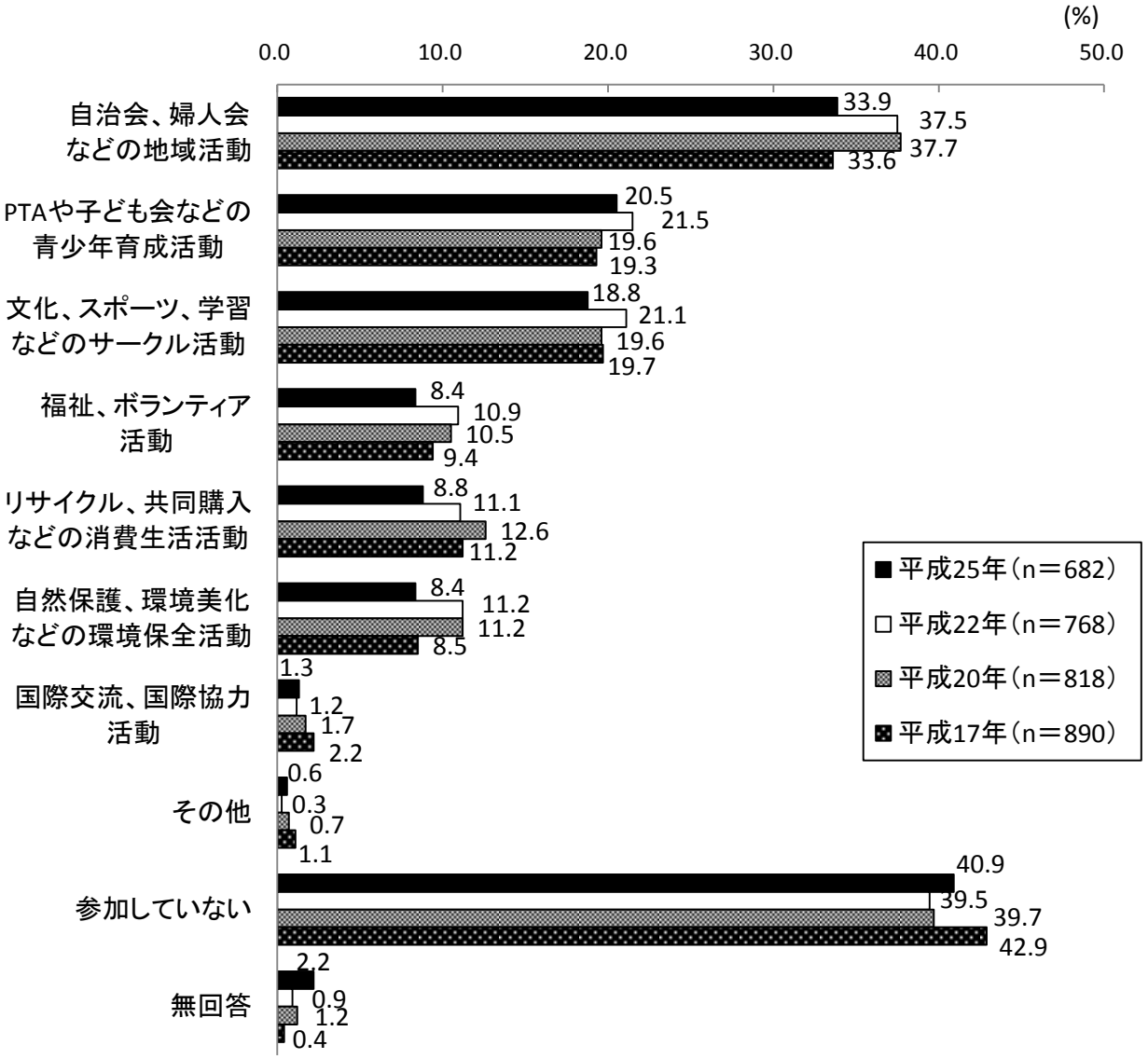


３．男女の地域・社会参画について

（1）地域・社会参画の状況

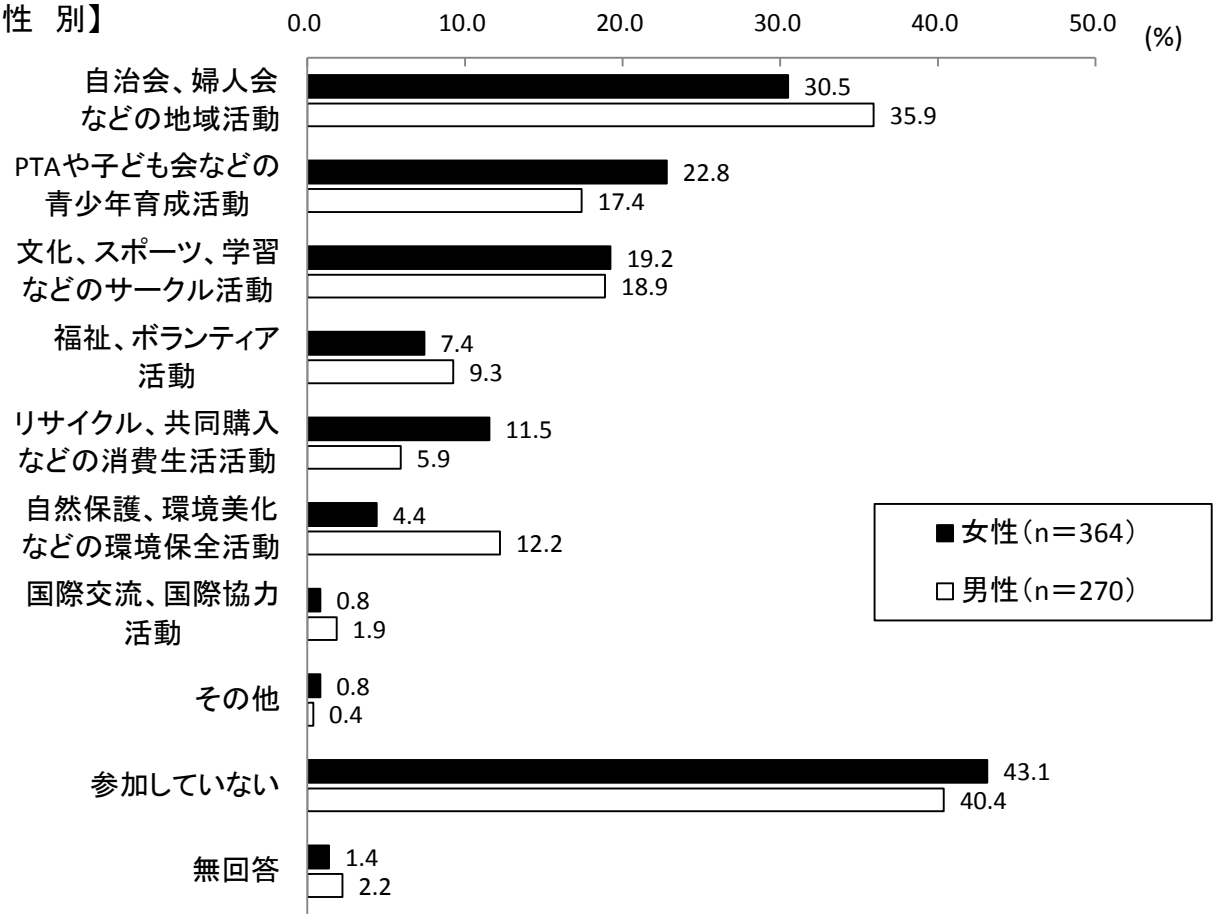
【全 体】

問5　あなたは、次にあげるような活動に参加していますか。あてはまるものをすべてお選びください。
（○はいくつでも）



地域・社会参画の状況について、平成２２年調査と比べ「国際交流・協力活動」、「その他」以外の項目で減少し、特に「自治会・婦人会などの地域活動」では３．６ポイント減少している。
また、「参加していない」と回答した人の割合は、平成１７年調査から2ポイント減少しているものの、大きな変化は見られない。

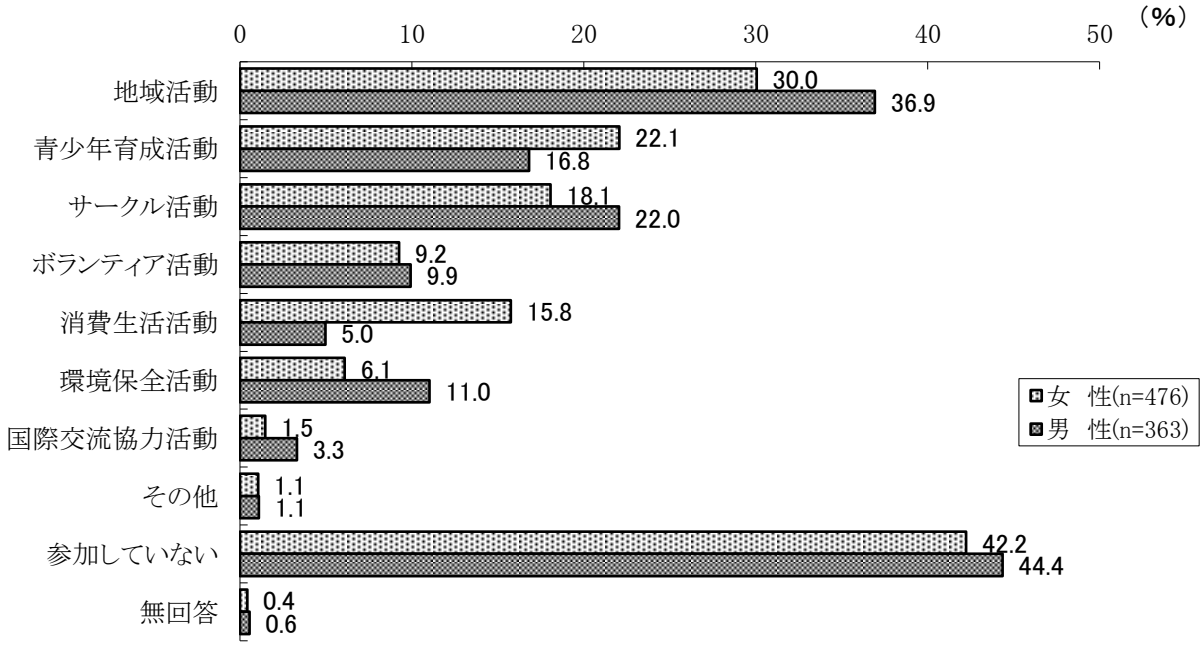
【性　別】



性別により差のある項目は、平成17年調査と同じ傾向にあるが、「ボランティア活動」、「環境保全活動」で差が広がり、「地域活動」、「サークル活動」、「消費生活活動」、「国際交流、国際協力活動」でその差が縮んでいる。

参　考　平成17年10月調査結果

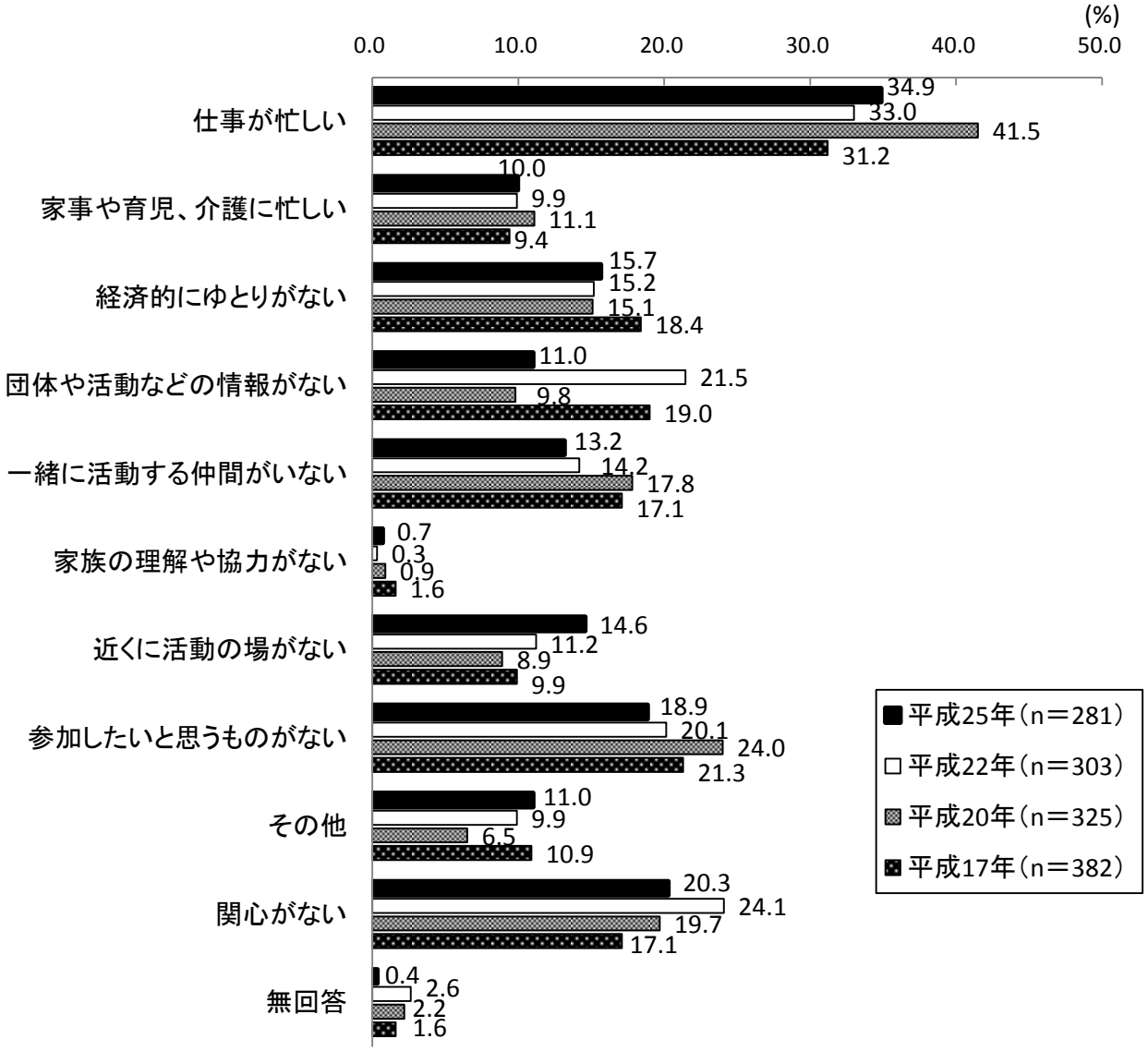
【性　別】



（2）地域・社会参画していない理由

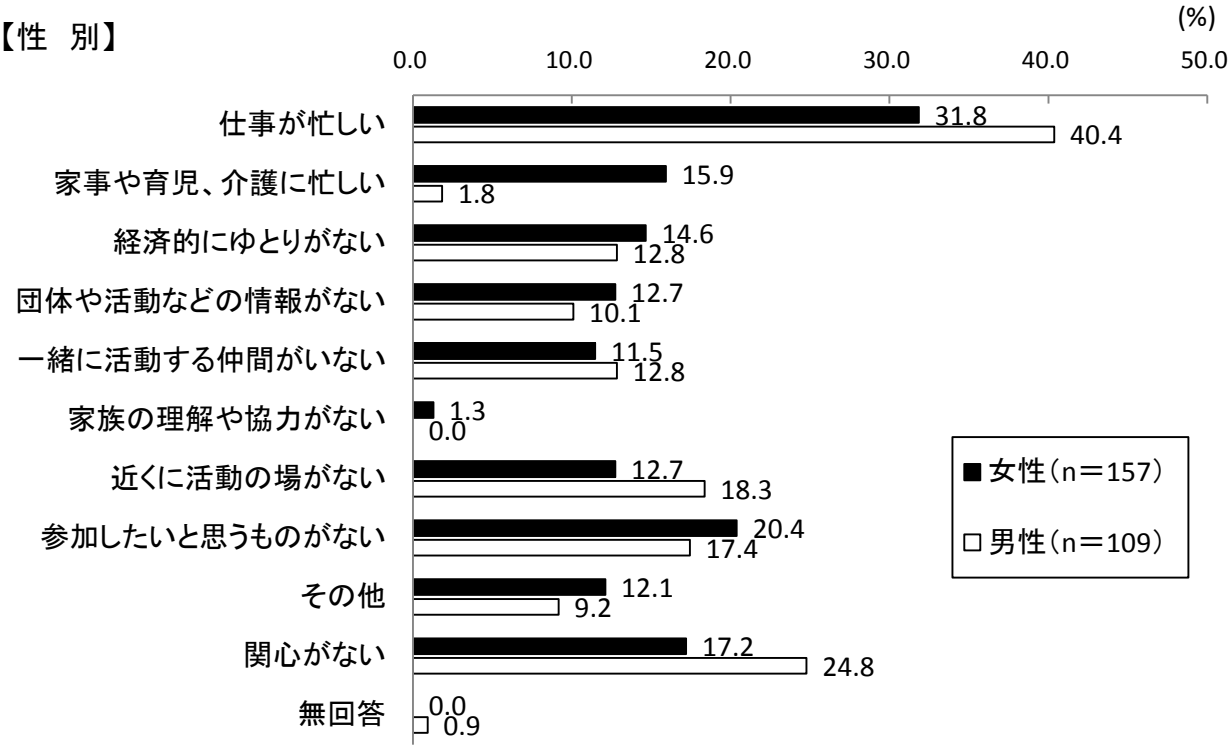
【全　体】

問6　問5で「9．参加していない」を選んだ方におたずねします。あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。次の中から、あてはまるものを2つまでお選びください。（○は2つまで）



地域・社会活動に参加していない理由では、「仕事が忙しい」が最も多く、前回調査より1．9ポイント増加している。また、平成17年調査と比べ、「近くに活動の場がない」は4．7ポイント、「関心がない」は3．2ポイントそれぞれ増加している。

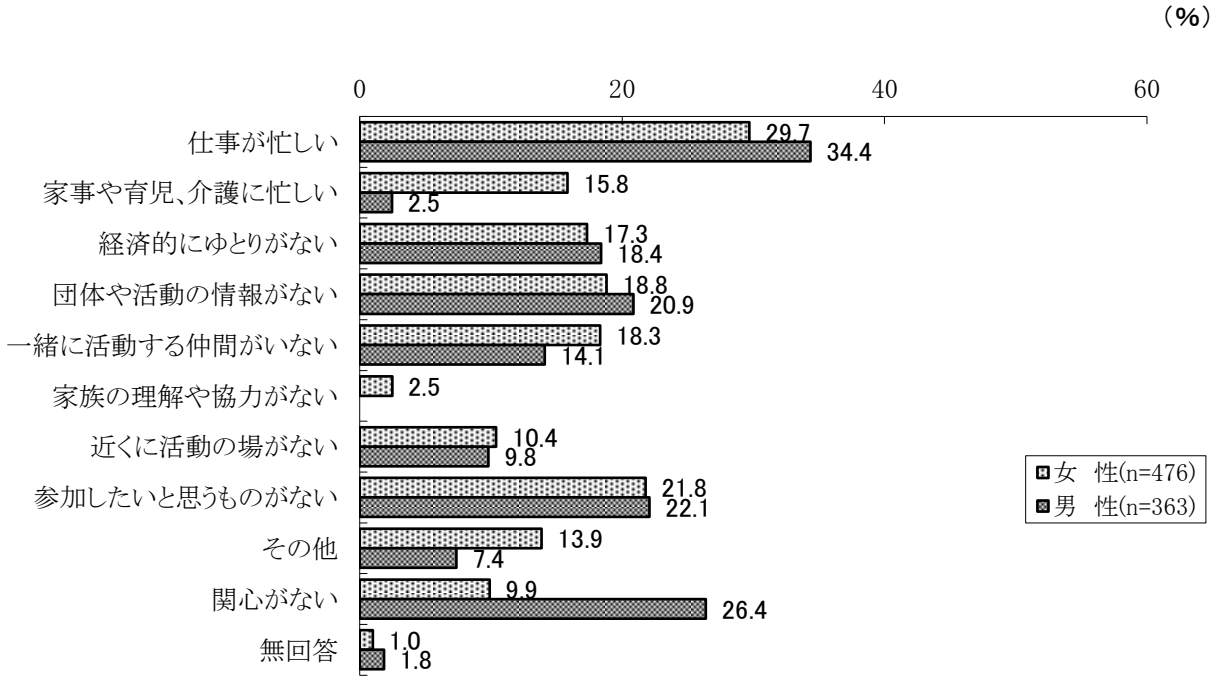
【性　別】



「仕事が忙しい」と回答する人の割合は、平成１７年調査に比べ女性は２．１ポイント、男性は6ポイント増加している。このほか、「近くに活動の場がない」で男女とも増加し、「関心がない」では、女性が７．３ポイント増加している。

参　考　平成17年10月調査結果

【性　別】

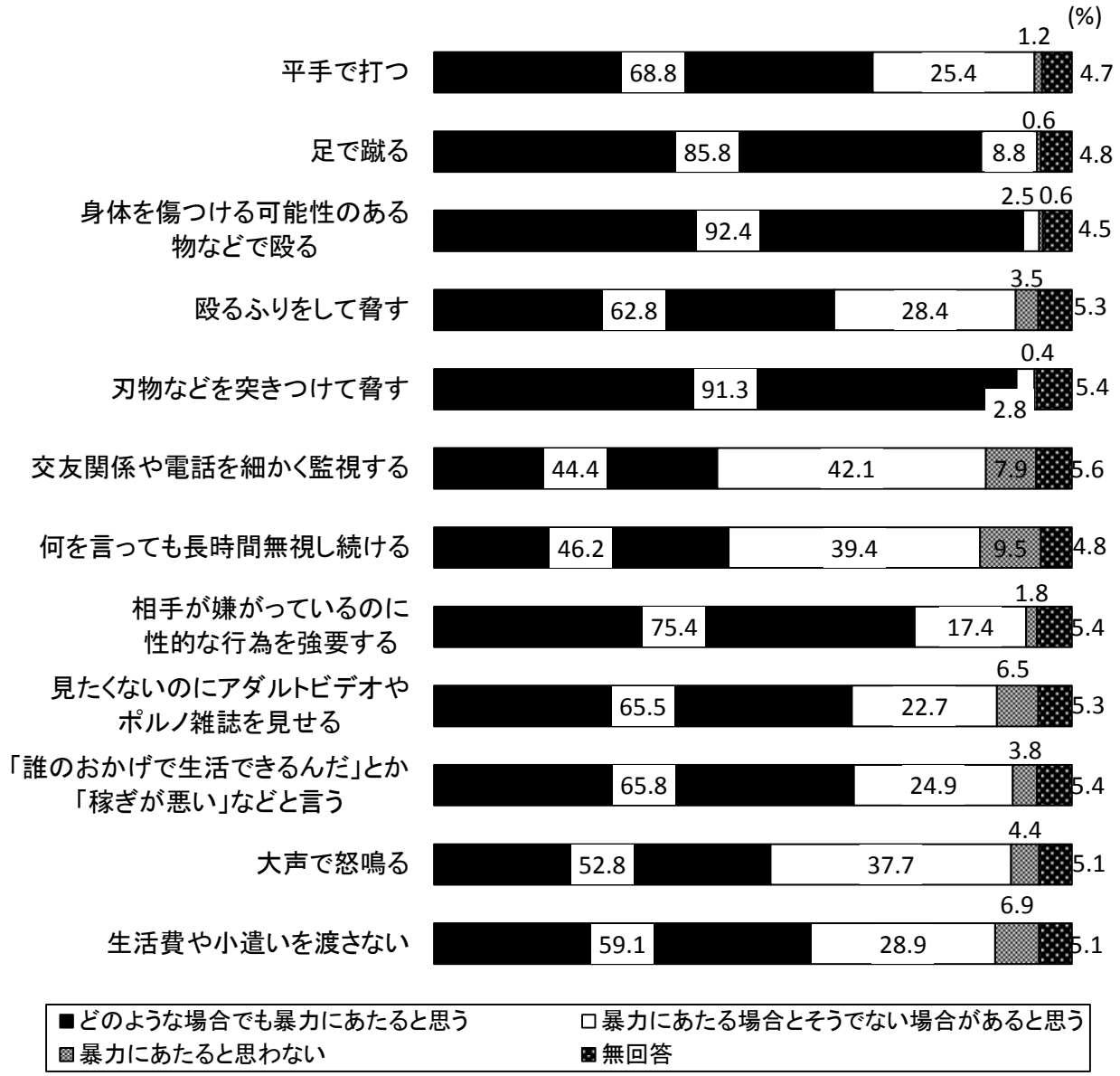


4. DVやセクハラについて

（1）配偶者・パートナー間の暴力について

【全　体】

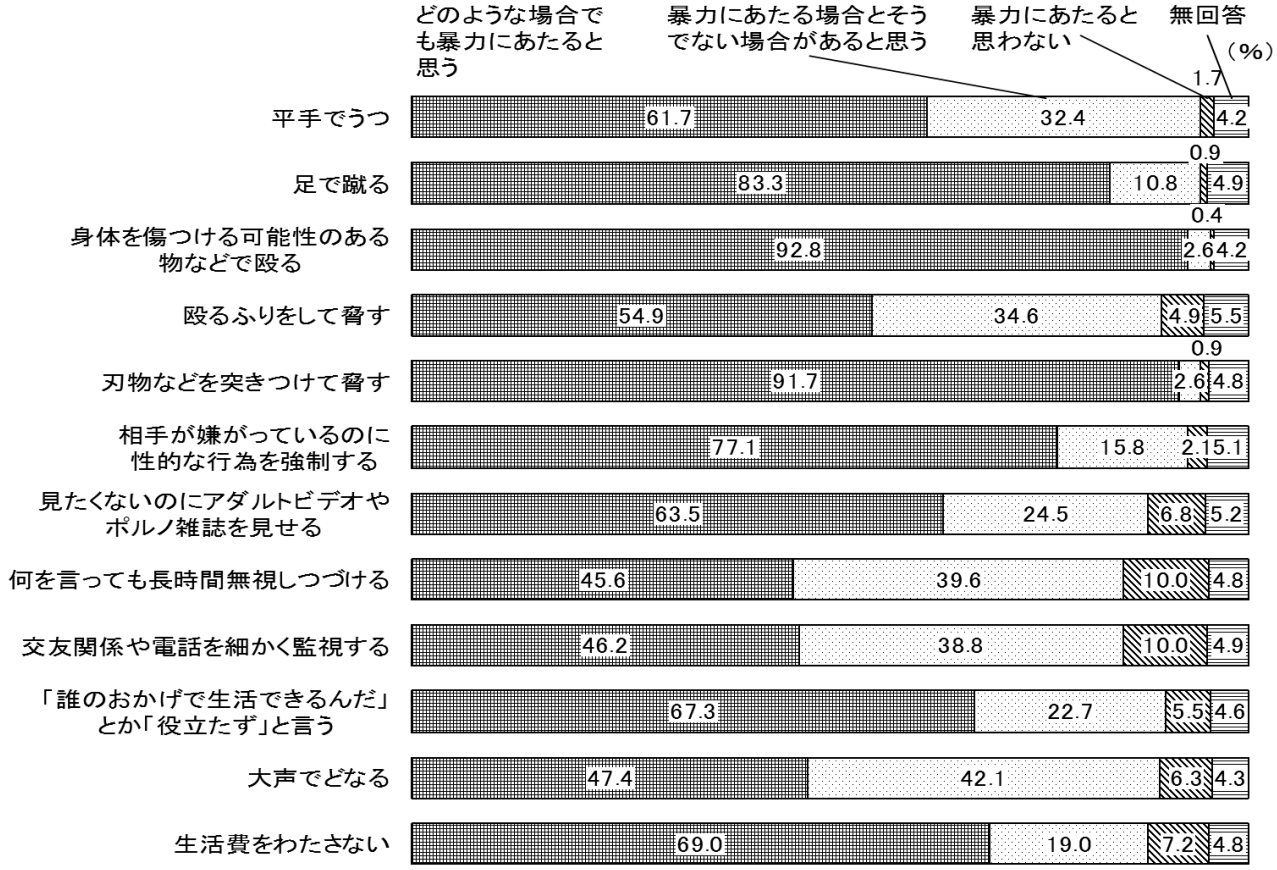
問7　あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。（1）～（12）それぞれについてお答えください。（○は1つずつ）



配偶者・パートナーや恋人間での、どのような行為が暴力にあたると思うかについて、「どんな場合でも暴力にあたる」では、「身体を傷つける可能性のある物などで殴る」、「刃物などを突きつけて脅す」が9割以上となっているのに対し、「交友関係や電話を細かく監視する」、「何を言っても長時間無視し続ける」は50％以下であり、精神的な暴力が認識されていない傾向にある。

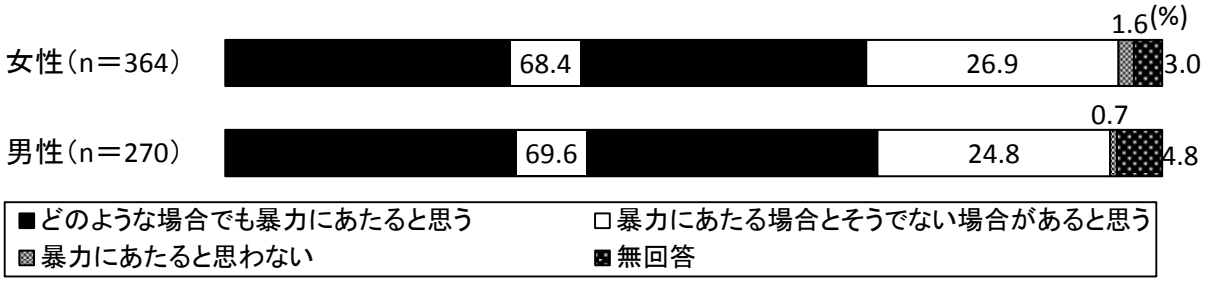
また、「平手で打つ」、「殴るふりをして脅す」を「どんな場合でも暴力にあたる」と考える人の割合は、前回調査より、7．1ポイント（平手で打つ）、7．9ポイント（殴るふりをして脅す）ずつそれぞれ多くなっている。

参　考　平成22年11月調査結果



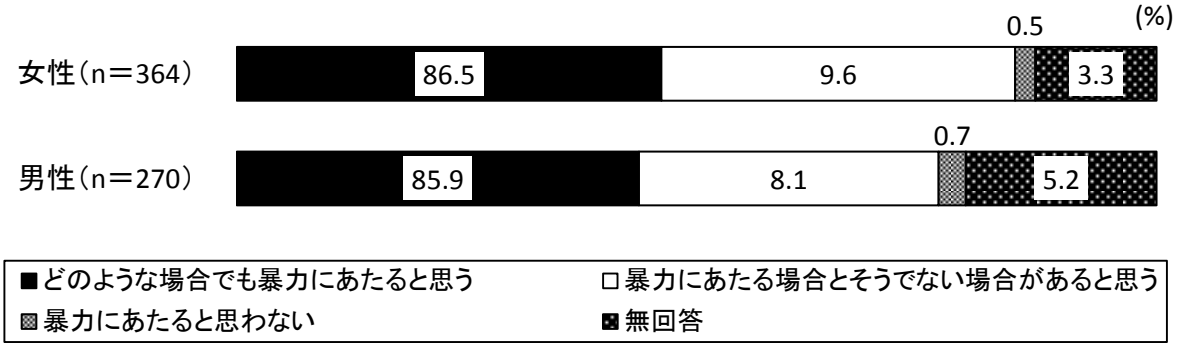
【性　別】

① 平手で打つ



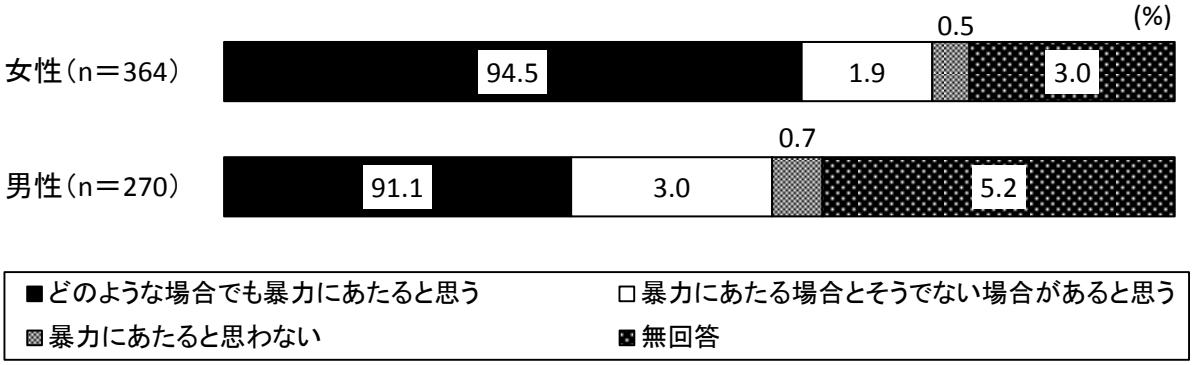
「平手で打つ」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は1．2ポイントと小さい。

②足で蹴る



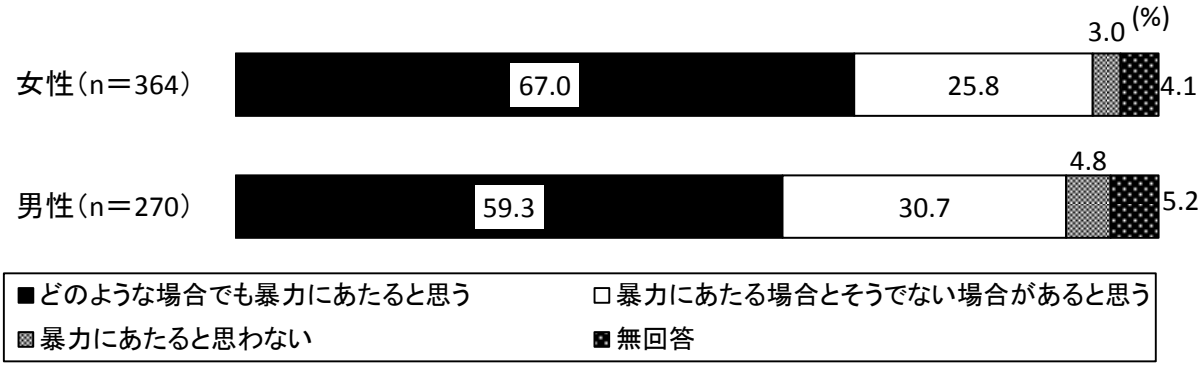
「足で蹴る」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は0．6ポイントと小さい。

③身体を傷つける可能性のある物などで殴る



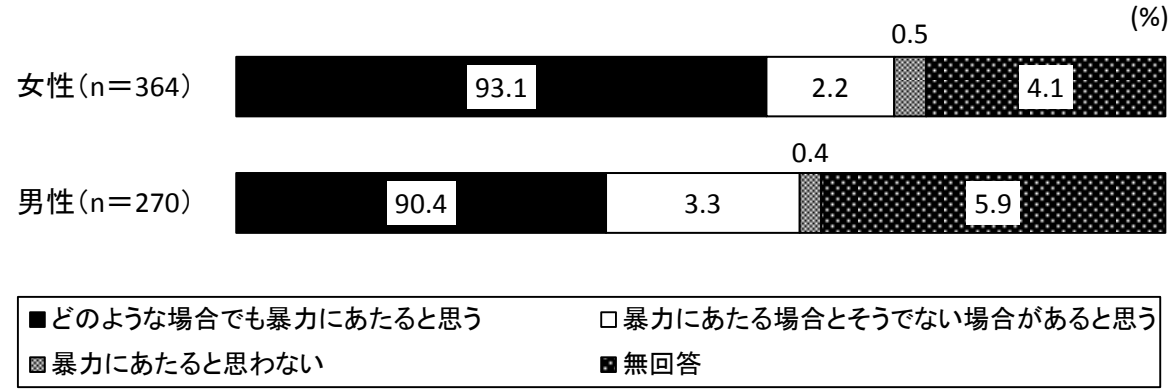
「身体を傷つける可能性のある物などで殴る」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は3．4ポイント男性より女性の方が多くなっている。

④殴るふりをして脅す



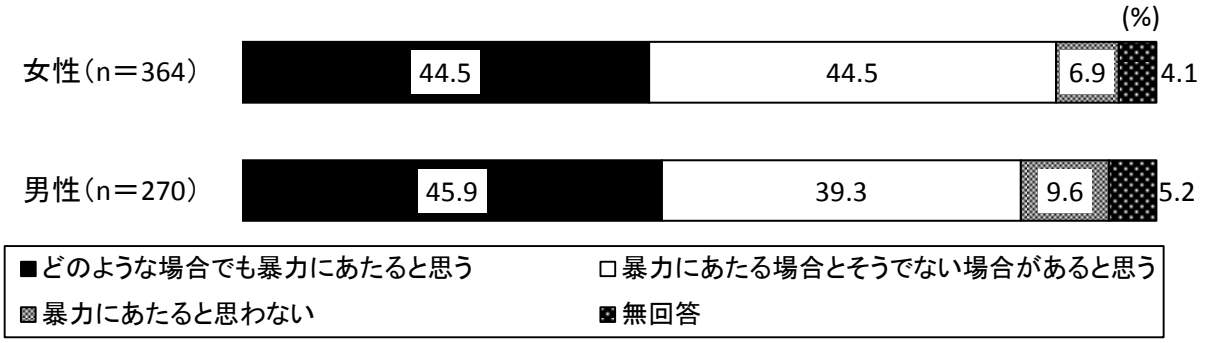
「殴るふりをして脅す」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は7．7ポイント男性より女性の方が多くなっており、男女間で認識に差がある。

⑤刃物などを突きつけて脅す



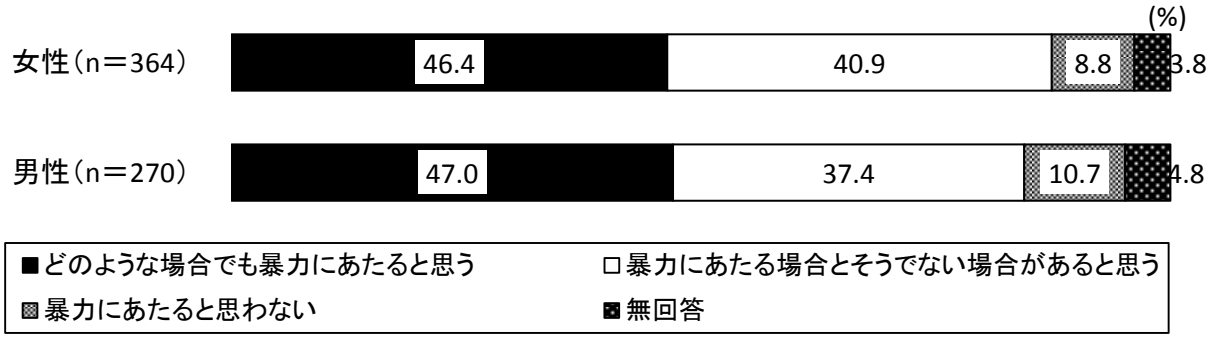
「刃物などを突きつけて脅す」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は男性より女性の方が2．7ポイント多い。

⑥交友関係や電話を細かく監視する



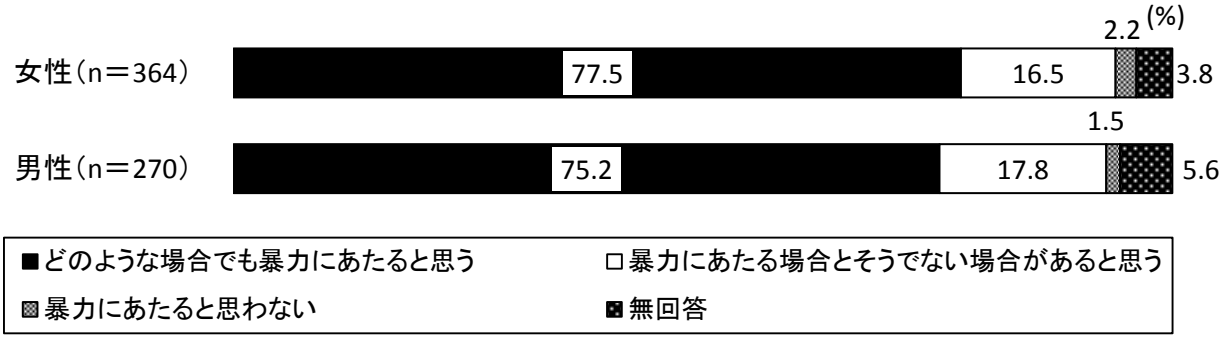
「交友関係や電話を細かく監視する」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は1.4ポイントと小さい。

⑦何を言っても長時間無視し続ける



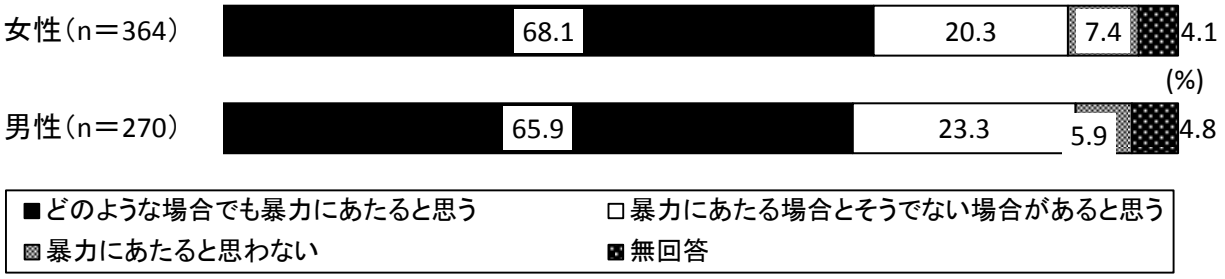
「何を言っても長時間無視し続ける」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は0．6ポイントと小さい。

⑧相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する



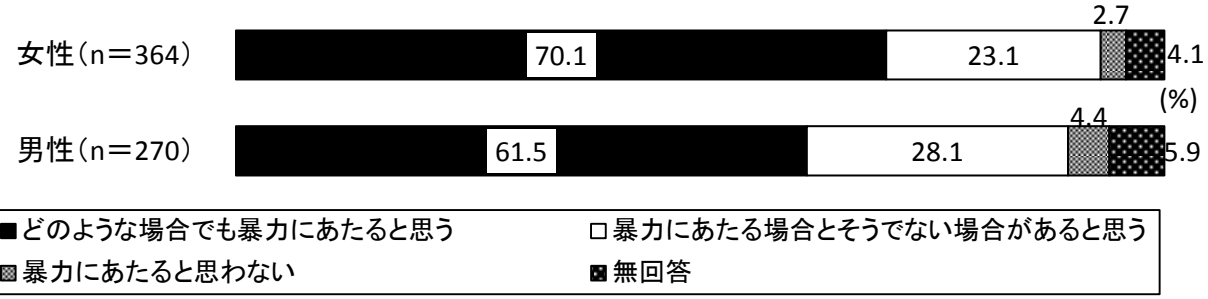
「相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は男性より女性の方が2．3ポイント多い。

⑨見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる



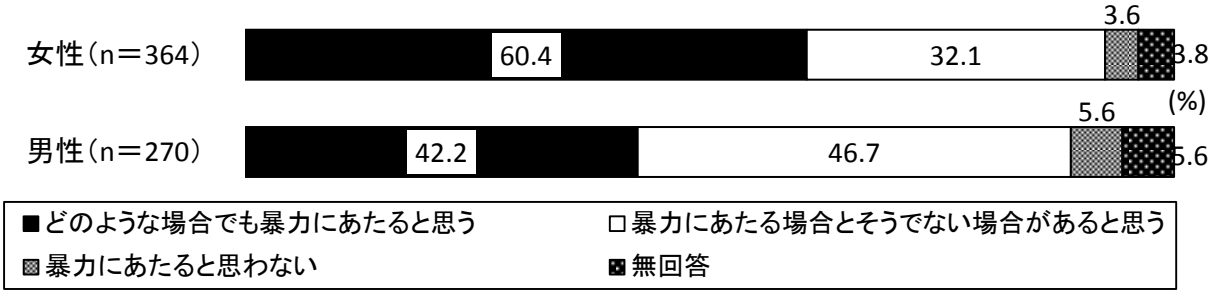
「見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は男性より女性の方が2．2ポイント多い。

⑩「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などと言う



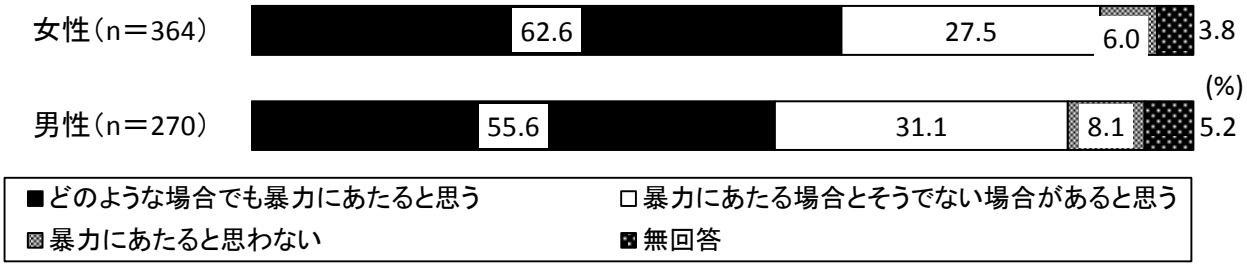
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などと言う行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は男性より女性の方が8．6ポイント多く差が大きい。

⑪大声で怒鳴る



「大声で怒鳴る」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は男性より女性の方が18．2ポイント多く大きな差がある。

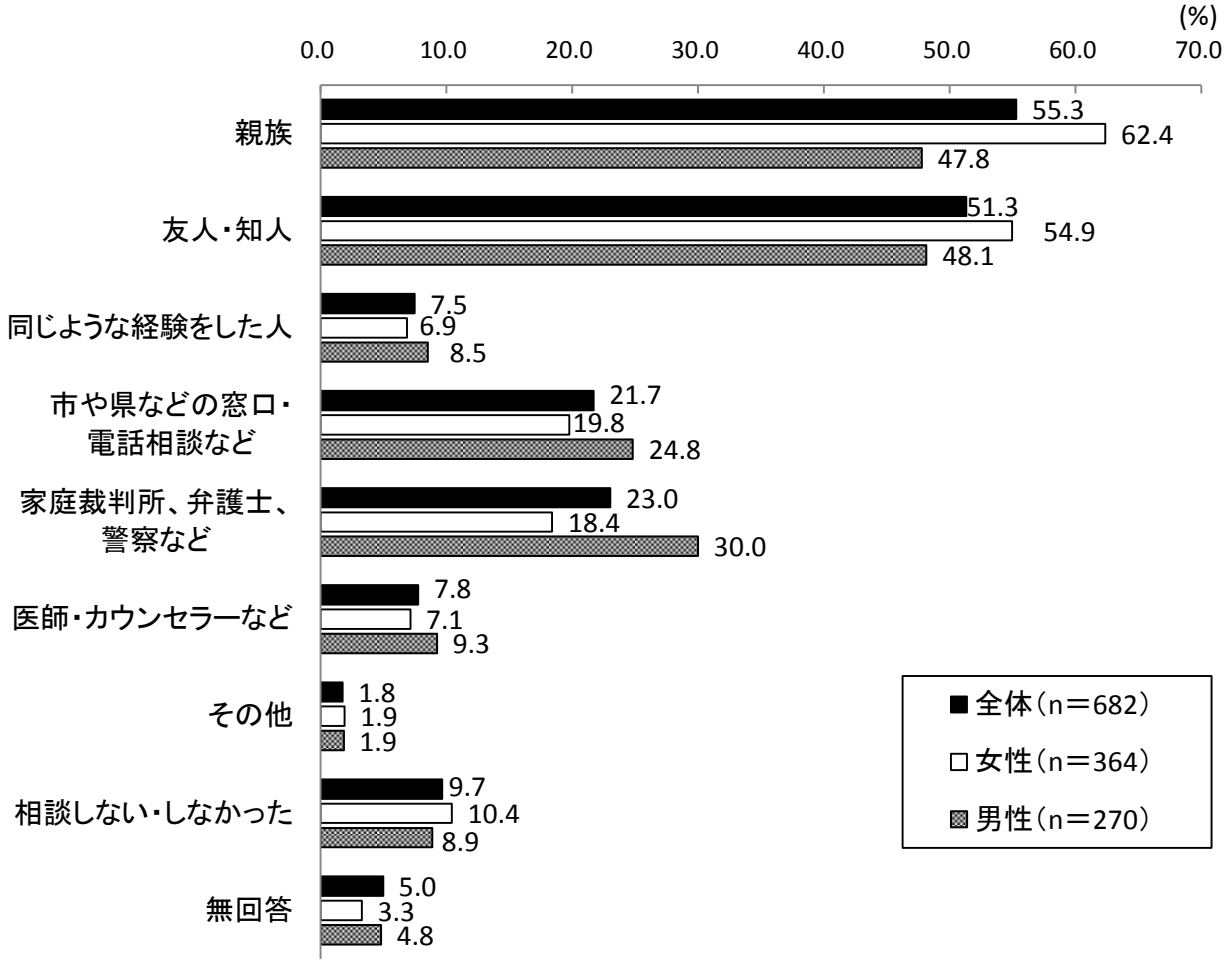
⑫生活費や小遣いを渡さない



「生活費や小遣いを渡さない」という行為を「どのような場合でも暴力にあたる」と思う人の割合で、性別による差は男性より女性の方が7ポイント多い。

（2）DVの相談先
【全体・性別】

問8（1） あなたが、今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、誰に打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（○はいくつでも）

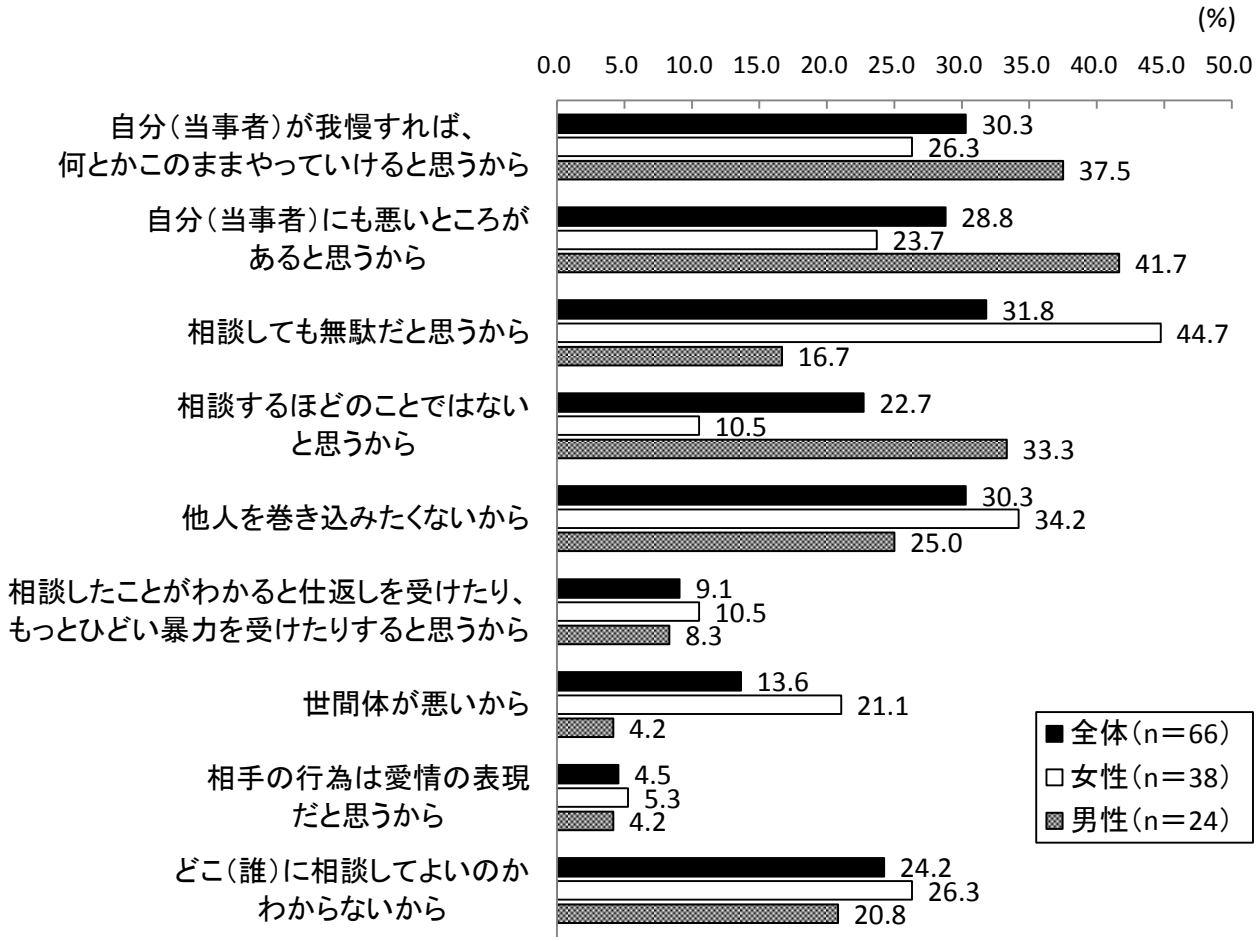


DVの相談先については、全体・女性では「親族」への相談が最も多く、男性は、「親族」、「友人・知人」への相談がほぼ同じ割合である。また、「家庭裁判所、弁護士、警察など」では、女性より男性の方が11．6ポイント多くなっている。

（3）相談しない・しなかった理由

【全体・性別】

問8（2） 問8（1）で「8．相談しない・相談しなかった」と回答した方におたずねします。相談しない・しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべてをお選びください。（○はいくつでも）

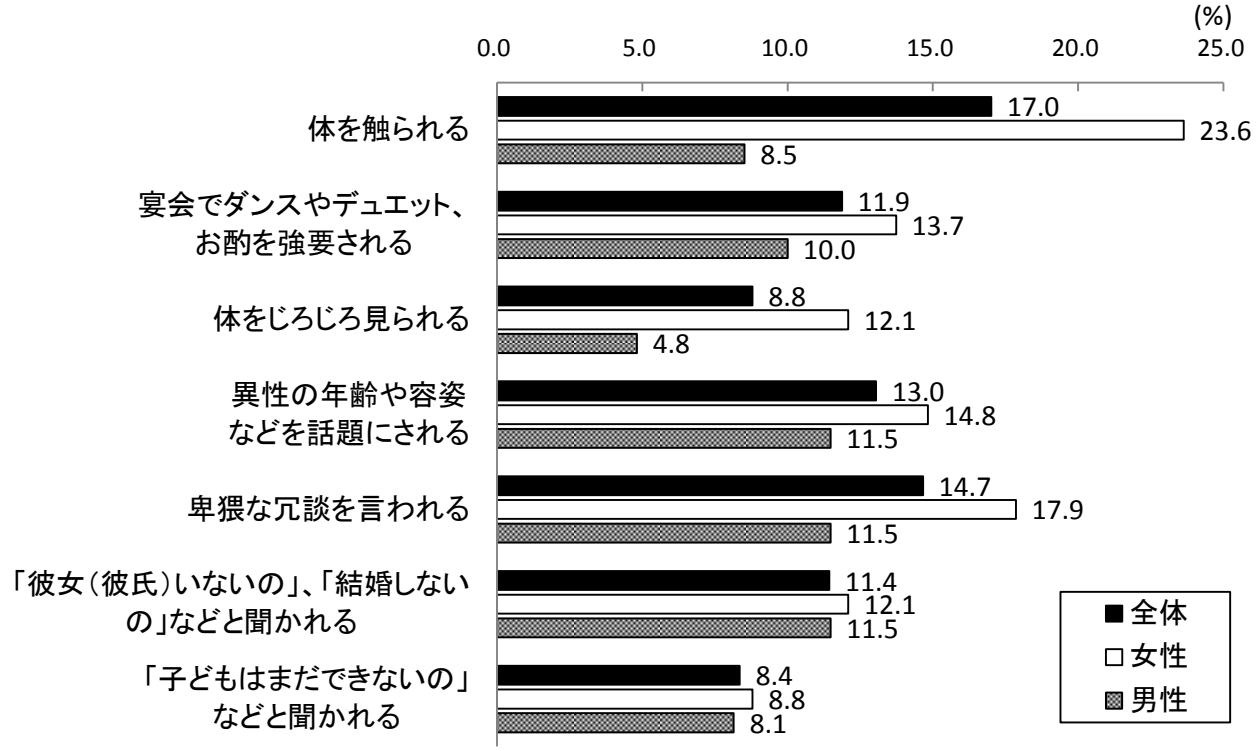


相談しない・しなかった理由で、全体では「相談しても無駄だと思うから」が31．8%と最も多く、性別による差は男性より女性の方が28ポイント多く差が最も大きい。

これに対し、「自分（当事者）にも悪いところがあると思うから」では、男性が女性より18ポイント多くなっている。

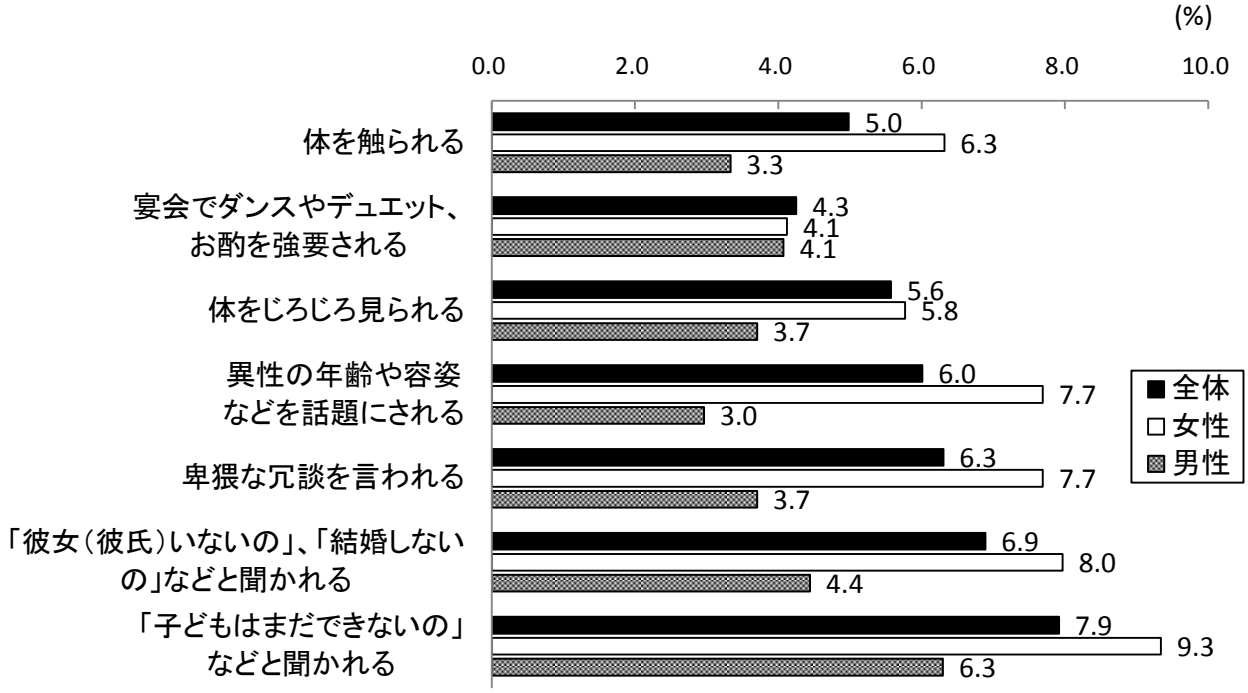
（4）セクハラについて
①職場でセクハラだと感じたこと
【全体・性別】

問9　あなたは、次のようなことでセクハラだと感じたことがありますか。またそれはどこで感じましたか。
（1）～（7）のそれぞれについて、あてはまるもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）



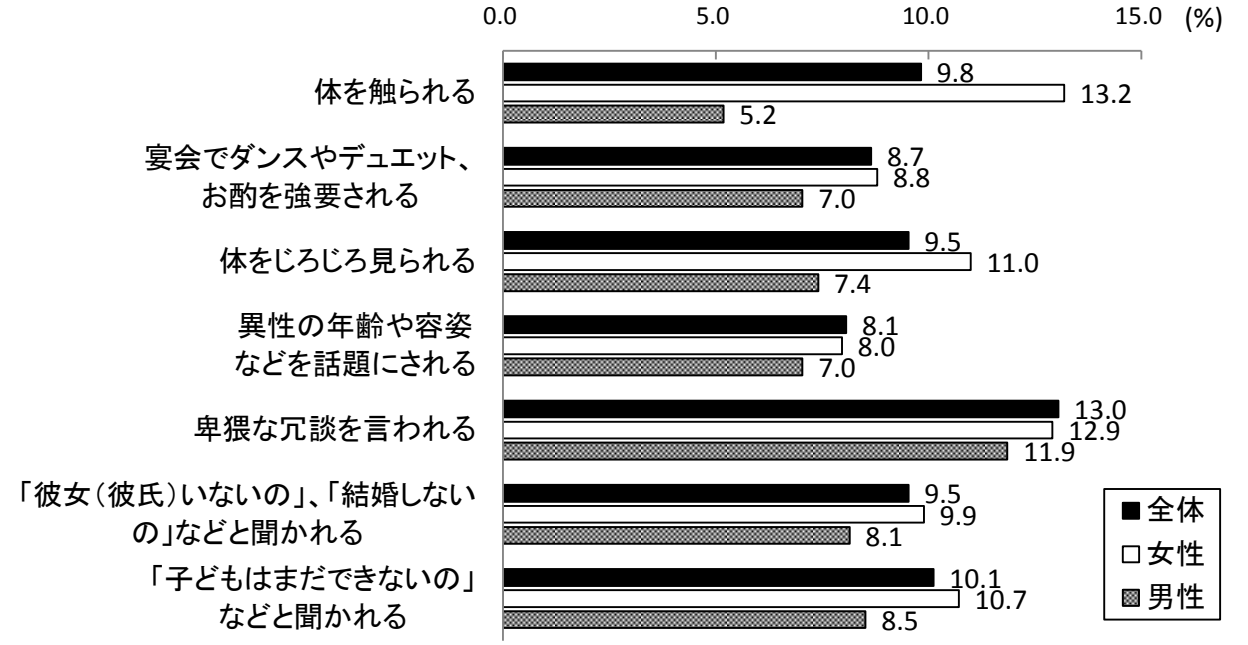
職場でのセクハラについて、全体で「体を触られる」が17．0%と最も多く、次いで「卑猥な冗談を言われる」が14．7%であった。全ての項目で女性が男性より多く、特に「体を触られる」、「体をじろじろ見られる」と身体に関する項目においては、性別の差が大きい傾向にある。

②地域でセクハラだと感じたこと
【全体・性別】



地域でのセクハラについて、全体では「子どもはまだできないのなどと聞かれる」が7．9%と最も多く、男女ともに最も多い項目でもある。また、職場同様全ての項目で女性が男性より多く、性別による差も大きいことから、女性のほうが地域でセクハラを感じている傾向にある。

③その他
【全体・性別】



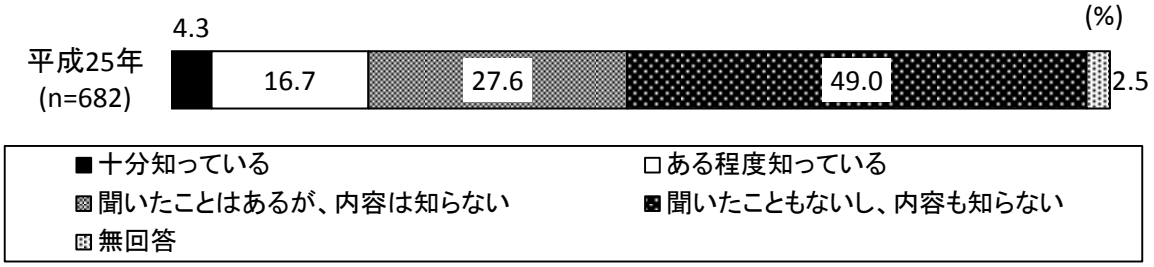
その他（職場・地域以外）について、全体と男性は「卑猥な冗談を言われる」項目が最も多く、女性は職場同様、「体を触られる」が13．2%と最も多くなっている。

5．ワークライフバランス（仕事と生活の調和）について

（1）ワークライフバランスの認知度について（※1）

【全　体】

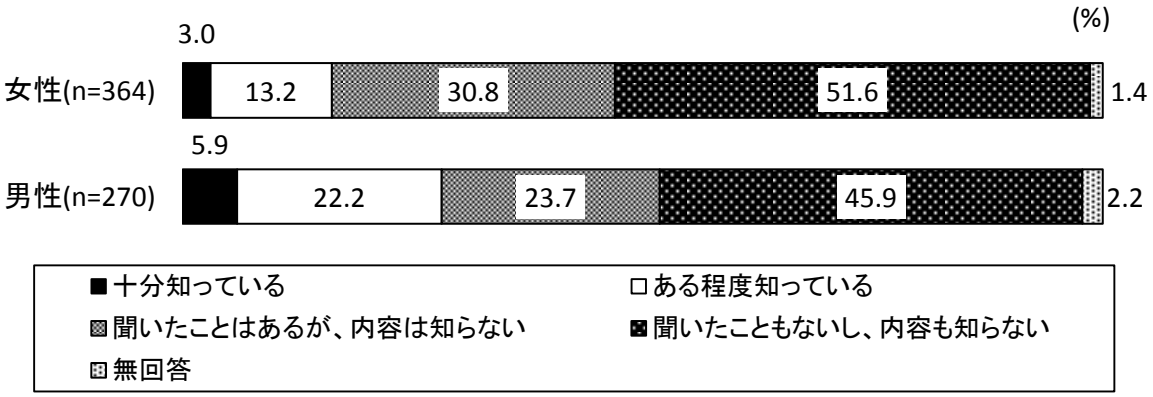
問10　あなたは、ワークライフバランスについて知っていますか。次の中からあてはまるものを1つだけお選びください。（○は1つだけ）



○佐野市（H24.11)「言葉も内容も知っている」8.4%

ワークライフバランスについて、「十分知っている」、「ある程度知っている」と回答した人を合わせた割合は、およそ2割である。これに対し、「聞いたこともないし、内容も知らない」と回答した人の割合は、49．0%と約半数を占めている。

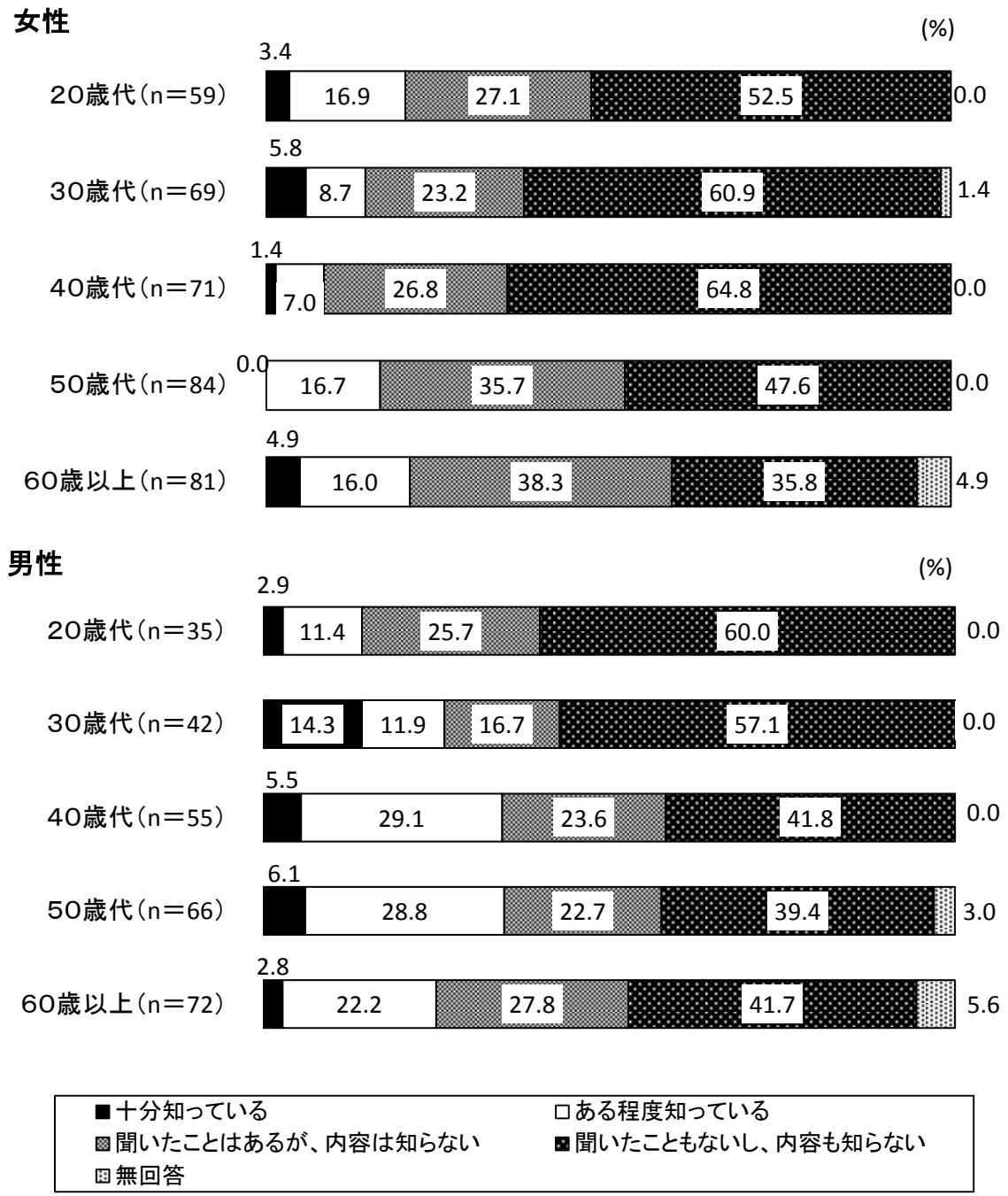
【性　別】



「十分知っている」、「ある程度知っている」と回答した人を合わせた割合は、女性より男性の方が11．9ポイント多い。これに対し、「聞いたこともないし、内容も知らない」と回答した人の割合は、男性より女性のほうが5．7ポイント多くなっている。

※1ワークライフバランス（仕事と生活の調和）
仕事や家庭・地域生活などにやりがいや充実感を感じ、自ら希望する選択・生き方ができること。

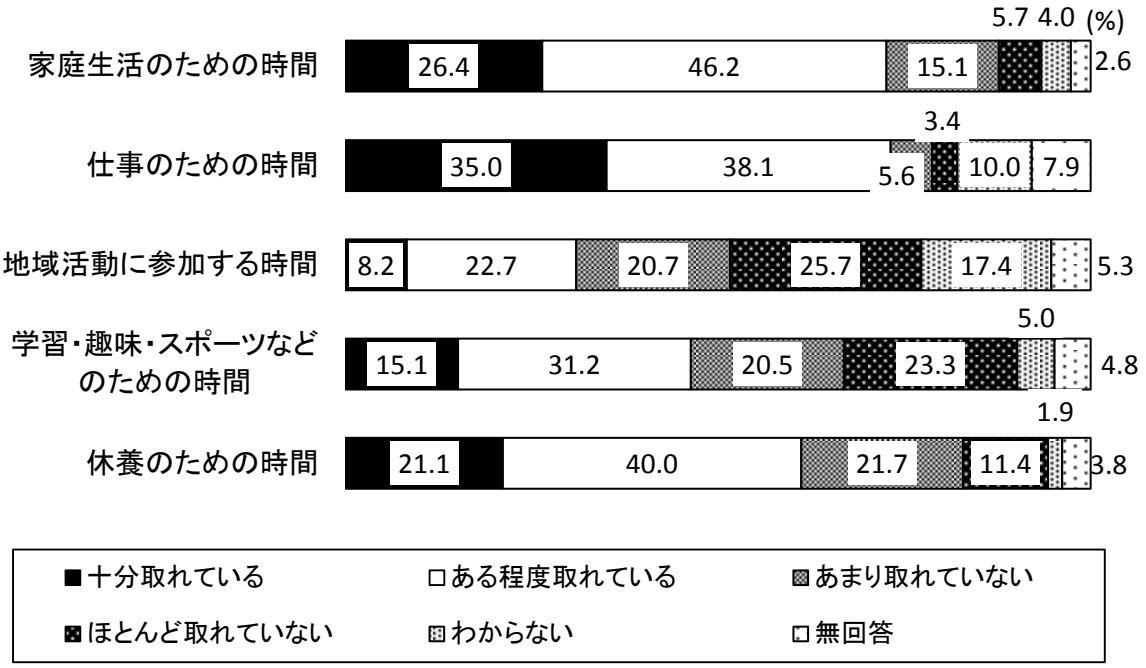
【性・年齢別】



「十分知っている」、「ある程度知っている」と回答した人を合わせた割合は、女性は20歳代と60歳以上を除き2割以下である。一方で、男性は20歳代を除く全ての年代で25%以上となっており、認知度について性別による差が大きい。

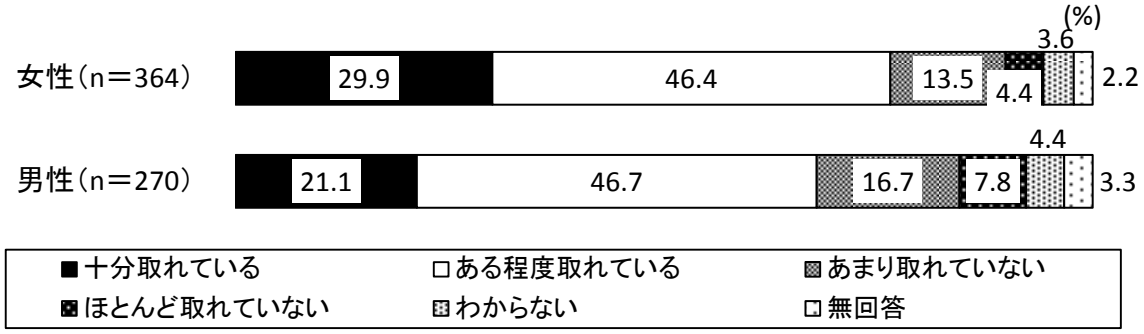
（2）ワークライフバランスの現実について
【全　体】

問11（1）　あなたは、日常生活の中で、次の（1）～（5）について、満足する時間が取れていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。（○は1つずつ）



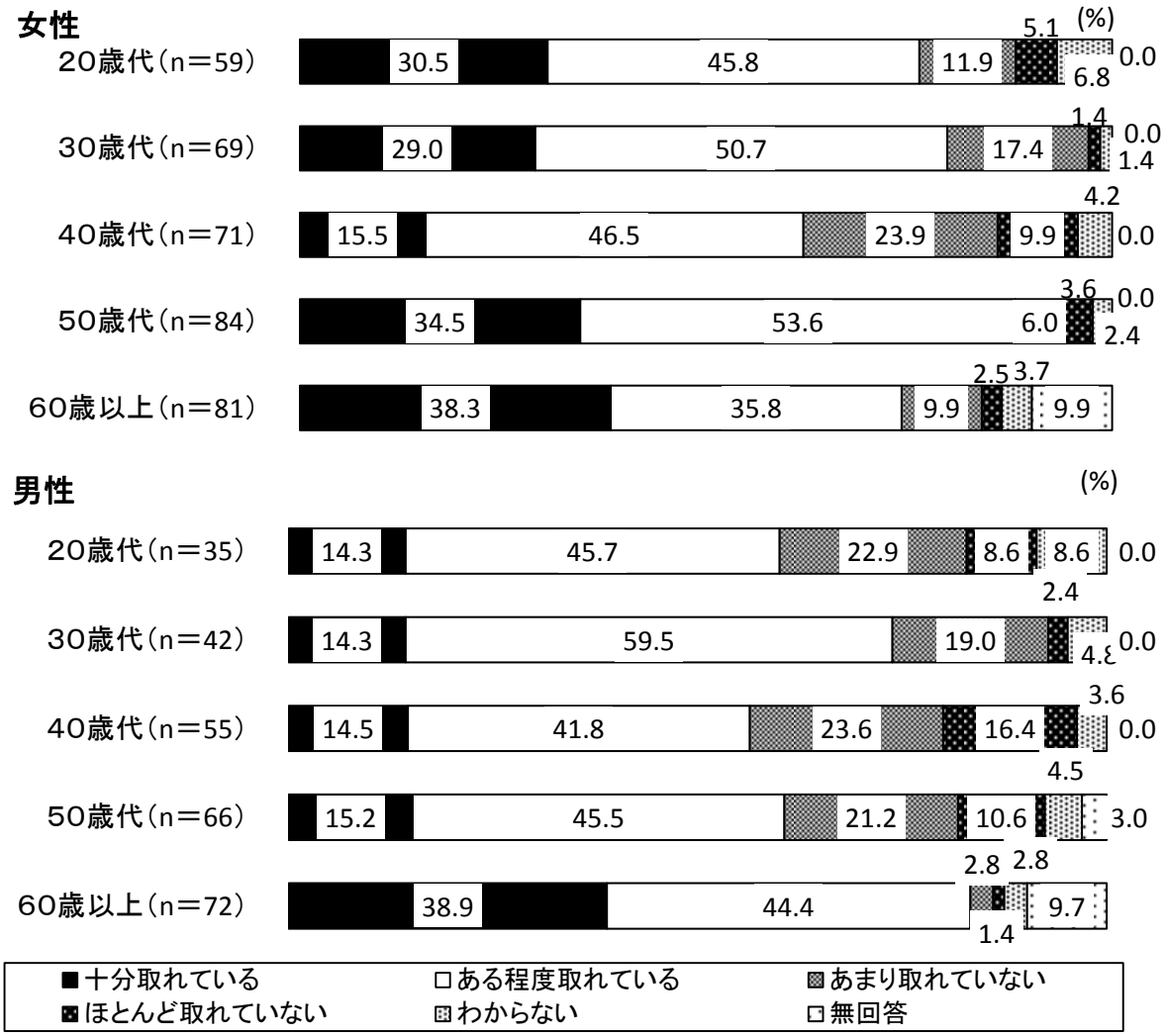
「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人を合わせた割合は、「仕事のための時間」が73．1%と最も多く、次いで「家庭生活のための時間」が72．6%となっている。これに対し、「ほとんど取れていない」と回答した人の割合で、「地域活動に参加する時間」が25．7%と最も多くなっている。

①家庭生活のための時間
【性　別】



「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合は、男性より女性の方が8．5ポイント多く、「ほとんど取れていない」と回答した人の割合は、女性より男性の方が3．4ポイント多い。

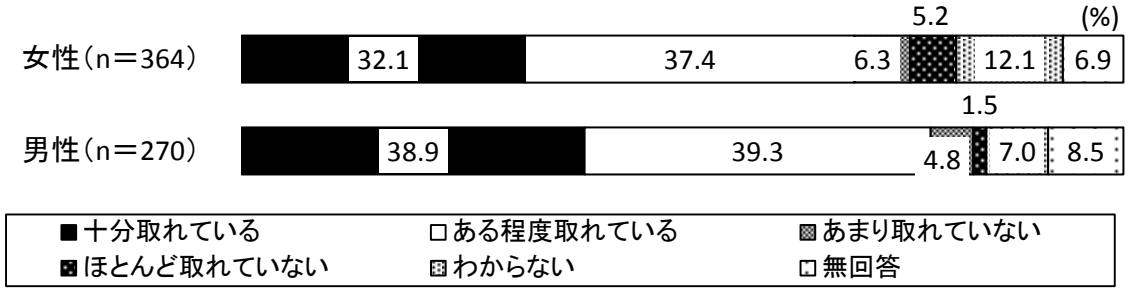
【性・年齢別】



「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合は、女性は40歳代を除いた全ての年代で7割を超え、男性は30歳代・60歳以上で、7割を超えている。これに対し、「ほとんど取れていない」と回答した人の年代で最も高い割合は、男女ともに40歳代となっている。

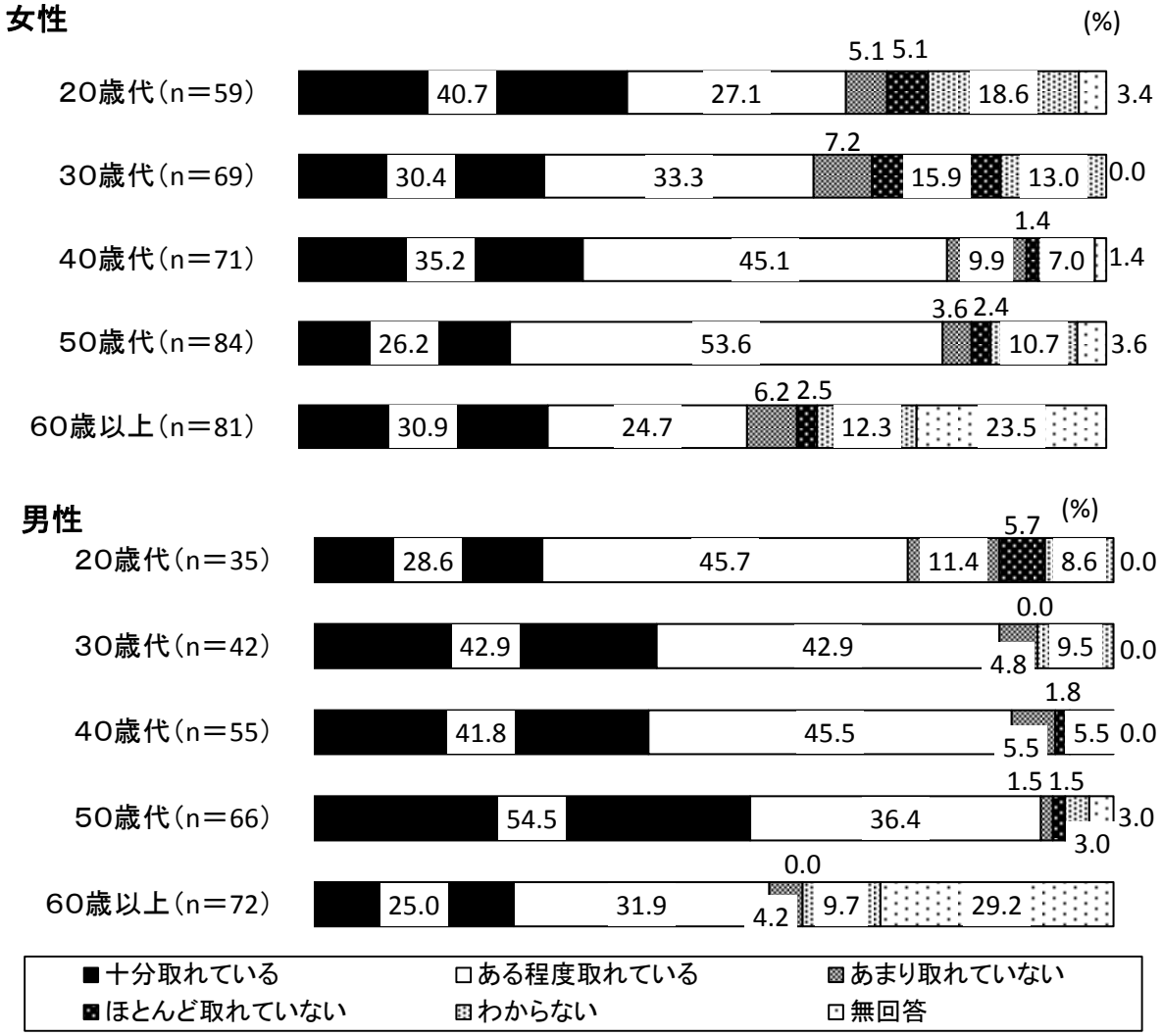
②仕事のための時間

【性　別】



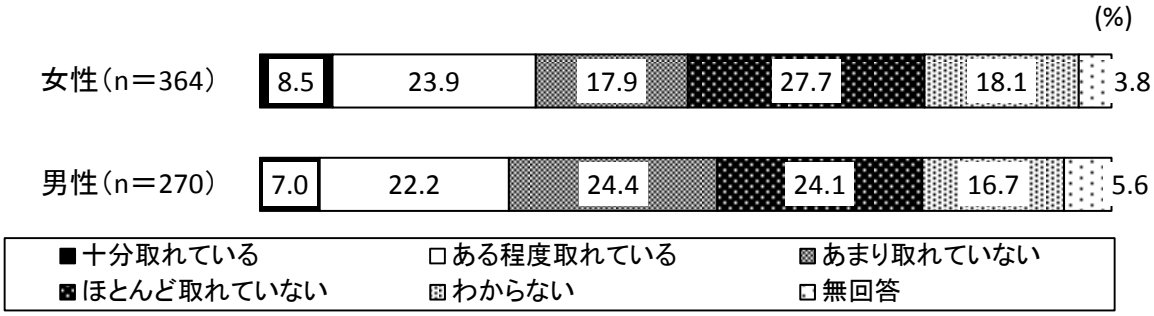
「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合は、女性より男性の方が8．7ポイント多い。これに対し、「ほとんど取れていない」と回答した人の割合は、男性より女性の方が3．7ポイント多くなっている。

【性・年齢別】



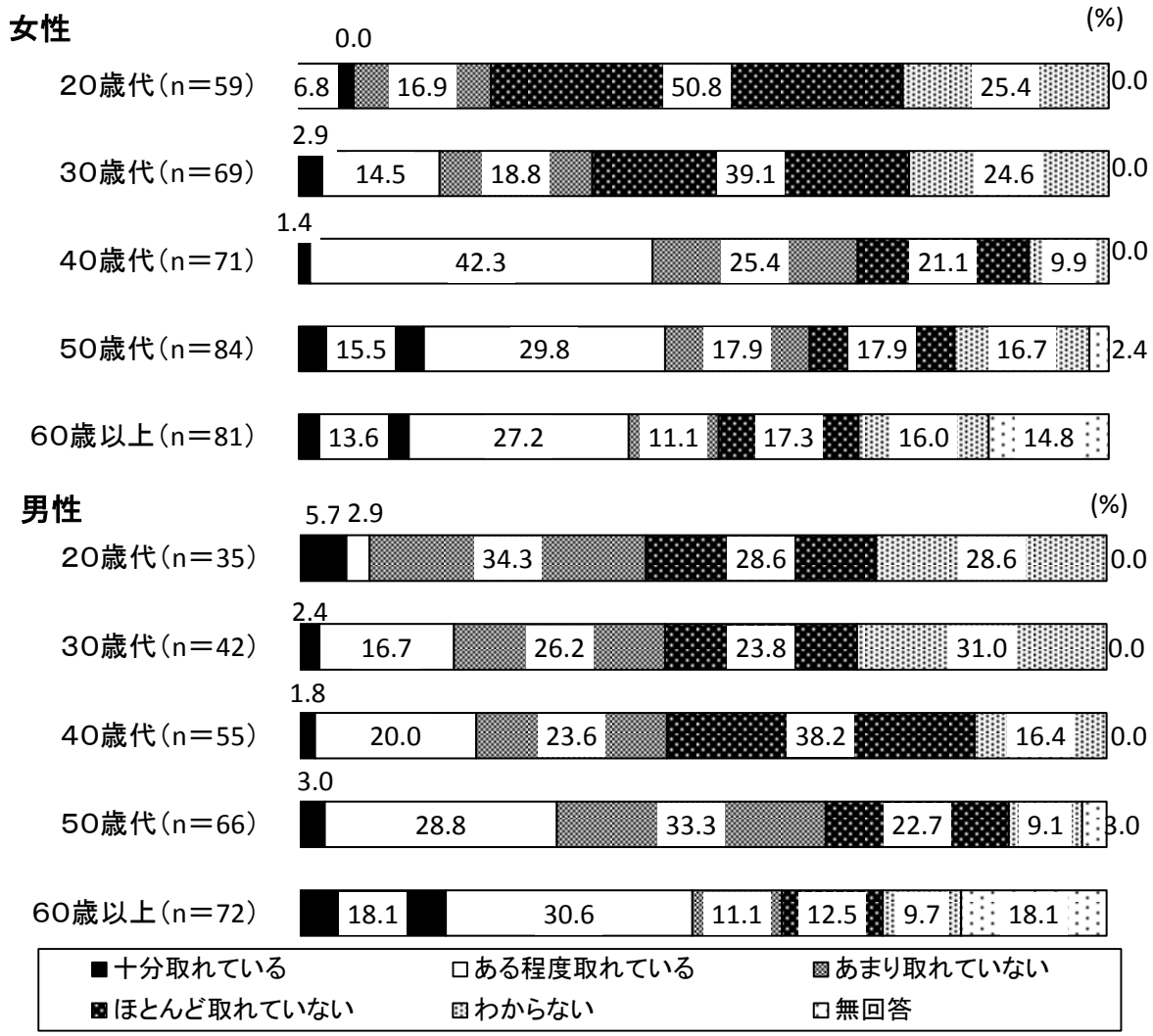
「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合は、女性が40歳代で8割、男性は50歳代で9割となっている。これに対し、「ほとんど取れていない」と回答した割合で最も高いのは、女性30歳代で15．9%、男性20歳代で5．7%となっている。

③地域活動に参加する時間
【性　別】



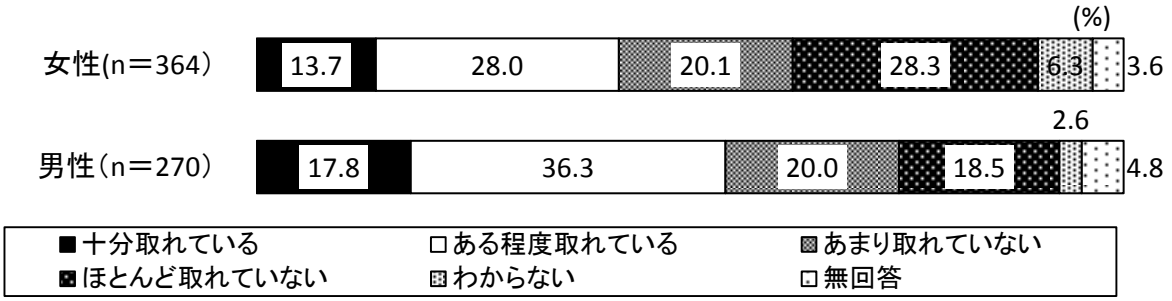
「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合で、性別による差は3．2ポイントである。

【性・年齢別】



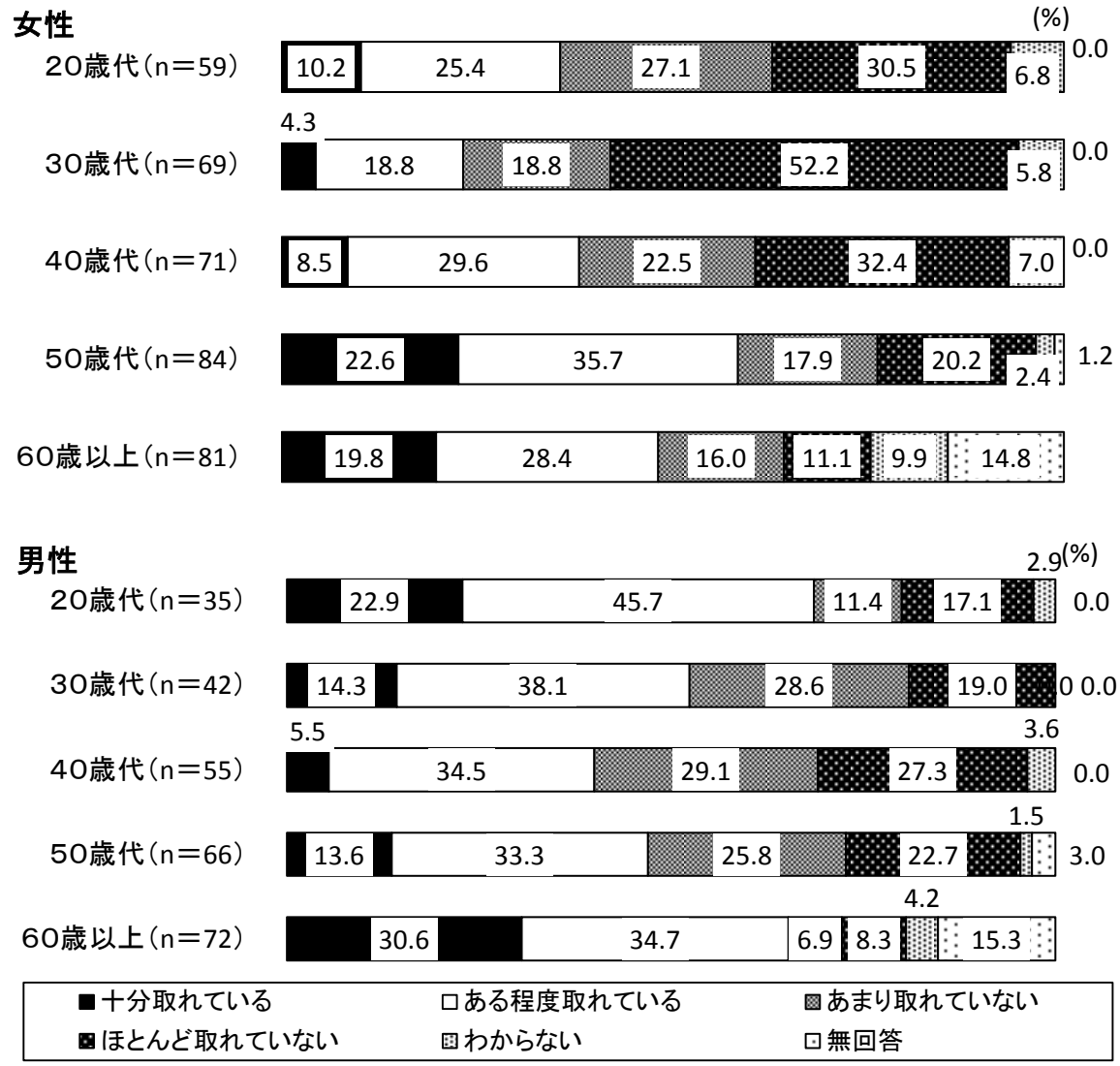
「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合は全体的に低いが、女性の60歳以上を除き、男女とも年代が上がるにつれ、参加する時間が取れている傾向にある。

④学習・趣味・スポーツなどのための時間
【性　別】



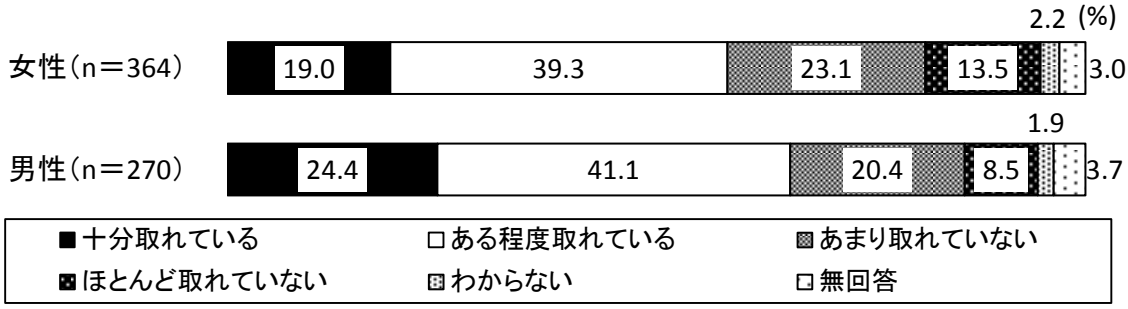
「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合は、女性より男性の方が12．4ポイント多い。これに対し、「ほとんど取れていない」と回答した人の割合は、男性より女性の方が9．8ポイント多くなっている。

【性・年齢別】



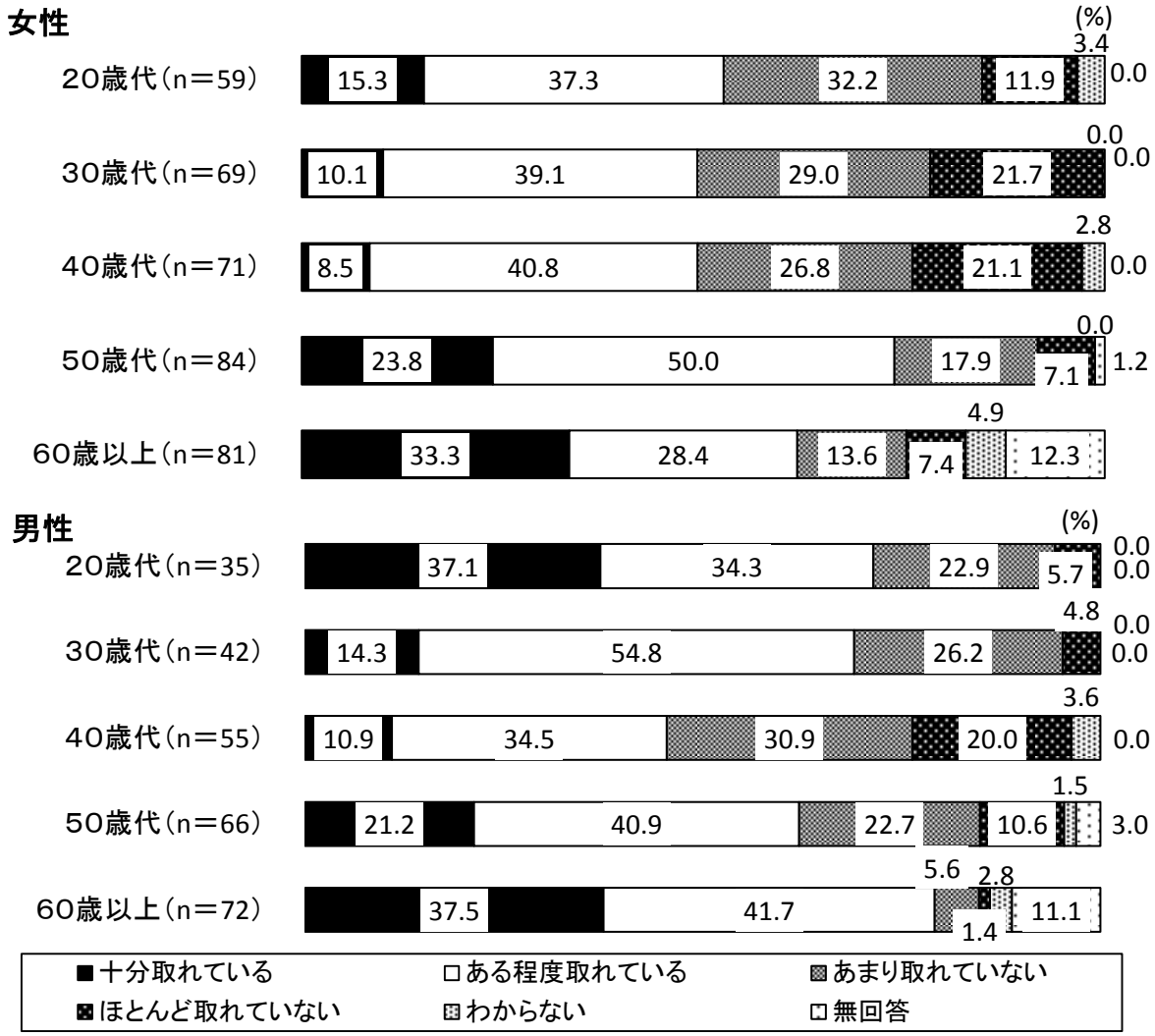
「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合で最も高いのは、女性は50歳代で58．3%、男性は20歳代で68．6%となっている。
　これに対し、女性の30歳代は「ほとんど取れていない」が52．5%となり、同性の年代によっても大きな差がある。

⑤休養のための時間
【性　別】



「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合は、女性より男性の方が7．2ポイント多い。これに対し、「ほとんど取れていない」と回答した人の割合は、男性より女性の方が5ポイント多くなっている。

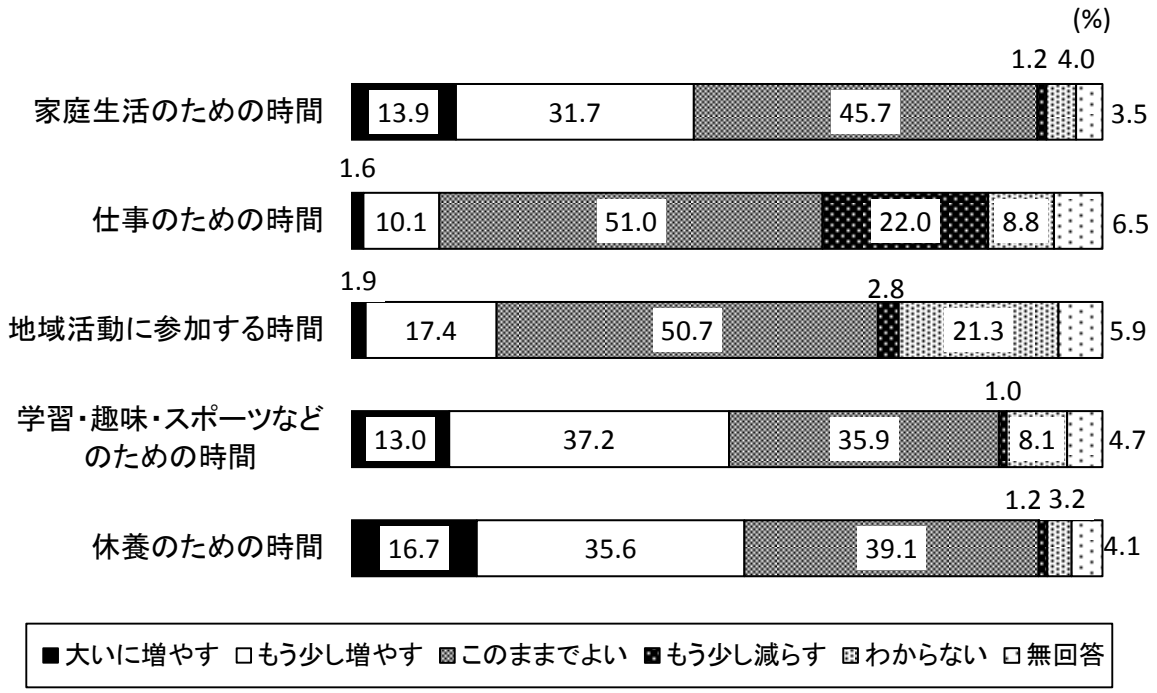
【性・年齢別】



「十分取れている」、「ある程度取れている」と回答した人の合わせた割合で最も高いのは、女性は50歳代で73．8%、男性は60歳以上で79．2%となっている。
これに対し、「ほとんど取れていない」と回答した人の割合で最も高いのは、女性30歳代で21．7%、男性40歳代で20%となっている。

（3）ワークライフバランスの理想について
【全　体】

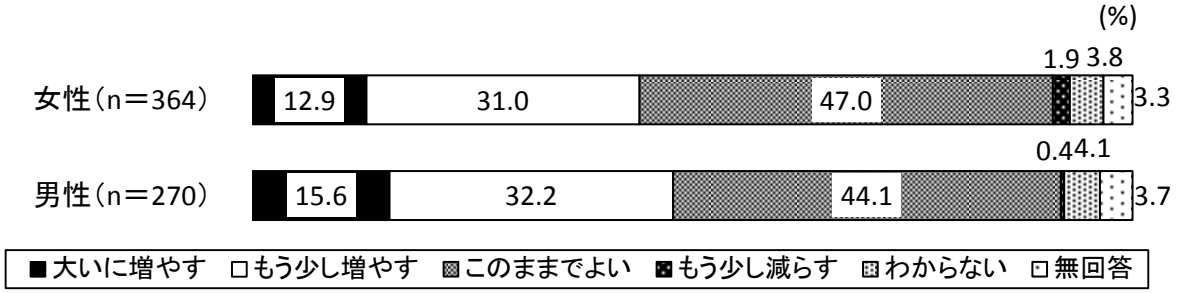
問11（2）あなたは、日常生活の中で、次の（1）～（5）について、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。それぞれについてあてはまるものを1つずつお選びください。（○は1つずつ）



「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、「休養のための時間」が52．3%で最も多く、次いで「学習・趣味・スポーツなどのための時間」が50．2%となっている。
これに対し、「仕事のための時間」は「もう少し減らす」が22%で、全項目の中で最も多い。

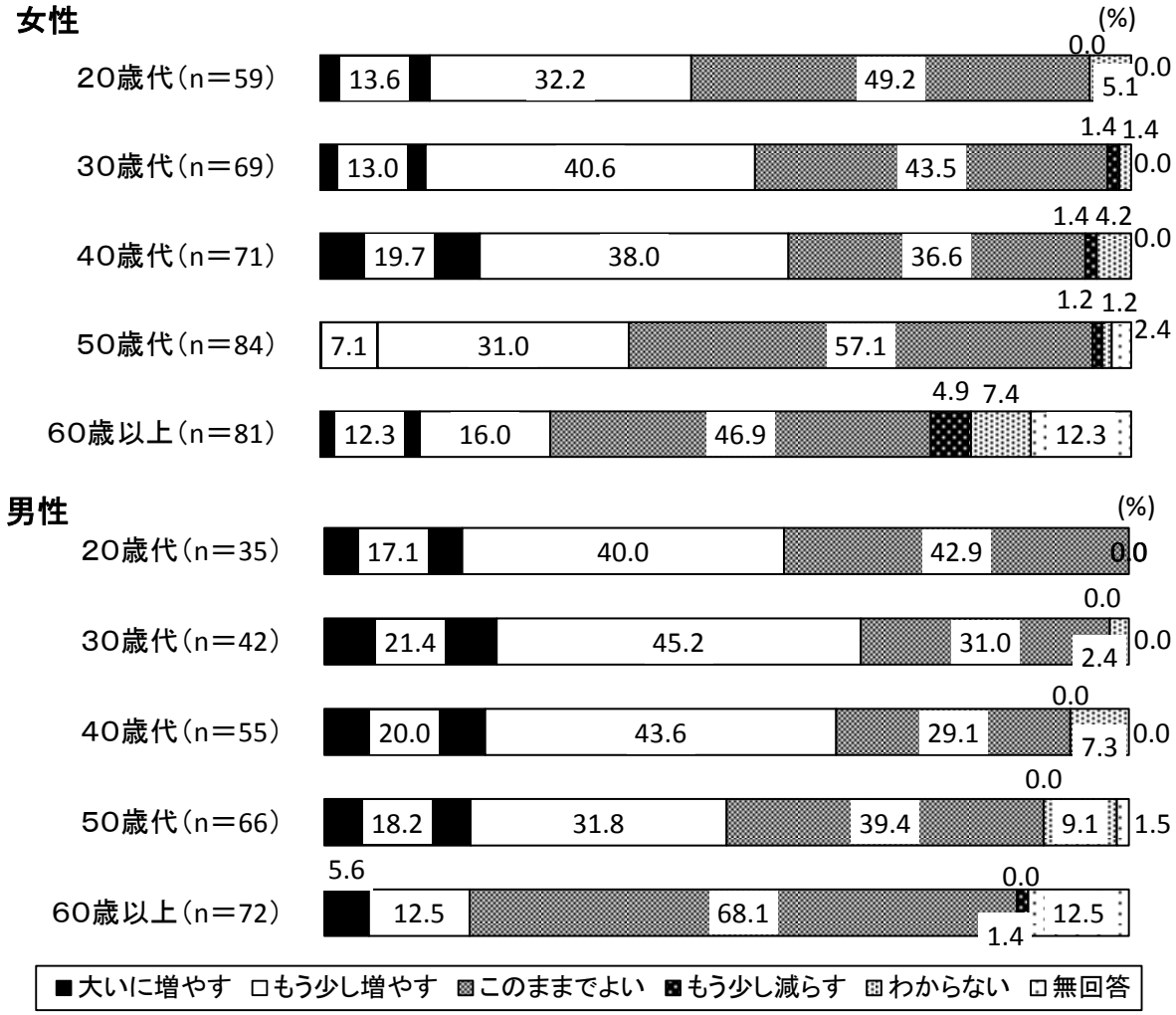
①家庭生活のための時間

【性　別】



「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、女性より男性の方が3．9ポイント多い。

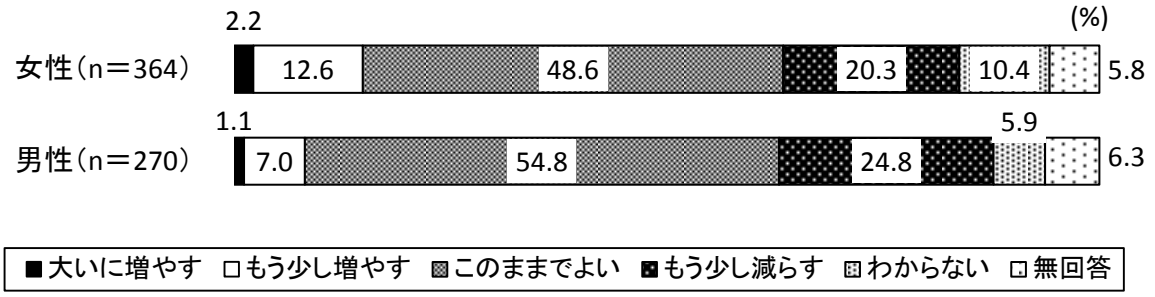
【性・年齢別】



「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、女性の30・40歳代で5割を超え、男性の30・40歳代で6割を超えている。また、「このままでよい」と考える人の割合は、女性が50歳代で57．1%、男性が60歳以上で68．1%とそれぞれ最も多くなっている。

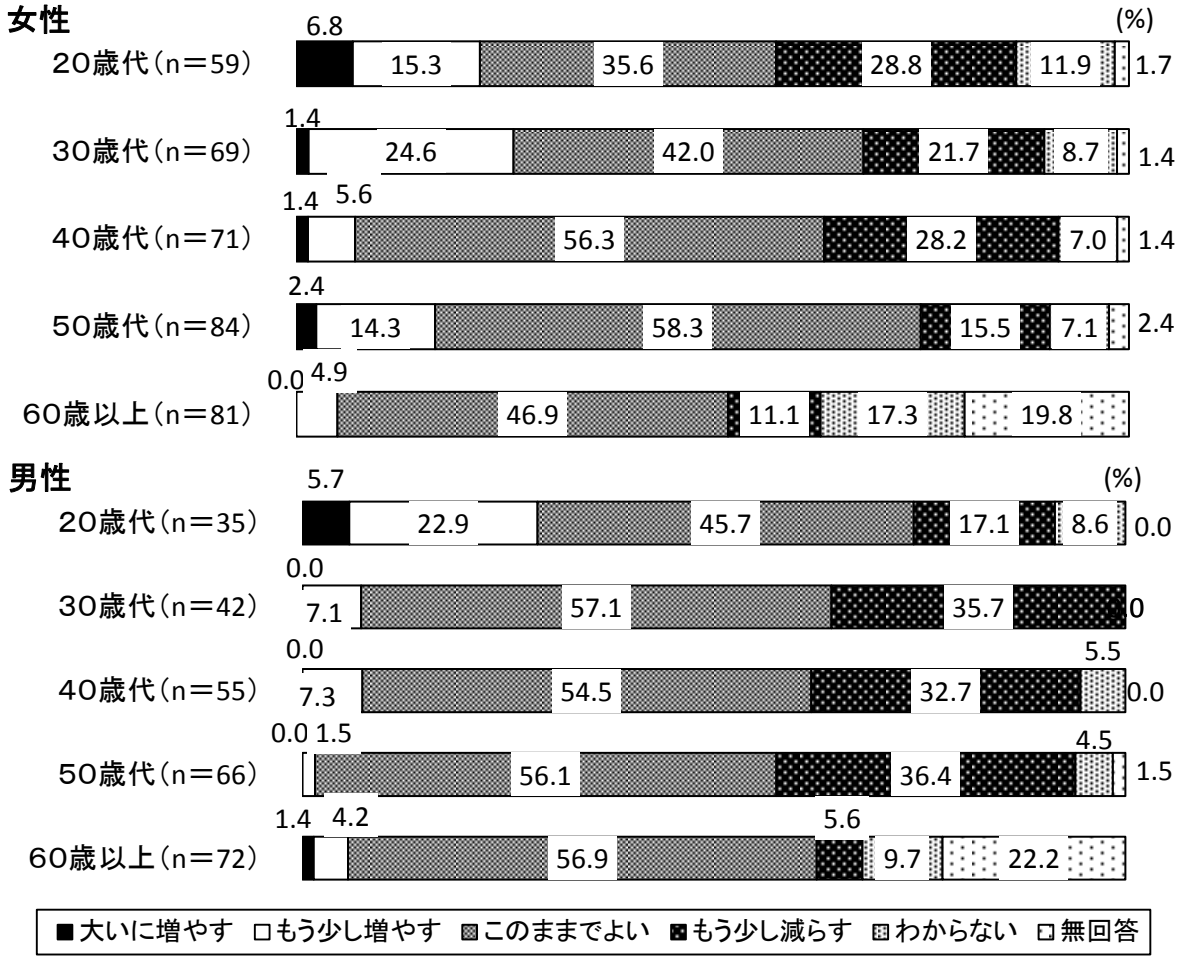
②仕事のための時間

【性　別】



「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男性より女性の方が6．7ポイント多く、「もう少し減らす」は女性より男性の方が4．5ポイント多くなっている。

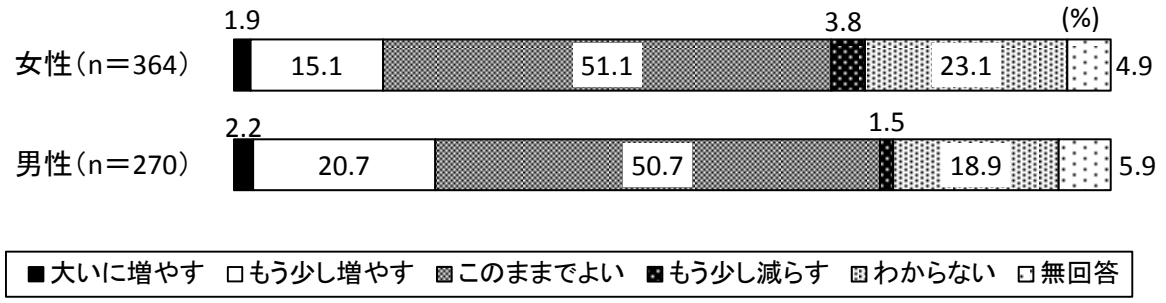
【性・年齢別】



「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、女性の30歳代で26％、男性の20歳代で28．6％と性別で最も多い。これに対し、「もう少し減らす」と考える人の割合は、女性の20歳代で28．8％、男性の50歳代で36．4％と性別で最も多くなっている。

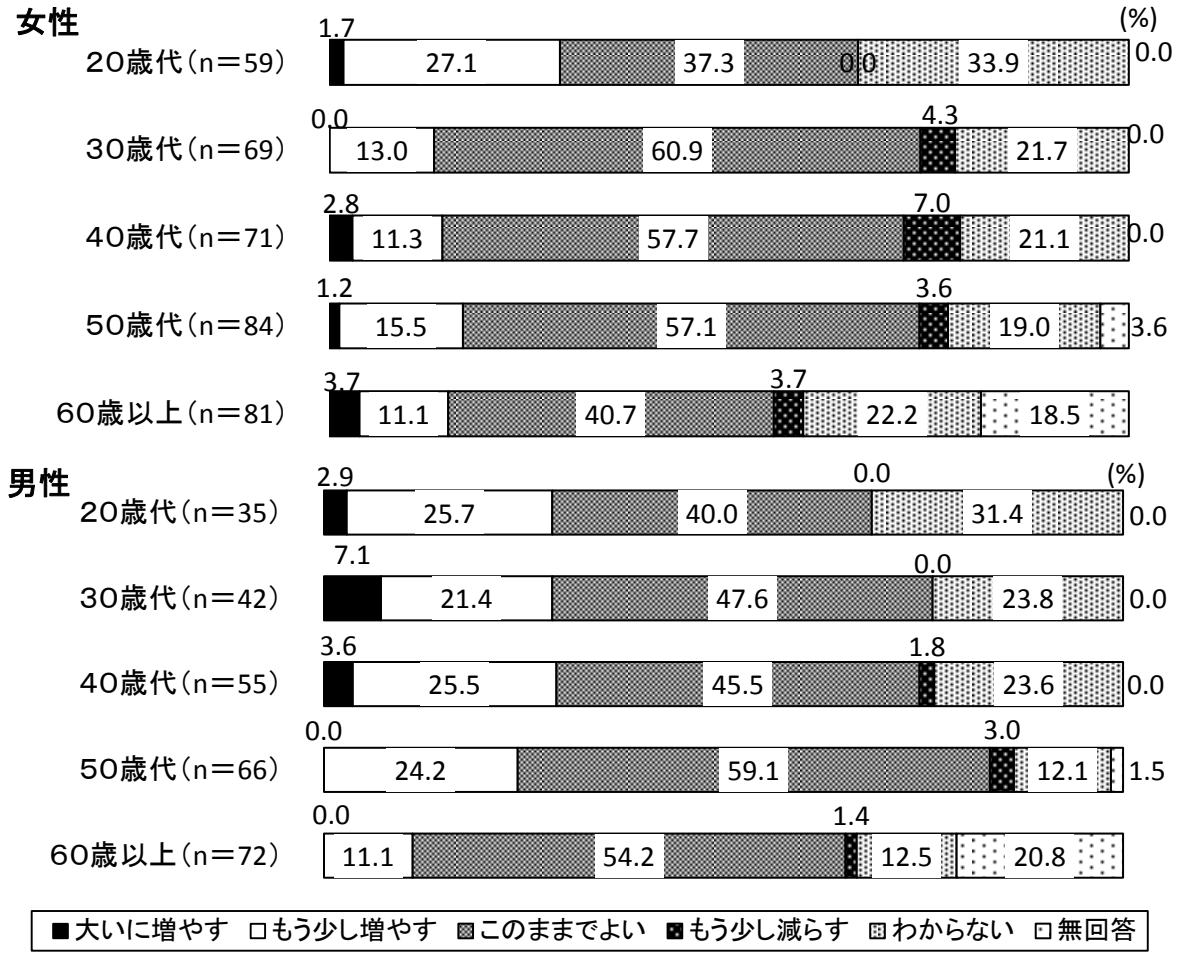
③地域活動に参加する時間

【性　別】



「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、女性より男性の方が5．9ポイント多く、「このままでよい」と考える人の割合は、男女とも5割を占めている。

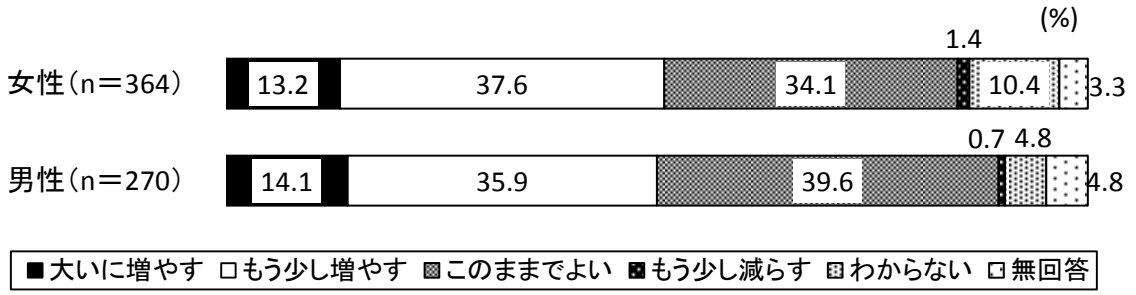
【性・年齢別】



「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、女性の20歳代で28．8%、男性の40歳代で29．1%と性別で最も多い。
「わからない」と考える人の割合は、「家庭生活」や「仕事」のための時間と比べると、男女とも全ての年代で多い傾向にある。

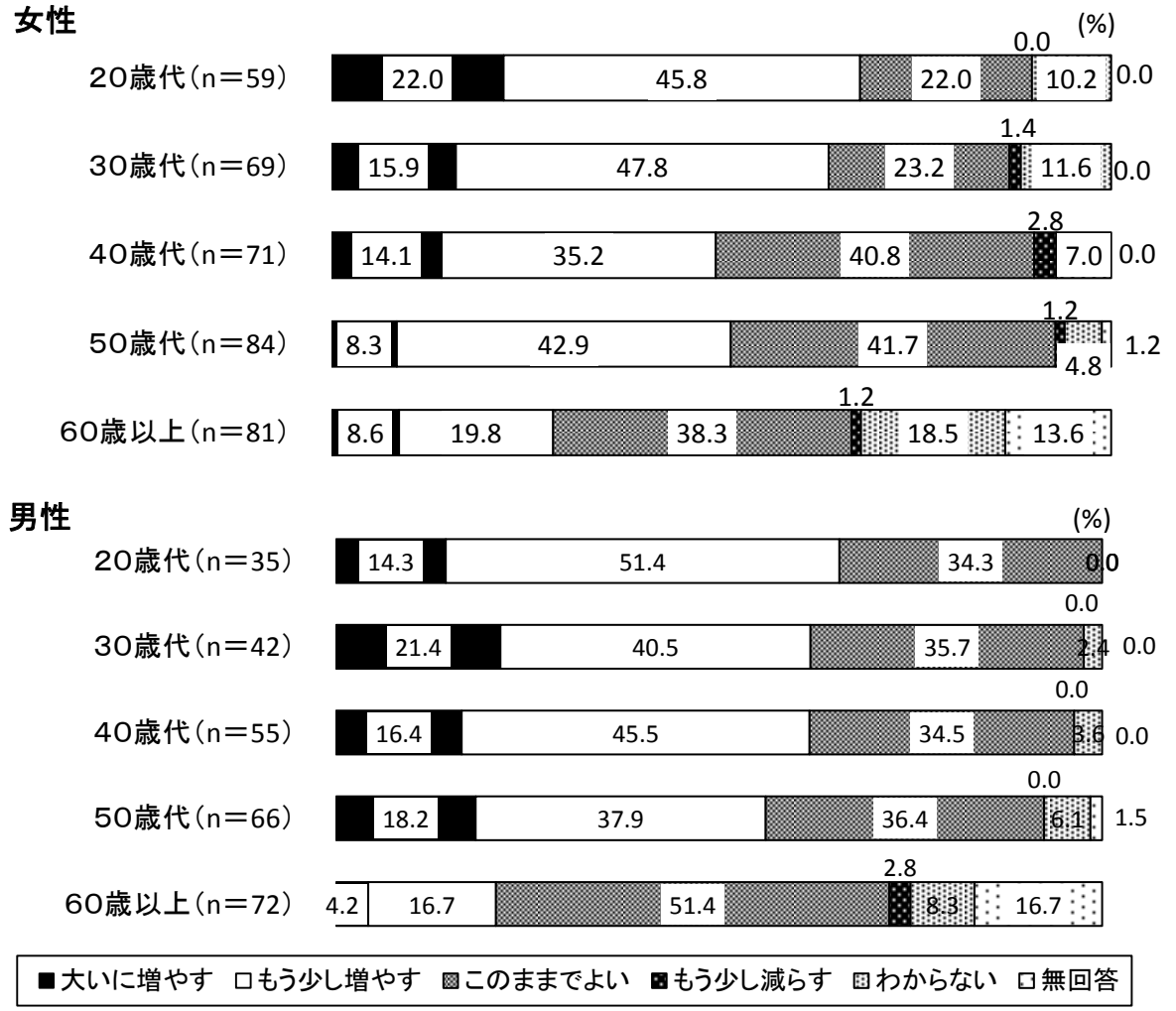
④学習・趣味・スポーツなどのための時間

【性　別】



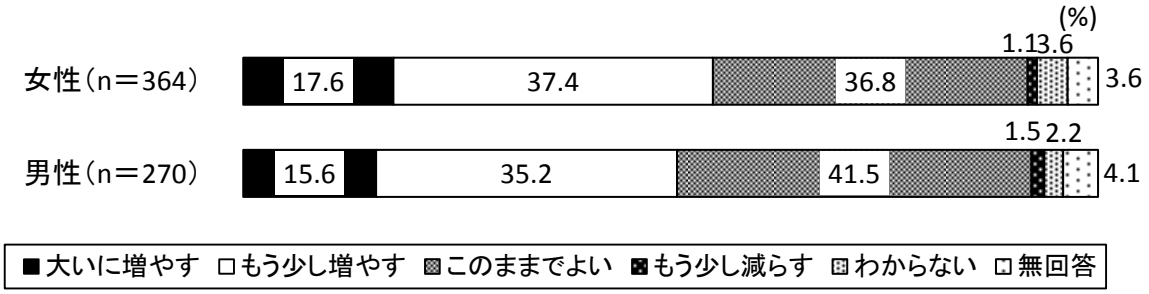
「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男女とも5割を占め、性別による差は0．8ポイントと小さい。

【性・年齢別】



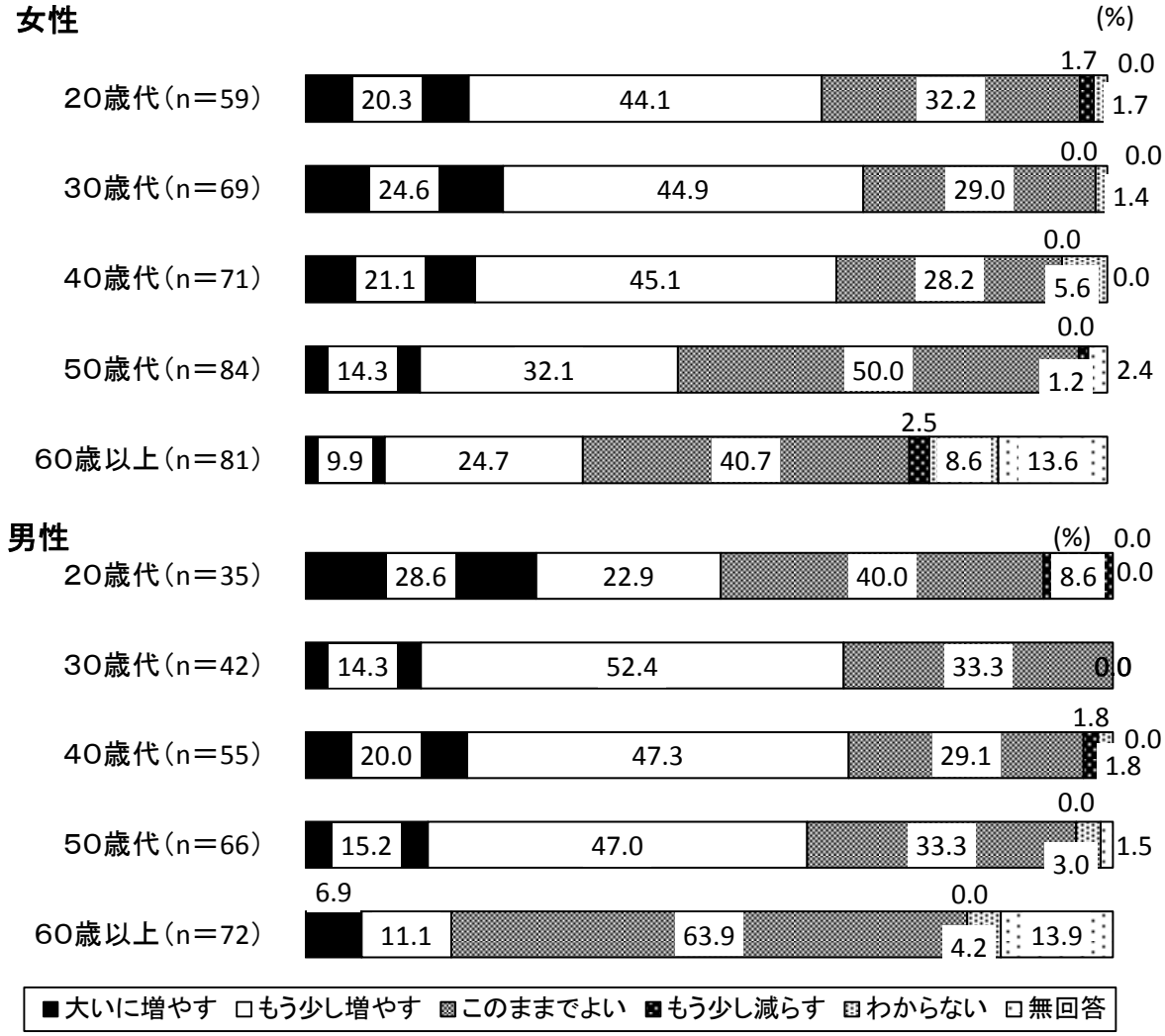
「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男女とも20歳代が最も多く、女性の20歳代で67．8%、男性の20歳代で65．7%となっている。

⑤休養のための時間
【性　別】



「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男性より女性の方が4．2ポイント多い。

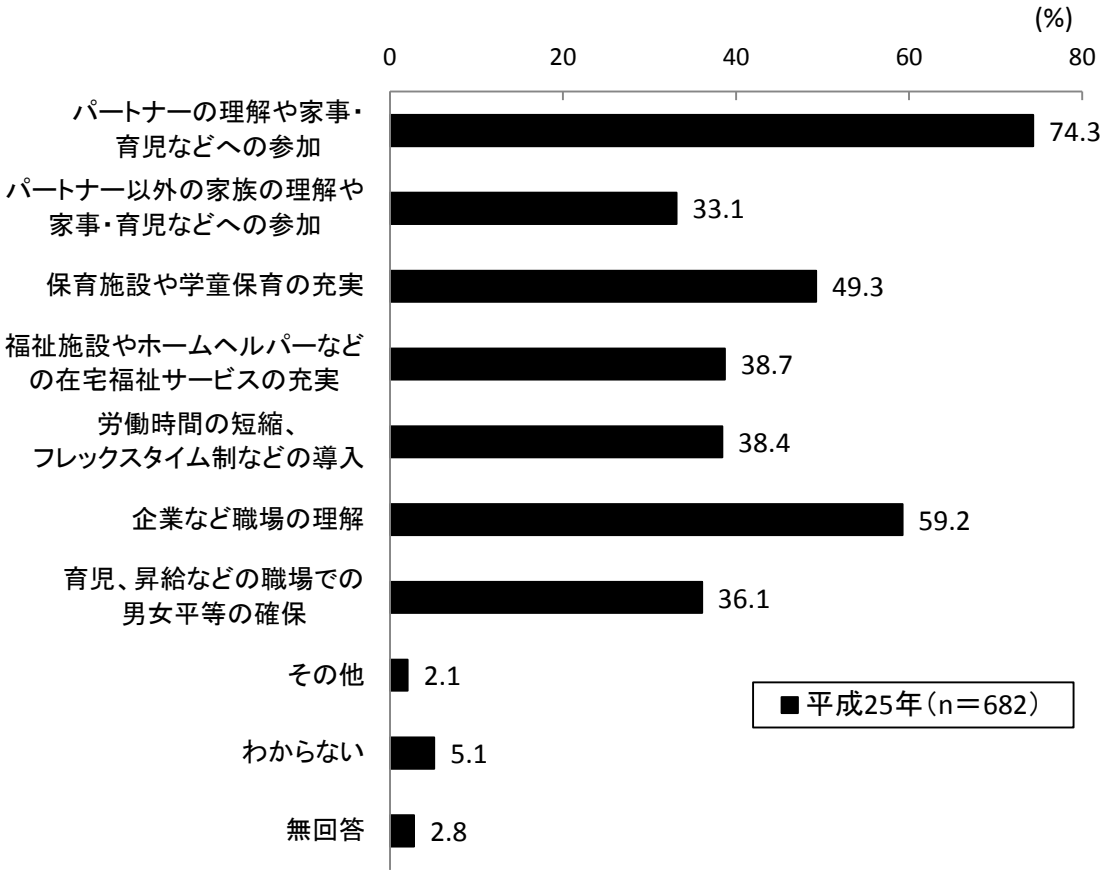
【性・年齢別】



「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、女性では20・30・40歳代で6割を超え、男性では30・40・50歳代で6割を超えている。

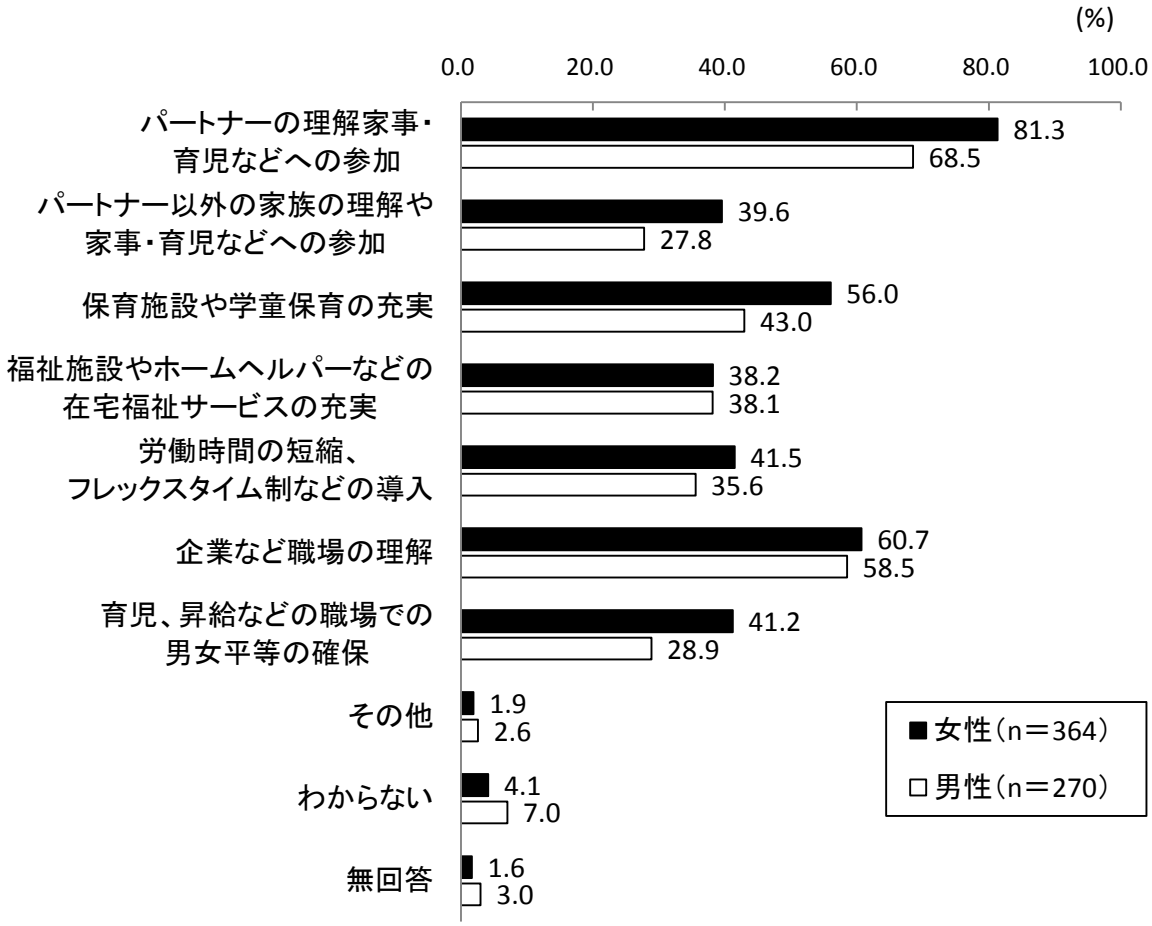
（4）男女が仕事や家庭・地域生活を両立するために必要なこと
【全　体】

問12　あなたは、男女が仕事や家庭・地域生活などを両立するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。（○はいくつでも）



男女が仕事と家庭・地域生活を両立するために必要なことについて、「パートナーの理解や家事・育児などへの参加」74．3%が最も多く、以下「企業など職場の理解」59．2%、「保育施設や学童保育の充実」49．3%の順となっている。

【性　別】



男女とも、「パートナーの理解と協力」が最も多く、女性81．3%、男性68．5%となっているが、性別による差が12．8ポイントと大きい。
これに対し、「企業など職場の理解」と答えた人の男女差は、2．2ポイントと小さく、男女ともに同程度職場への理解を求めている。

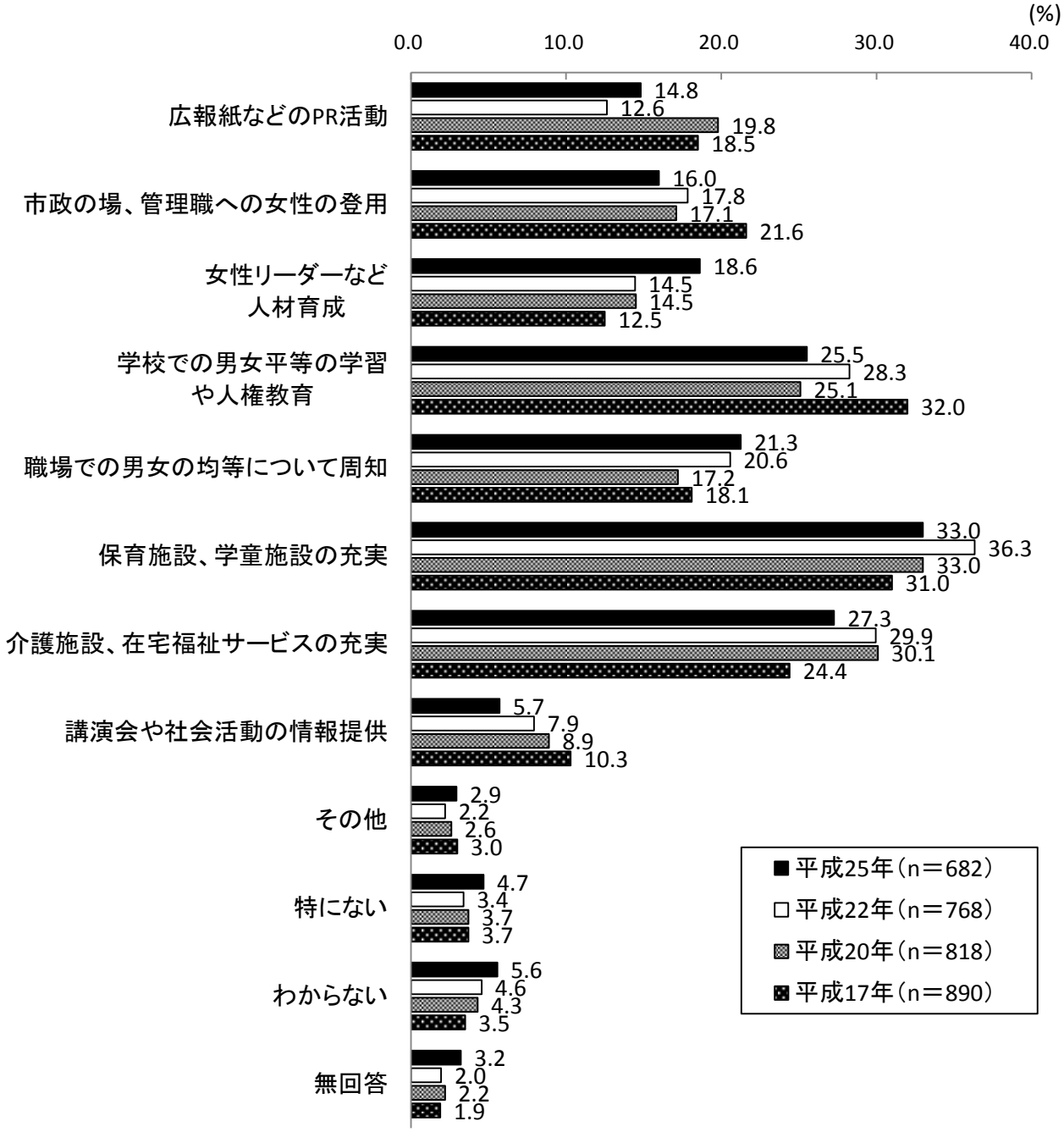
6．男女共同参画社会について

（1） 市が力を入れるべき取り組み

【全　体】

「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」のことです。

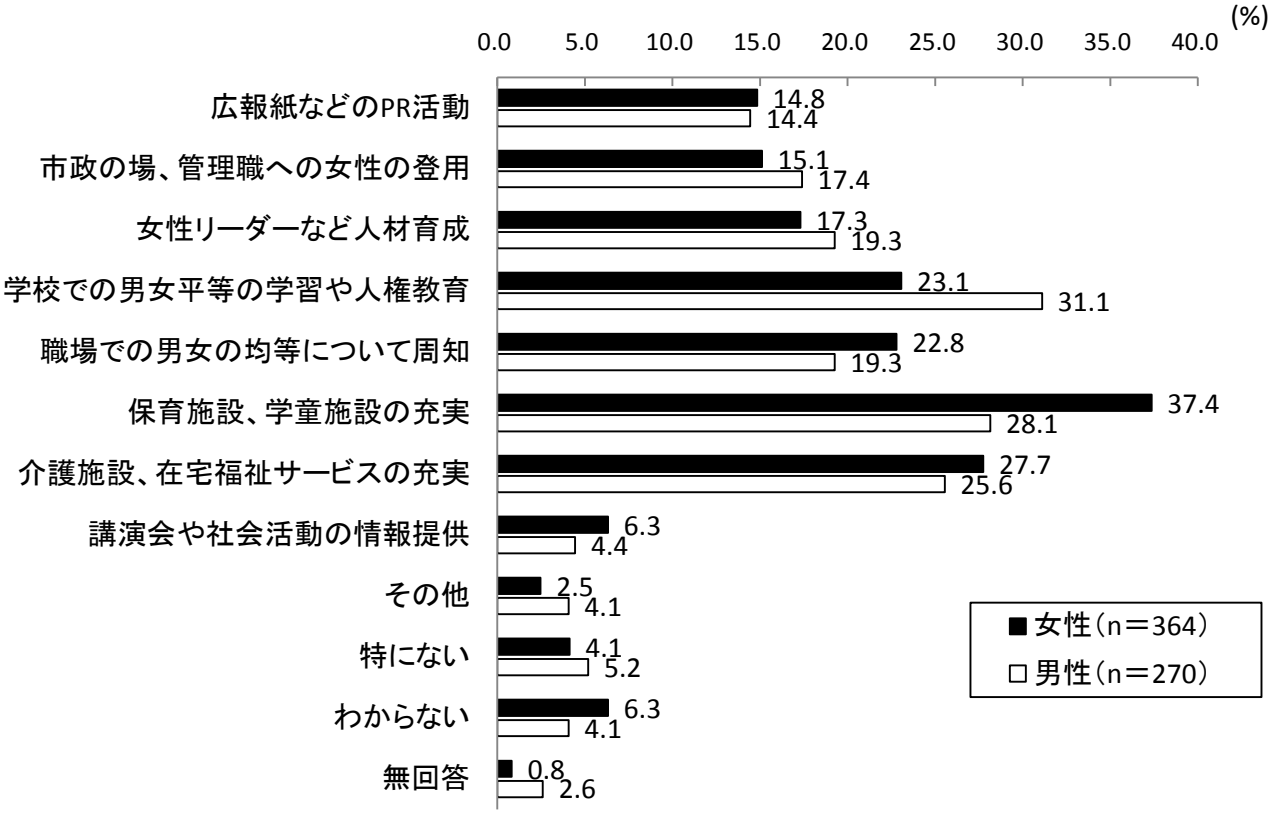
問13　あなたは、このような社会を築いていくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から2つまでお選びください。（○は2つまで）



市が力を入れるべき取り組みについて、「保育施設や学童保育などの子どもを預かってくれる施設を充実する」33%が最も多く、以下「高齢者や障害者に対する介護施設の整備や在宅福祉サービスを充実する」27．3%、「学校教育の場で男女の平等についての学習や人権教育を進める」25．5%の順になっている。

平成17年調査と比較すると、「学校教育の場で男女の平等についての学習や人権教育を進める」が6．5ポイント減少している一方で、「女性リーダーなど人材を育成する」が6．1ポイント増加している。

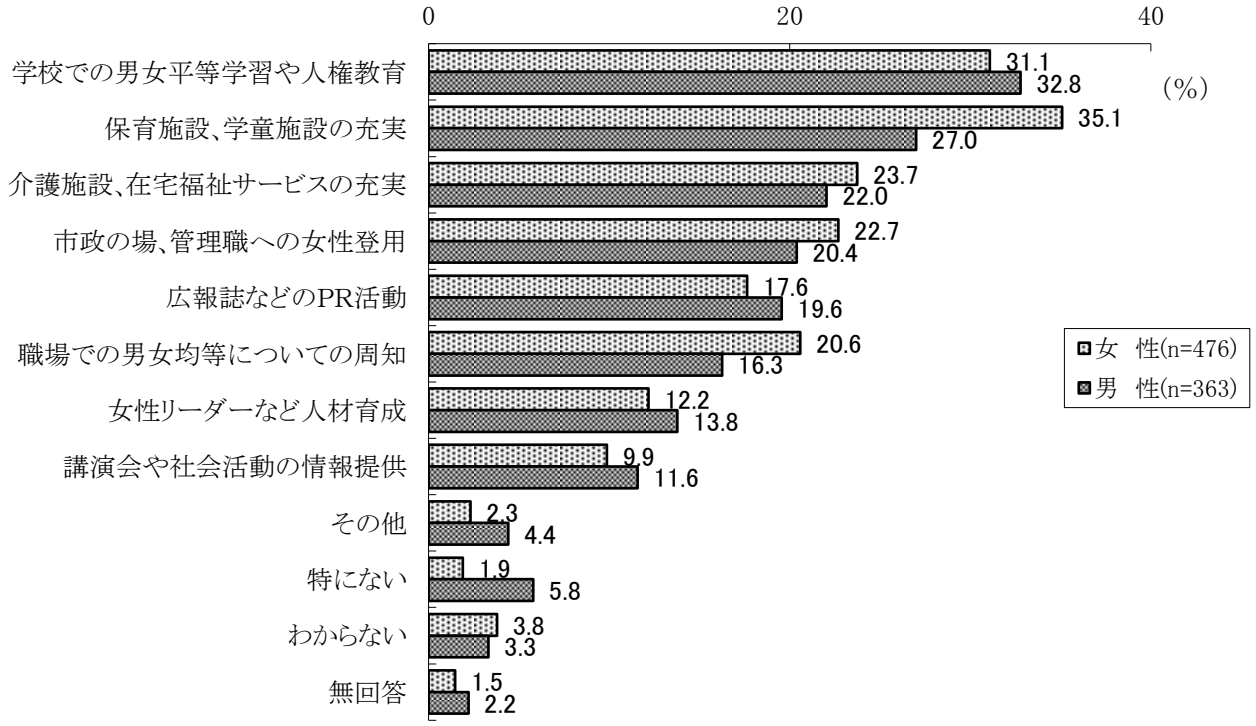
【性　別】



「保育施設や学童保育などの子どもを預かってくれる施設を充実する」について、男性より女性の方が９．３ポイント多く、平成１７年調査よりも差が大きい。また、「学校での男女平等学習や人権教育」について、平成１７年調査では男性が１．７ポイント多かったが、今回の調査では８ポイント多く、差が大きくなっている。

参　考　平成17年10月調査結果

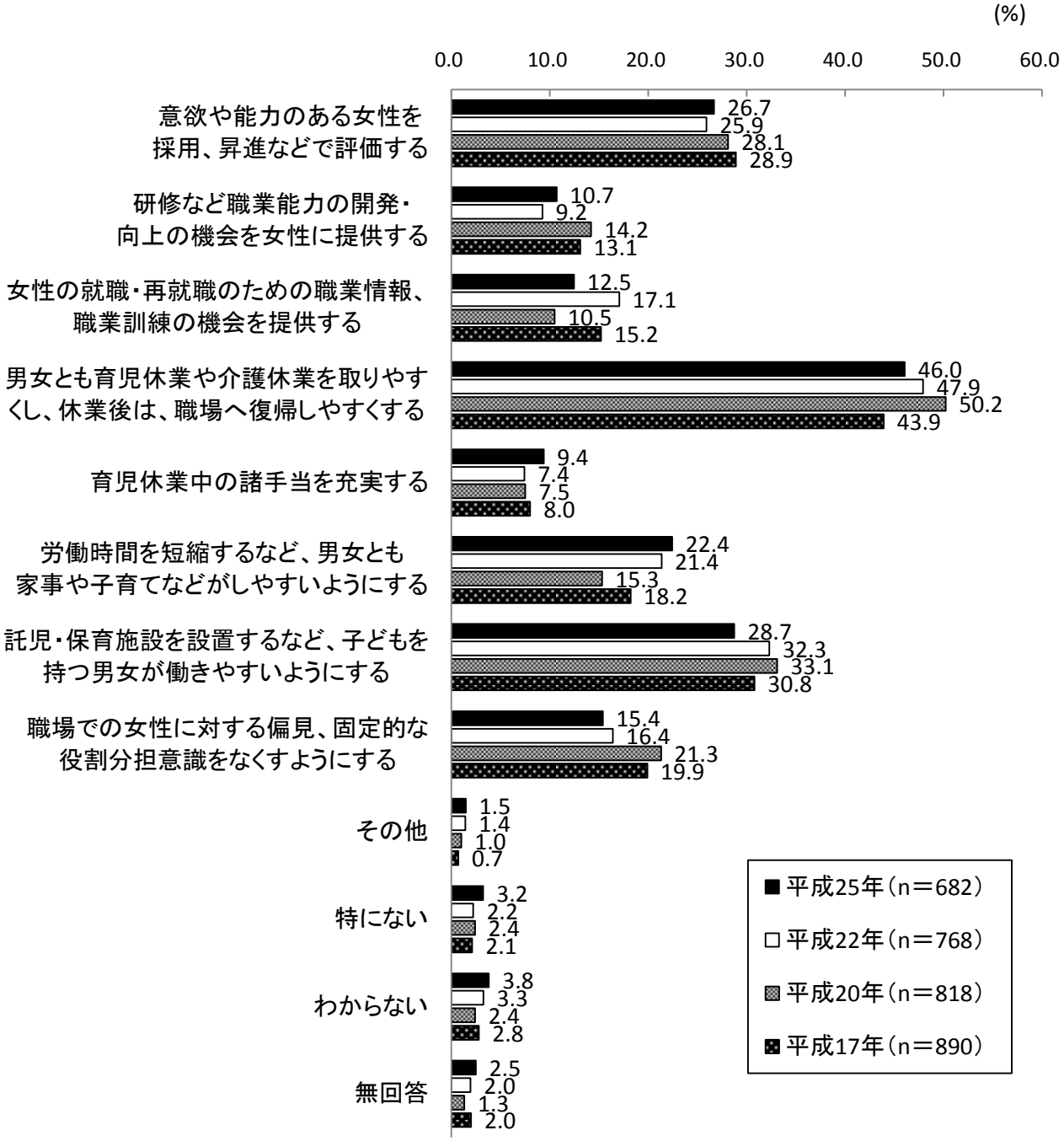
【性　別】



（2） 職場で力を入れるべき取り組み

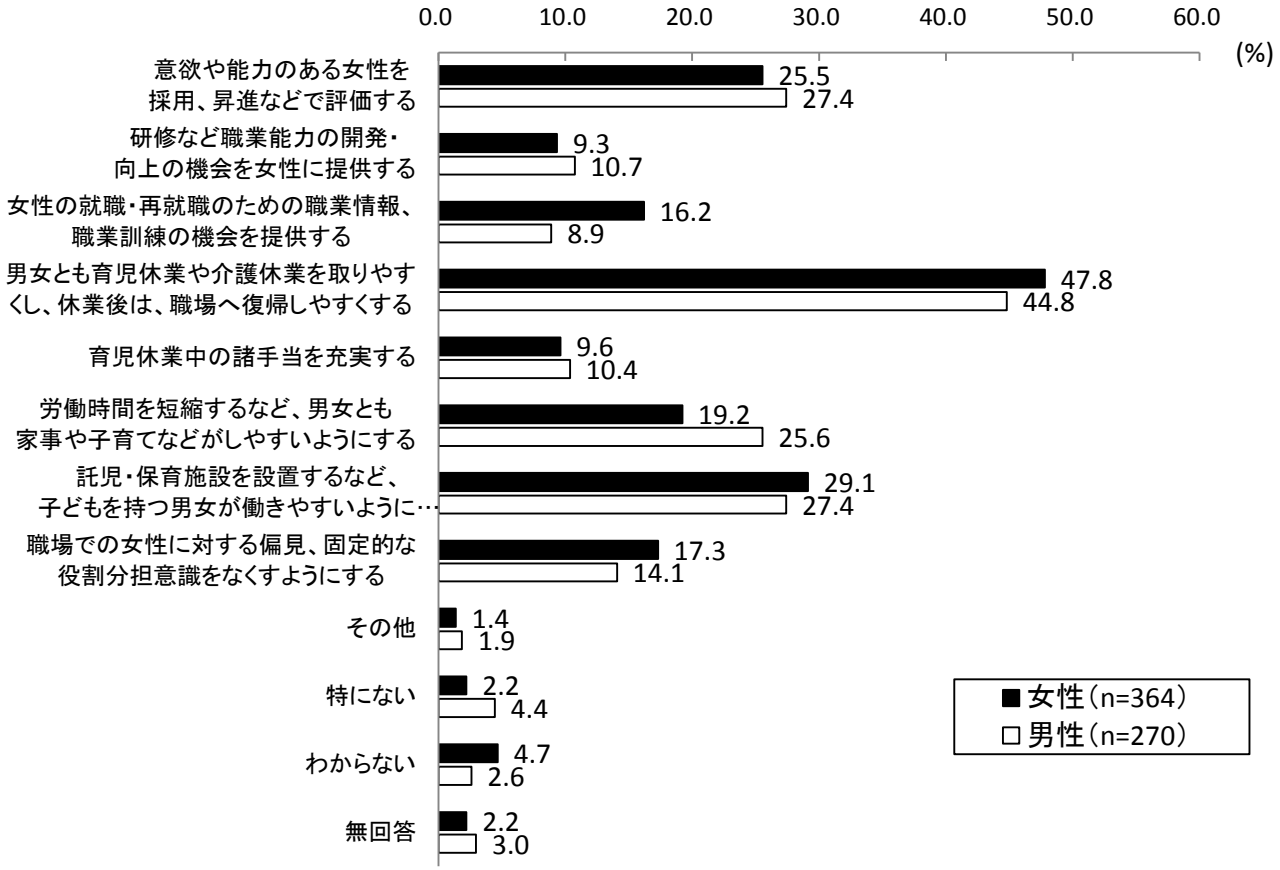
【全　体】

問14　あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。（○は2つまで）



「男女とも育児休業や介護休業を取りやすくし、休業後は職場へ復帰しやすくする」46%が最も多く、次いで「託児・保育施設を設置するなど、子どもを持つ男女が働きやすいようにする」28．7%と子育て支援に関する項目が上位となっている。これまでの調査でも同様の結果が出ており、企業には子育て支援に力を入れてほしいと考えているようである。

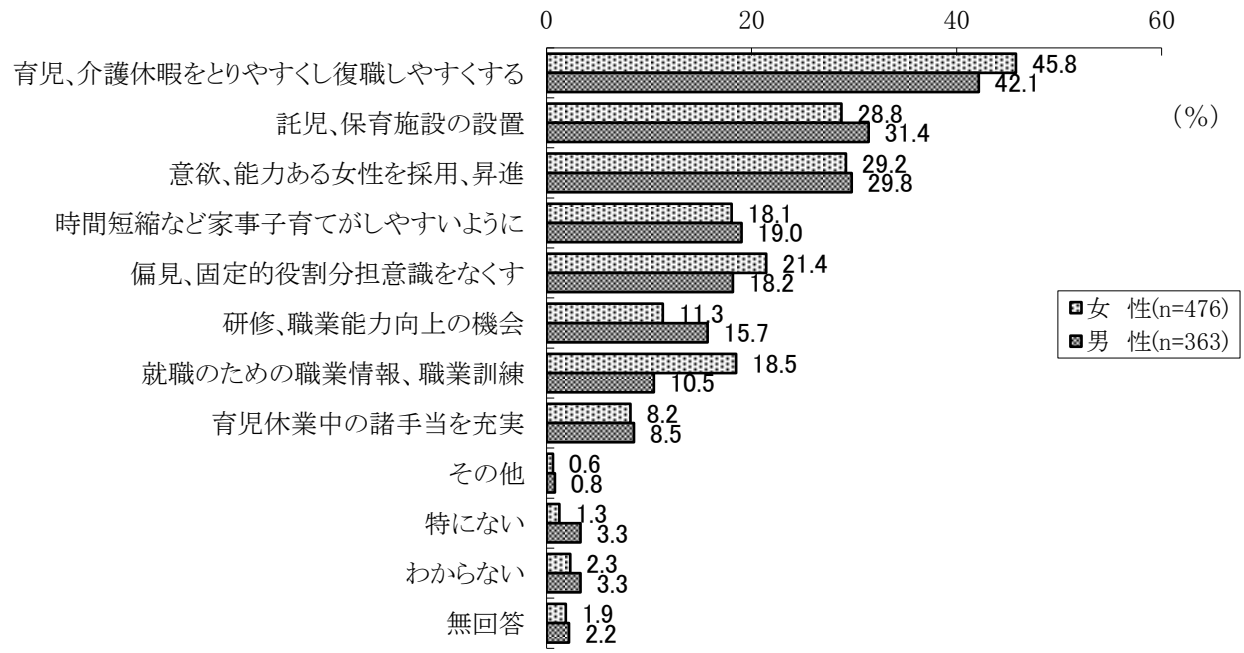
【性　別】



「男女とも育児休業や介護休業を取りやすくし、休業後は、職場へ復帰しやすくする」が女性４７．８%、男性４４．８%と共に高い値となった。「労働時間を短縮するなど、男女とも家事や子育てなどがしやすいようにする」について、平成１７年調査では男性が０．９ポイント多かったが、今回は６．４ポイント多くなっている。

参　考　平成17年10月調査結果

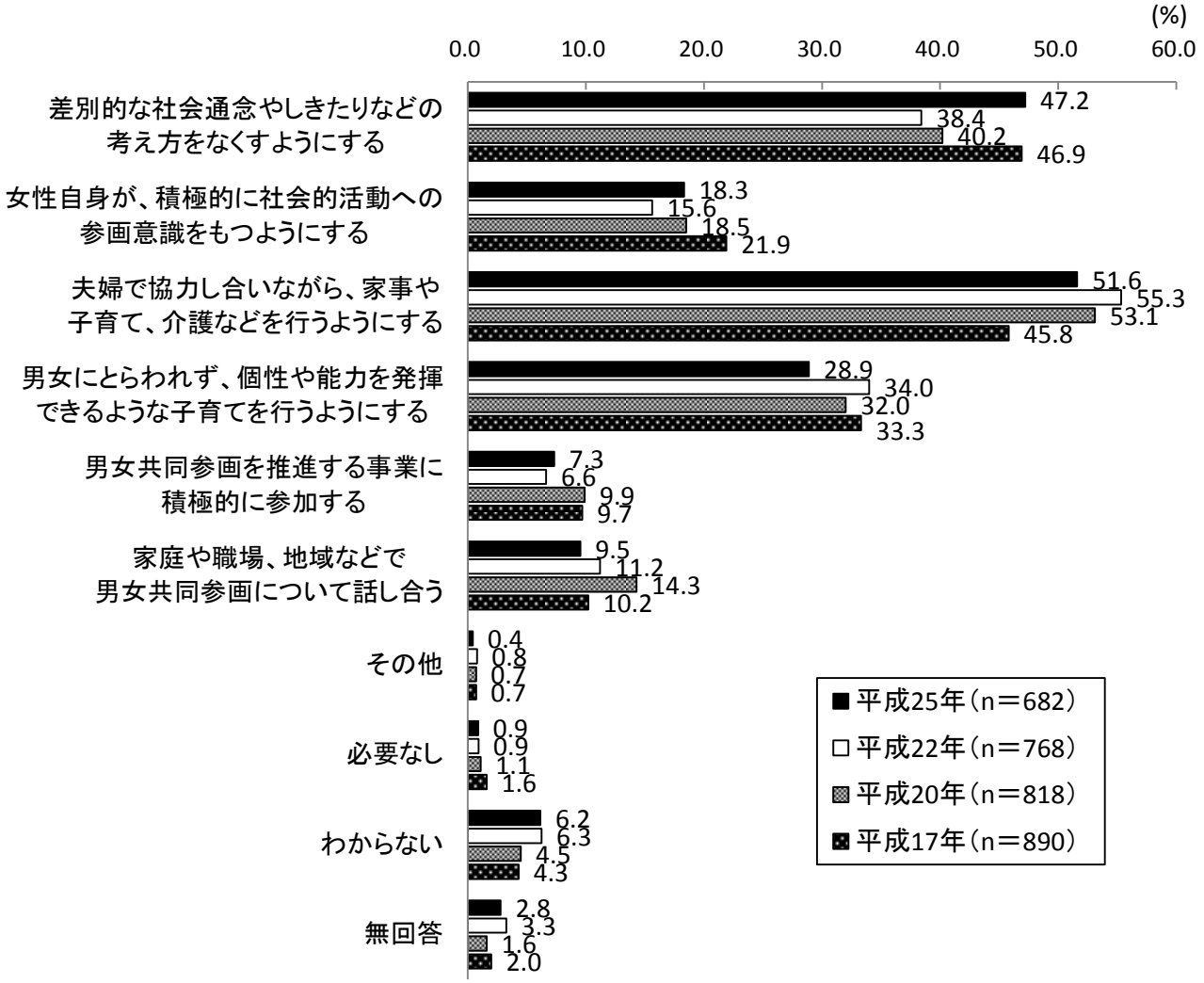
【性 別】



（3）私たち自身が必要な取り組み

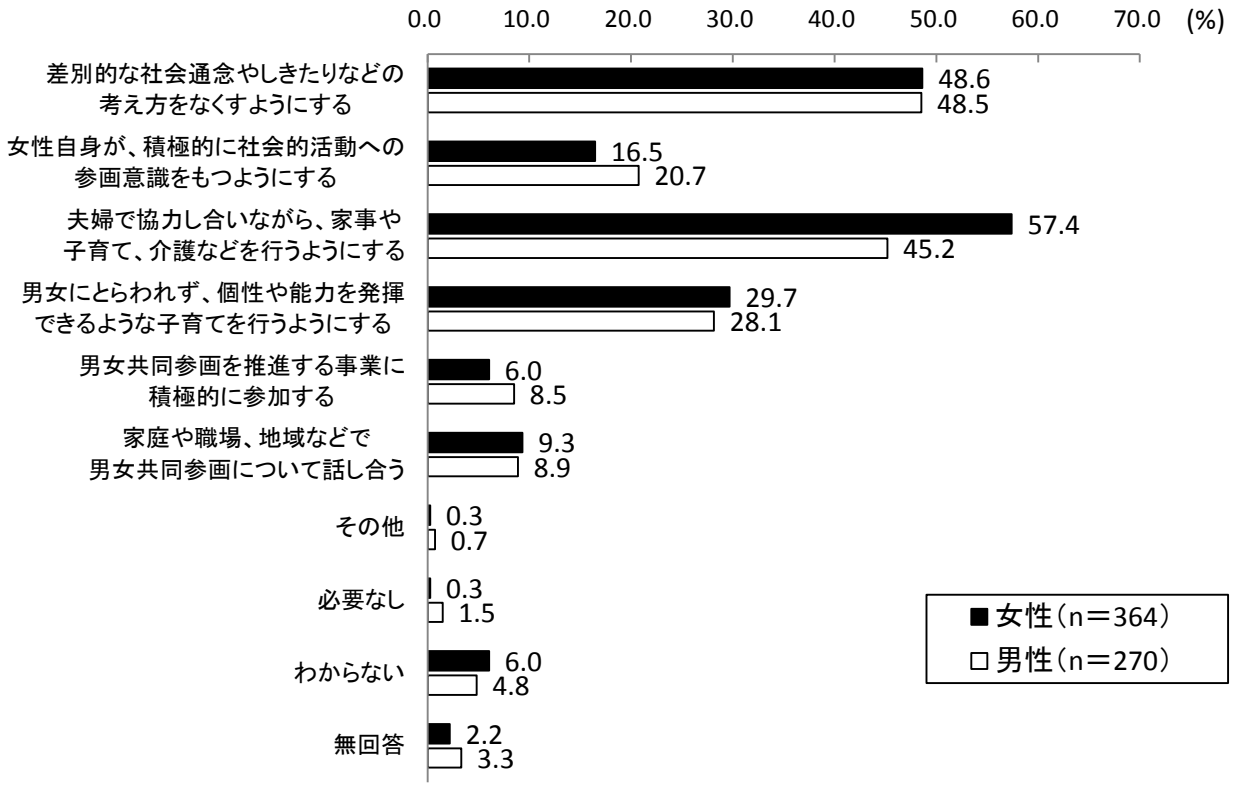
【全　体】

問15　あなたは、男女共同参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。（○は2つまで）



「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」51．6%が最も多く、次いで「差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする」47．2%の順になっている。平成17年調査と比較すると、「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は5．8ポイント増加しているが、前回調査よりは3．7ポイント減少している。

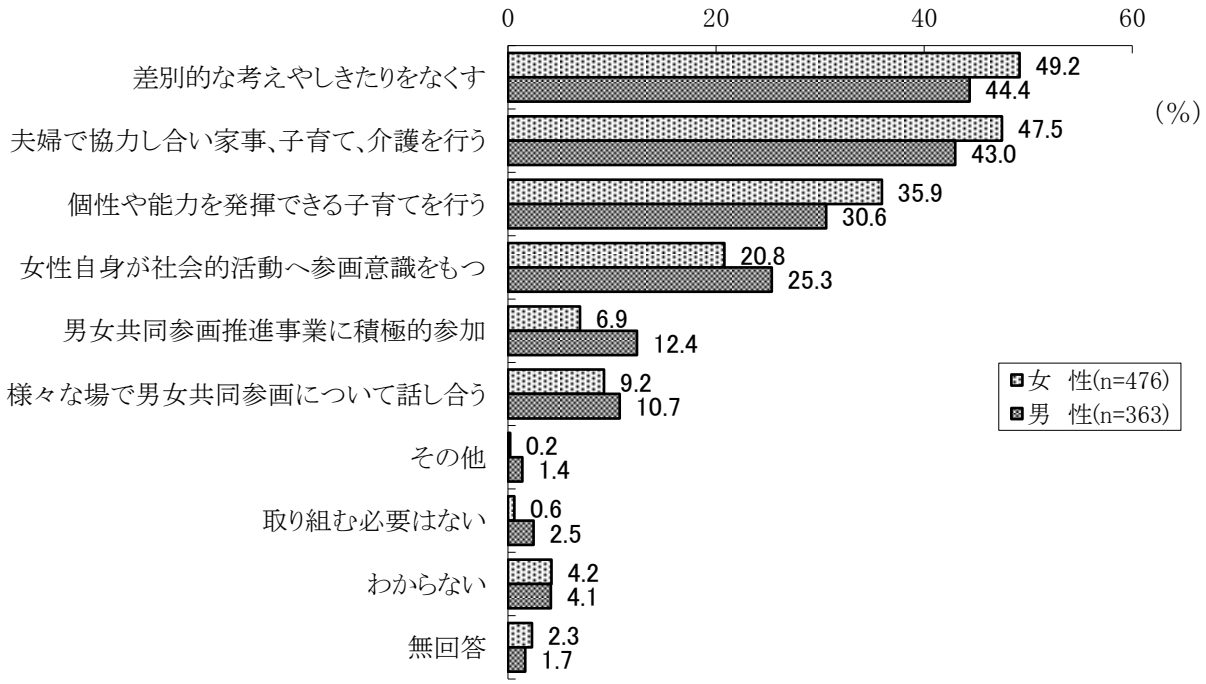
【性　別】



「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は、男性より女性の方が12．2ポイント多く、平成17年調査より差が大きい。「女性自身が、積極的に社会的活動への参画意識をもつようにする」、「男女共同参画を推進する事業に積極的に参加する」の割合は、女性より男性の方が高い。

参　考　平成17年10月調査結果

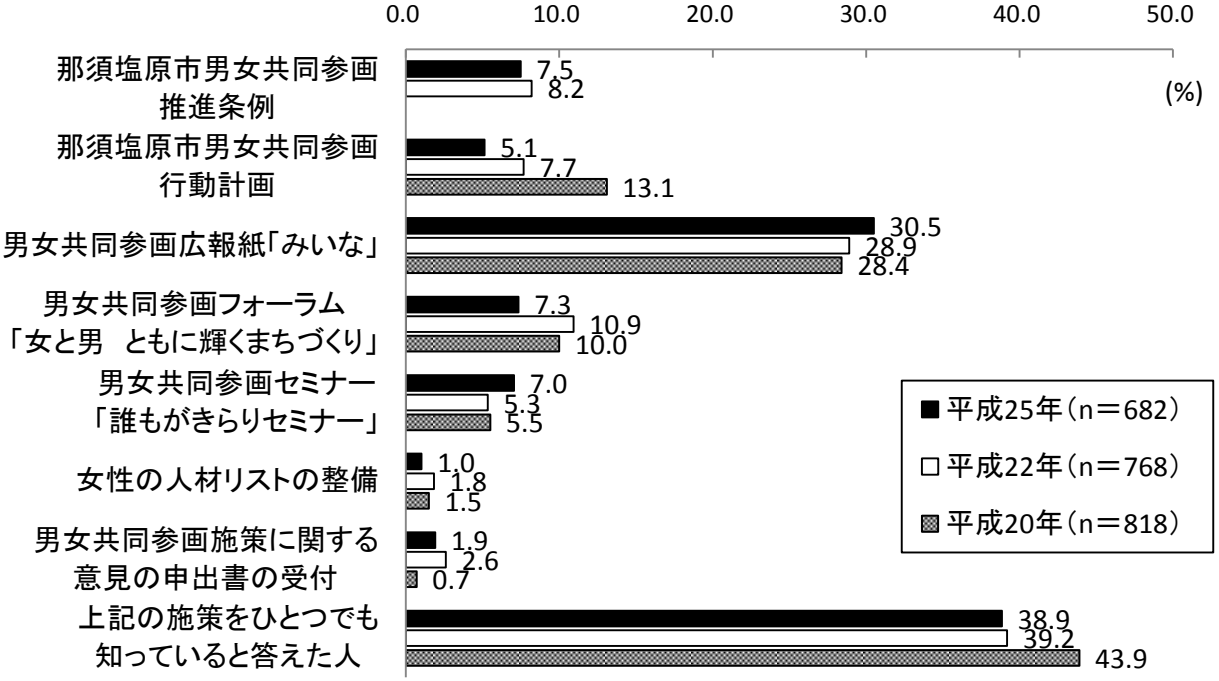
【性 別】



（4） 知っている市の施策

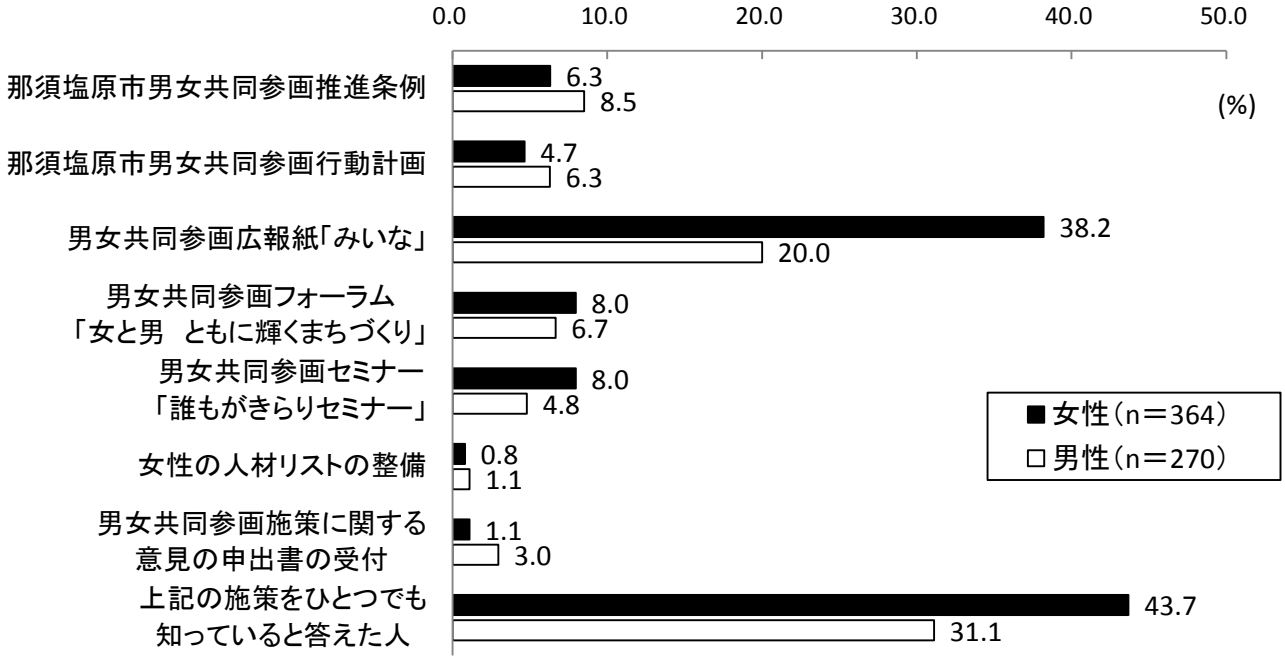
【全　体】

問16　あなたは、那須塩原市で取り組んでいる下記の男女共同参画施策を知っていますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。（○はいくつでも）



平成20年から実施している設問で、男女共同参画広報紙「みいな」が30．5%と最も多いが、その他の施策は10%に満たない。前回調査より値が多いのは、男女共同参画広報紙「みいな」、男女共同参画セミナー「誰もがきらりセミナー」2項目のみとなっている。

【性　別】



男女共同参画広報紙「みいな」について、男性より女性の方が18．2ポイント多い。「市の男女共同参画施策をひとつでも知っている」と答えた人でも女性が男性より12．6ポイント多くなっている。

問 17 男女共同参画社会づくりについて、ご意見ご要望などがありましたらご記入ください。

※記載については、できるだけ原文の表記のまま掲載しています。

１　男女平等は難しいと思う。だけど、職場では小さい子供がいる人の理解ができていないと思う。企業や職場はもっと小さい子供がいる人の意見や話をしっかり聞き、できないことについては、説明すべきだと思う。（特に準社員、パート）　遠まわしに”できないなら辞めたら？”という感じのことを言うのを止めたほうがいいと思う。【女性：２０歳代】

２　企業の人事採用について、私が勤めている会社では、毎年新卒採用を実施しており、男女共に募集しておりますが、ここ数年男性だけしか採用されておりません（男１０人、女０人）。　応募者の男女比と採用者の男女比は等しくなるはずですので、その辺の調査をしたほうが良いと考えます。【男性：２０歳代】

３　男女平等な社会は真剣に考えるべきだが、逆に女性ばかり優遇される社会にならないように、バランスが大事だと思う。【男性：２０歳代】

４　企業ごとに講演やセミナーを受けるように決めるといいと思います。また、それについてのチームを企業で作り、どんどん行動していった方が浸透しやすくもなると思います。知らせるだけでは知識で終わってしまうと思うので、何よりも具体的な行動が大切かと思います。【女性：２０歳代】

５　良い社会づくりのために力を合わせて実現していくための努力を皆でしていきましょう。真の意味で良い社会・豊かな社会を一つずつ築いていけば、男女共同参画とか関係なく、より明るい未来があると信じて疑いません。真の変化は波のように広がっていくものです。社会をより良くしたいと望む人たちから何かを変えていきましょう。この世界の一人でも多くの人の心がより豊かになりますように。【男性：２０歳代】

６　男女共同参画社会についても大切ですが、高齢社会についても、もっと調査を進めていった方が、今の時代は必要だと思います。【女性：２０歳代】

７　男女共同参画社会が、強調されるようになってから、逆に女性のみが特別扱いされているように感じる。性が異なれば、扱いも異なるのは分かるが、本当に男女平等なのか。女尊男卑には向かわないで欲しい。【男性：２０歳代】

８　まず女性が働けるように、保育園などの施設を増やすべきです。それとともに、保育で働く人たちをもっと働きやすくするために賃金を増やしてあげるべきです。テレビでもやっていましたが、保育士さんなどは労働内容と賃金が合っていないと思います。働く女性のために代わって、子どもを保育してくれる保育士さんには、それなりの賃金、手当をしてあげるべきです。そうすれば、保育士さんをしていきたいと思う人も増えますし、今まで資格があるのに、働かなかった人たちも、保育の仕事をするようになると思います。【女性：２０歳代】

９　このような取組があることを初めて知りました。職場では、あまり感じる機会がありませんでした。男性が優位にあるような形は少なくなったように感じます。男性・女性の特性を考慮して、それぞれに合ったサポートをする制度が本当の男女平等につながっていけばいいと思います。考えさせられるきっかけになりました。【女性：２０歳代】

１０　女性を昇進させることで給付金を出すなど、市が積極的に女性の社会的地位の向上を図ってほしいです。【性別不明：２０歳代】

１１　問１６で示すような男女共同参画施策を実施していても、私自身全く存じませんでした。私自身に地域や市政のことを知ろうとする意識が足りないせいもあるかと思いますが、基本的に若者はそういうものに疎い傾向があります。ですから、実際に施策を運営する機関の皆様から、地域に様々な情報を周知させる必要があると思います。ちなみにこのような調査を行うことはとても良いことだと思います。【男性：２０歳代】

１２　那須塩原市では、妊婦が働きたくても働けない。（受け入れてもらえないため）里帰り出産中や子育て中のお母さんたちが、気軽に働ける場所が欲しいです。男女共同、男女平等とは言うが、この企画を実際に行えるようになる頃には、私たち２０代の人たちが、５０代くらいになっている頃のような気がします。ご年配の方が多いこの那須塩原で男女共同・平等は『叶わぬ夢』のようです。私が感じることは、那須塩原市民なのに、地元のことを何も知らない若者が多いことです。家族で参加したい企画も大切ですが、ジャンルを問わず、いろいろな若者が地元の良いところ、悪いところを知るイベント等を企画するのも、男女共同参画につながるのではないでしょうか。【女性：２０歳代】

１３　保育園等、福祉施設の充実をお願いしたい。待機児童を減らし、女性の社会復帰を応援・支援してくださるとありがたい。それが、難しいのならば、手当等での支援も検討して頂けたらと思う。家では、３月に１歳になる息子がいて、自分は３月１日から職場復帰となる。保育園入園を希望していたが、３月入園は難しいと言われ、申請をしても許可が出なかったため、３月から１ヶ月は託児所へお願いすることになる。（４月入園の申請は済んでおり、結果待ち中）。思っていた以上に保育料がかかってしまうので、そのような手当等があると大変ありがたいと思う。この様な市民もいるということを知って頂けたらありがたいです。【男性：２０歳代】

１４　合同見合いパーティーなどを企画してほしい（婚活パーティー）【男性：２０歳代】

１５　男性、女性といういき過ぎた考えをできるだけ持たないような環境づくり。
【男性：２０歳代】

１６　育児がしやすいように、まず託児所や保育園等をしっかりさせ、入れない環境がないようにして欲しい。那須塩原市も大田原市のように、ワクチン等の助成金に力を入れてほしい。待機児童をなくしてほしい。育児金等の援助が専業主婦にあると、共働きでなくても少しは助かる。市の取組みは、全く知らず、アパートに住んでいたり、新聞等を取っていないとわからないのか。（もっと広く知ってもらえるような環境があるとよい。）【男性：３０歳代】

１７　抽象的でオブラードに包んだような表現が多く、わかりにくいと思います。まず具体例を挙げて、広く男女から意見を求めるような事であれば、参加しやすいと思います。【男性：３０歳代】

１８　男女間での社会的立場・法的立場は平等にすべき。もし男性の育児参加を進めたいなら、そのインフラをもっと整備すべき。例えば授乳室内にオムツをかえる場所があるなど、男性であるため困ることも多々ある。【男性：３０歳代】

１９　女性が働ける場をきちんと増やしてほしい。小さな子どもがいるため、短時間で仕事を探すと全く募集がない。特に、我が家の場合、子どもが発達障害があると言われており、保育園も短時間でしか利用できないと言われ、短時間の仕事もないため、生活が厳しい。発達障害の子ども（知的障害はない）の場合でも、何か援助を受けられないか悩んでいます。【男性：３０歳代】

２０　男性の得意な事、女性の得意な事があります。男性は、体力がありますし女性は気配りやきめ細やかさがありますので、それぞれ得意な事を担当し、平等にやっていけるのが良いですね。給料が厳しいので、公共住宅が増えると嬉しいです。【男性：３０歳代】

２１　市民税が高すぎ。【男性：３０歳代】

２２　市政に対して、何の興味もない。誰が市長だろうが、市議だろうが興味がない。若い世代は皆同じだと思うので、興味が持てるような活動や変化を求めたい。【男性：３０歳代】

２３　様々な年代の方がもっと興味・関心を持てるよう、市民に理解してもらえるような PR を積極的に行ってほしいと思います。【男性：３０歳代】

２４　学校教育の場で男女平等について学習し学ぶことが大事と思います。男女共同参画社会づくりの取組は必要だと思いますが、第２の人生を送っているので、ピンと来ない。【男性：６０歳以上】

２５　夫婦ともに働いているので、育児や介護サービスの充実を要望します。【男性：３０歳代】

２６　男女共同参画を呼びかけたり PR したりしても、それだけでは旧態依然とした企業を動かすことはできないので、具体的な条例を定めたり、育児取得率によって、税を優遇もしくは増税するなど、ある程度強制的に実施していかないと何も変わらないと思う。【女性：３０歳代】

２７　調査に参加しても、全く結果を知ることができません。地域の班などに入っていないアパート世帯にも、広報を郵送するなどの取組をしてください。保健センターなどに置いてあるのは知っていますが、小さい子どもがいると、中々中に入ることができません。市の情報が全く入ってきません。子どもがいるからこそ、大切だと思います。市民税を払っているのに、不平等だと思います。【女性：３０歳代】

２８　市が活動しても企業が実施しなければ、働く場所がなく意味がない。男女で評価するのではなく、実力で評価をしてほしい（仕事の面で）。家事・育児については、夫婦間のことなので、夫婦で話し合い、納得した方法で良いと思う。【女性：３０歳代】

２９　全く知らない人もいる中、どんなに良いことをしても伝わらないので、まずは皆に分かってもらうことだと思うので、それをしてくれたら良いかも。【女性：３０歳代】

３０　子育てがサポートされ見直されている職場フレックスタイムなど、小学校になると週末部活動で仕事（サービス業などの）親をもつ子供は、部活動に入部できないことがある。私たち世代は、学校の部活は、小学校・中学校の先生達が中心だったので、皆平等にスポーツができた。今の教育現場にも見直しが必要だと思う。仕事の影響も大きい。【女性：３０歳代】

３１　保育園は働く親のために、極力平日の行事を控えているが、小学校に入ったら平日の行事ばかりで、母親が仕事を休んで出席せざるを得ない。参観保護者会など子供のためを思えば優先するのが親心。でも、そのために自分の職場での立場（評価も）が弱くなってしまうジレンマがある。【女性：３０歳代】

３２　無駄な広報紙はいらない。セミナー等も不必要。役立つとは思えません。市で子育てや介護福祉サービスの充実や向上を、図ってくれるのが望ましいです。やはり職場や家庭（特に仕事をしながら子育てをしている家庭）、女性の負担が多すぎるところがまだまだ多いと思います。小さい子供や介護が必要な家族がいる家庭では、働くことが難しいけど、働かなくては生活することができないのが現状です。結婚や出産を、若い世代は希望のあるものだと思えなくなって当然だと思います。【女性：３０歳代】

３３　幼稚園の保育料無償化の実現。【女性：３０歳代】

３４　男女共同参画社会について、もっと分かりやすい言葉に置きかえて市民に説明してはどうか。“男女共同参画社会”というフレーズが、どうしても堅苦しいイメージになってしまい、何か難しいことなの？と身構えてしまう。もっと気楽に、身近に問題提起していく工夫があると、もう少し自分たちのこととして、真剣に考える若者も増えるのではないか。【女性：３０歳代】

３５　男女共同・・そう思えることがないです。一つの理由を書くと、私は母子家庭で３人の子供がいて、接客業の仕事です。もちろん学校が休みのときこそ仕事です。女性は子供を持つと、土日祝日は休みを希望しますが、職業安定所に行って求人をみると、男性の方が土日祝日休みは多いです。仕事の内容にもよりますが、接客業の仕事が好きな女性でも土日祝日を休めるように、企業にも理解してもらいたいです。わが子と過ごす時間は本当にありません。男女平等・男女共同と言うなら、接客業の仕事についても、女性の土日祝日も休める体制をとってもらいたいです。

私は、時々「男に産まれたかった」と思います。仕事をしてお金を生活に入れて、自分だけ飲みだの、自由な男になりたかったですね。女性は、子供がいる以上、仕事、家事、行事、役員、病院だのすべて女性。もっと、男性に協力してもらい、女性の気持ちを理解してもらいたいです。人間、出来ないことはないはずです。皆出来ると私は思います。それが、男女平等・男女共同だと私は思います。【女性：３０歳代】

３６　他県から来ましたが、このまちは、結構男性社会だと思いました。昔ながらの考えの男性が多いと感じました。行動も言動もすべてそう思います。「男は・・・」「女は・・・」というのをよく聞きます。すごく残念です。【女性：３０歳代】

３７　男女共同参画社会と表現では素晴らしいと思いますが、市民だけでは無力的部分が多々あると思います。市リーダーや市町をまとめる市民代表者方々が始めに共同を先進していくことで、住民は住みやすいまちだと思うのではないでしょうか。代表者が住民をリードして良い社会づくりをしてほしいです。【女性：３０歳代】

３８　女性は母親のため、育児の期間は男性よりも短時間勤務で育児の割合が増える。私はその期間だけは育児よりの生活をしたいため、短時間勤務や保育施設の充実があるとよいと思う。ただ、保育施設も利用料が５万円となると、とても高いと思う。３歳以下の保育料が半分くらいになると、より女性が参画しやすい。また、子供の急な熱などのために、仕事の種類を制限しているが、男性（夫）も、対応できる考えに家庭でも職場でもなるようにすれば、女性の精神的負担は軽減する。【女性：３０歳代】

３９　女性が子育ても仕事も充実させるためには、育児休業を必ず１年はもらえるなど、そういった面が平等ではないと意味がないと思う。どんな仕事の人も平等に！一部の会社だけが、もらえるようにしても意味がない。女の人は誰もがもらえるようにしてほしい。男女平等といっても、子供を育てていく中心は母親だし、母親＝女性が働きやすい状況をつくることが大切だと思う。待機児童がいる状態をまずはなんとかしてもらいたい。【女性：３０歳代】

４０　アンケートをするまで知らない言葉がほとんどで、もう少し理解する必要があると思いました。昔ほどではないですが、未だに男女の差を感じることが少なくない世の中なので、他人に任せるのではなく、自分自身でも何らかを始めて、変えていかなくてはならないと感じさせられました。そのためには、まず安定した生活を確保しなければ、行事などの参加もできないです。一つ一つ自分でできることを始めてみようと思います。市の方も、行事内容を書いたチラシをポストに入れるなど、やり方を変えてみてはいかがでしょうか。きっと、こういった企画などがあるということを知らない人が多いと思います。【性別不明：３０歳代】

４１　男女差別・区別はあって然るべき。平等ではなく、適性にあったものをさぐるべき。（教育）【男性：４０歳代】

４２　″私は精神疾患をもつ者です。病が治れば、NPO に通っています。こんな私でも社会の一員として役に立っていきたいと考え、行動をしています。できることは、私一人で出来るよう気持ちを保ちつつ、一つ一つ、一歩一歩病が治るようにと思っています。

男女共同参画社会は、どんな人も、一人間と考え、見てもらえるよう、男だからこうあるべきだとか、女性だからこうあるべきだという考えがないよう、一人の人間として生まれたからには、行動しようという考えだと私は思います。社会づくりには、一人一人が、パートナーを認め、仕事を支え合い、実りある成果を示さなければなりません。一人一人の気づき合いが、共同参画の築き合いに近づいていくのではないかと思います。気づき、築き合い、精神病でも出来ることがあるということを、今の NPO で知りました。体調を理解し合い、認め合い、菜根譚に次のような言葉があります。

「人の小過を責めず、人の陰私を発かず、人の旧悪を念わず」この言葉は、人の小さな過ちをいちいち責めず、人の秘密は暴かず、そっとしておき、人の過去の悪事を執念深く覚えていないという内容のものです。安心できる社会も必要なものだと考えます。【男性：４０歳代】

４３　高い能力や意識を持った人間に育つよう子供をしっかりと教育して欲しい。女性の社会進出も良いことだが、子育て、家事、介護こそ最も大切な仕事だということを子供たちに教育すべき。【男性：４０歳代】

４４　女性の就業時間、子供の通院等の理解をさらに深めて、誰もが分かりやすい案内を実施してほしい。【男性：４０歳代】

４５　”男女共同参画”という言葉自体がすでに差別を生んでいる。【男性：４０歳代】

４６　男女はもともと社会において、役割が違うものだと思っている。【男性：４０歳代】

４７　男性も育児・料理・掃除・洗濯など、自然に身につくよう、出来るよう、子供のうちから身につけていく必要があるかと思います。【女性：４０歳代】

４８　職種によって男女平等は無理なことも多数あります。男は子供を産むこともできませんし、そういった男女の違いを理解した上での男女平等とは・・完全な平等はありえないと思います。【女性：４０歳代】

４９　自分では（家庭内ですが）平等であると感じていますので、特に思いつきません。【女性：４０歳代】

５０　男女共同参画社会というネーミングが堅いと思います。【女性：４０歳代】

５１　「男女共同参画」という言葉は聞いても、その中身を知っている人は少ないと思います。セミナーなどに参加する時間のない人にもその中身を知ることができるようなキャンペーンなどが必要なのではないかと思います。具体的な内容を周知するのは難しいですが、例えば「人は能力によって正当に評価されるべきであって、男である、女であるといった条件により評価されるべきではない」など、基本的理念を周知する必要があるのではないでしょうか。【女性：４０歳代】

５２　男女共同参画社会にこだわる為に、母親が子供の育児から離れ子供たちが犠牲になっていると思う。女性の仕事も大切だが、子供達の教育・しつけをしっかりした方がよい。その子供達が大人になるのだから。母親の愛情が欠けている母親が仕事をし、お金を使うことにより、これからの子供達に大きな影響が及ぼすと思う。親の自由を思うばかりに、子供達がだめになっている。【女性：４０歳代】

５３　男女共参画社会と言っても、社会ではまだまだ不平等だと思う。PR をしてもなかなか理解しないので、条例等を作ったほうが良いのかもしれない。【女性：４０歳代】

５４　女性のリーダーが増えないと意見が届かないのかもしれません。子育てして、介護して、自分の身体の健康管理等、女性がリーダーになれる環境体制が整わないと難しいと思います。【女性：４０歳代】

５５　問 16 に関して、組合に入っていないと、広報が届かないので、情報が少ない。
一人ひとりが自分の事と同じ様に、他人を理解しようと批判せずに見ることができれば、よりよくなっていくのかと思います。【女性：４０歳代】

５６　男女平等の扱いは必要だと思いますが、男性・女性それぞれの役割が人間として本来あると思います。何でもかんでも平等と騒ぎ過ぎているように感じます。お互いを思いやり、互いを認め尊重し合うなら、何をすべきか、すべきではないかわかるのでは・・・？自分自身のように、他人を愛せるならいいのになぁ・・・。【女性：４０歳代】

５７　保育施設がない為、市役所職員さんがいつまでも育児休業を取り、税金で給料を支払っているそうですね。また、元職場に戻る考えがわからない。（休業を１年に定めるべき）。もっと大いに PR すべきです。【女性：４０歳代】

５８　私たち夫婦は、話し合いや分担が出来ていても、上の世代（親や地域）の人からの圧力がかなり大きい。子供の頃は平等と教えられて育ったが、社会に出るとギャップがある。仕事では育休や時間短縮はあっても、正社員だけのことが多く、また給料の少ないパート等の身では、時短を利用したくてもできない。生活が苦しい人ほど、そのような制度が受けづらく、制度が存在しても差が開くだけのような気がして、嬉しいと感じられない。【女性：４０歳代】

５９　パートナーとは仲良く家事をすることが望まれます。【男性：５０歳代】

６０　大半の人は女性の立場が弱いと言われているが、女性だから免除されることも多々ある。今の女性の中には、その部分を主張しすぎる方も見受けられ、女性の方の考え方も変えていかなければと思う。【男性：５０歳代】

６１　那須塩原市が活力ある市であるような方向に進んで行くことを願っています。【男性：５０歳代】

６２　市側と市民が、何が必要か理解することが大切と思います。話し合いがあれば参加したいと思います。【男性：５０歳代】

６３　様々な取り組みをもっとアピールしてもらわないと全く知らない人ばかりになってしまうと思います。【男性：５０歳代】

６４　男女共同参画社会がいいのかわかりません。こんなアンケートを行うよりも人の道をはずした犯罪に対してどの様な対策をとればよいのか考える方が結果的に良くなっていくのではないでしょうか。心の教育が必要です。【男性：５０歳代】

６５　社会づくりに取り組む前に、広報紙を全員に配ってほしい。市役所に広報紙が置いてあるのは知っているが、もらいに行こうとは思わないが情報はほしい。【男性：５０歳代】

６６　男女共同参画社会という言葉がわかりにくい。何かいい言葉があるといい。【女性：５０歳代】

６７　男女共同参画社会づくりについての理念は素晴らしい事であり、今後もどのようにしたら、そのような社会になって行くのかを考えていくことは大変大事なことだと思いました。今後は、男女が特性を尊重しながら、まずは家庭から活動し、共にもっと輝ける。そして、より住みやすい地域になるような教育も重要と思う。【女性：５０歳代】

６８　女性は男性に比べ、子どもの病気や学校行事で休む頻度が多いため男女平等は難しい。子育ては、女性の仕事だと思っている男性も女性もいるので、意識を変えないといけない。学校教育から男女平等を勉強していった方が良いのでは。【女性：５０歳代】

６９　子供たちや孫が差別のないより良い生活ができるような世の中にしていただきたい。いじめが起きた場合、すぐに対処してくれる学校にしてください。【女性：５０歳代】

７０　男性でも女性でも、誰か家族が家で待っていてあげられる子育てができたらいいなと思います。今は、夫婦で働かなければ生活が厳しい人がほとんどである。生活のために働くのでなく女性が生きがいのために働けるようになるといいと思います。【女性：５０歳代】

７１　那須塩原市は、すばらしいと言われるよう頑張ってください。市政に期待して生きている人々がたくさんいることを忘れないで。税金を大切に使ってください。【女性：５０歳代】

７２　仕事が多すぎる。最近の若い夫婦はよく協力し合っている人が多いと思います。逆に働いていない妻がそこまで夫にやらせる？と思う場面も見かけます。問題は、社会の意識。でもそれは、女性を登用したり高いポストに付けることではありません。能力があれば当然ですが。男性でも能力が無いにも関わらず校長とかになっている人もいる。【女性：５０歳代】

７３　日本は、やはり男社会と思います。子育てや両親の介護等社員のまま残れるのは無理があります。頑張ろうとしても、ストレスで自分が参ってしまいそうです。少しずつでも本当の意味での平等に近づくよう、市民としても協力できるところは参加したいと思います。【女性：５０歳代】

７４　国が男女共同参画を進めているのは分かっていたが、市が男女共同参画推進条例を進めているのは、全く知らなかった。しかし、昔と違い男女同権ということが職場では進んできていると思う。夫婦共働きの社会となり、男女と区別することなく男女共同参画が進むと思う。【男性：６０歳以上】

７５　このような取組みについてほとんど知りませんでした。今後は意識を高めたいと思います。【男性：６０歳以上】

７６　地域の自治会活動などは女性の参加が少ないように感じますが、民生委員の方は女性が多いと聞いています。地域によると委員の選出について、適任と思われる方何人かにお願いしたが断られたので、高齢者も増えるため女性の人材リストの整備を早く進めそこから任命すれば理想です。各地域に信頼できる民生委員を要望します。【男性：６０歳以上】

７７　高齢化時代に入っており塩原町役場の職員の皆様も大勢の人と対面しているので大変だと思いますが、今後ともよろしく御指導よろしくお願いします。【男性：６０歳以上】

７８　男女に関係なく、その個人の力を出せる環境が必要だと思う。【男性：６０歳以上】

７９　約３０年前近くにこの問題が出てきて以来、未だに進歩なし。女性は忙しい人が多いので、広報紙などの文字を大きく分かりやすくする。【男性：６０歳以上】

８０　男女平等・女性の地位向上等を重視するあまり、女性としての品格等が失われてきている。まずは、女性としての基本的な教養を身につけさせることが必要ではないか。【男性：60 歳以上】

８１　男女の平等・子供の教育などの権利は、現代社会では侵すことができない普遍的な原則であると思います。まず行政の努力が実ることを願っています。意見として、調査の趣旨に「個性と能力を十分に発揮することができる！いきいきと暮らせる社会の実現を目指す・・」とあります。私も全く賛成です。しかし、今国民の多くの人々が就労できない。賃金も年金も下がるが物価や税金は上がる。貧困、家族もバラバラ・・上げればきりがありません。未来が見えません。世界３位の裕福国でなぜこんなことになっているのか。このような基本的な現実にも気を配り、市民全ての人を保障できるような住民自治・参加の素晴らしい企画になりますように祈念いたします。【男性：６０歳以上】

８２　取り組みは必要だが無駄は不要。【男性：６０歳以上】

８３　大変な仕事御苦労があると思いますが、よりよい実現が出来ることを期待しています。【男性：６０歳以上】

８４　行政関係に於いて、女性職員の採用を増やすとともに、上級職へ昇格する機会を十分に確保する。また女性が働きやすい環境を整備する必要がある。女性職員の発言を取り入れ工夫をしているでしょうか。疑問を感じています。【男性：６０歳以上】

８５　他県から来た者としての那須塩原についての意見です。温泉が自宅で入れる、それは仕事の定年を迎えた人にとっては嬉しいことでした。一生懸命働いてきた人にとっては、人生最後毎日を温泉で過ごす事を願って那須塩原に来たのですが、2 年でその夢が消えました。とても悔しかったです。退職金を使って、家も売って働いた体を温泉で少しでも癒そうと思って塩原に来たのですが、キツネに騙されたように 2 年で消えてしまいました。一生懸命働いたお金が消えてしまいました。騙された私たちが悪いのか。こういう売買をしている人が許せま

せん。今の自治会の人は、もう出て行けという態度を取ります。大変残念です。一人暮らしの老女です。【女性：６０歳以上】

８６　差別的なしきたりや社会通念を考え直し、誰でも気軽に参加できる世の中（社会）になるといいですね。【女性：６０歳以上】

８７　昔はおしん生活をした人も多いと思います。（私もその１人）。今男女共同・平等と言われていますが、やはり男と女は根本的に違います。考え方が古いかも知れませんが、男の人、女の人、立てるところはお互い立てて・・・自己主張が多いと上手くいかないと思います。【女性：６０歳以上】

８８　男女の比率を同じにすることや女性の管理職を増やすなどの政策は、逆に女性を馬鹿にしているように感じる。そもそも那須塩原市などの地方の市町では、女性が働きたい！と思うよりも家にいたりパート程度をして仕事は男性に任せた方がいいと思う女性が多いように感じる。それで上手くいくならばそれはそれで問題ないのでは？つまり数や比率ではなく、少数でも女子が働きたい！学びたい！と思う女性に対してその機会を与えることだと感じる。これがこの地域には足りない。女は大学に行く必要がないとか、正職員になるよりも子供は？という心配をする年配の方が多い。女性が社会に多く出ることの意味やメリットを知らせること。それらを数値化することが必要ではないでしょうか。【男性：３０歳代】

８９　今のままで十分。特別女性が虐げられているわけではない。このような事をしていると日本の社会がどんどん悪くなる。全く必要なし。【性別不明：６０歳以上】

９０　女性のための育児支援と仕事の保証。【男性：６０歳以上】

９１　仕事をしていた時は不平等さに腹立たしい思いをしておりましたが、今日、自由に生活できる状態が続きますと男女共同参画の社会づくりなるものに全く興味ない、意識していない自分に気付きました。全く意識していない人々は多いのではありませんか。男女が共同参画する社会とは、どういう社会なのか。広報紙や連載形式等で教えて下さいますか。【女性：６０歳以上】

９２　このアンケートは無作為というが、実態を把握するためにはむしろ意識的に年代を勘案して調査した方が参考になるのではないだろうか。私は後期高齢者なので、ワーク・ライフ・バランスなどはあまり関係がない。このアンケートは男性についても調査しているのだろうか。男女共同参画というと女性の意識がどうか求められるが、男性の意識も知りたい。「男女共同参画社会」が言われて久しい。女性は研修の機会も多く、講演会・講座等を通しまた友人との情報交換などで随分意識が高まっていると思うが、男性の意識が変わらない限り男女の平等はあり得ない。地域や社会活動で、男女の参画に大きな差がみられるようだが、「上に立ちたがる男性と表に出たがらない女性」という男女の特徴があるためと思われる。これを以って即男女は平等であるとは言えないと思う。【男性：６０歳以上】

９３　時代の変化と共に仕方ないと思いますが、戦後の靴下と女性が強くなったと言われる通り自然及び必然的な流れとしてこの社会になったのだと思います。女性も躍進する人はどんどん伸ばすが、男性よりも一歩下がってという大和撫子の精神も捨ててはならないと思います。巷では嫁が強くなり姑が弱くなってしまった等言われておりますが何が間違っているのでしょう。最初に戻り修身と言う意味も深く考えてみては如何でしょうか。【女性：６０歳以上】

９４　今までの固定観念に捉われず、周りの人々の理解や協力を得た上で、積極的な取り組みが必要だと思います。【女性：６０歳以上】

９５　家庭の中では家事を共同でこなすことで二人もしくは家族団欒を作る事ができる。【女性：６０歳以上】

９６　専業主婦と言っても平成２５年９月まで２５年間会社員として男性と共に働いて参りました。そのため、職場での女性のあり方、家庭・地域での男女共同参画社会への積極的な取り組みは素晴らしい事と感じています。時間のある限り、そういう場があれば参加して学んでいけたらと思っております。市内には、まだまだ素晴らしい人材と能力をお持ちの方も沢山おられると思っております。そういう方々を積極的に発見して「男女共同参画推進」が益々発展をしていけるよう、そして男女が助け合えるような素晴らしい市になりますよう祈っています。【女性：６０歳以上】

９７　女性に対する偏見をなくすこと。【女性：６０歳以上】

９８　すべからくこの様な構成委員会などを見ると、地域のいわゆる声の大きい人、態度の大きい人、リーガルマインドのない有力者、利己主義者が多く前に出て、一般的な常識からかけ離れたそしてありがちな形骸化された組織の中で、珍しく開放的な雰囲気を持った行政機構と思われる。【性別不明：６０歳以上】

各設問における「その他の意見」

※記載については、できるだけ原文の表記のまま掲載しています。

問３　「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどう思いますか。

１　理想は４（男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をしても家庭にいてもよい）だが、社会が男性優勢で、女性が仕事をするより男性の方が稼げると思うので、男性が仕事をした方がいいのかと思う。
２　大切なのはその家庭に合った方法でお互い協力し合うこと。
３　その家庭によると思う。
４　それぞれの家庭で話し合えば良い。
５　そもそも結婚の意味がない。お互いメリットがない。独身者の理解を！
６　男は仕事が良いが、夫の収入だけでは生活できず、仕方なく働いている。
７　そもそも男女が働かないと生活できない。
８　昔は今と違い専業主婦が多かったと思います。でも、近年、社会では男女平等と言われておりそれも事実。専業主婦として子育てに専念している方は、それが仕事であり、母性を持つ女性の特権です。大半の人は、暮らしていけないより豊かさを求めて、女性も子供を預け働いている場合が多いのではないでしょうか。仕事が楽しいという人も中にはいると思います。でも、子供を産み育てる時期は一生のうちその 1/4 の時期です。大切な時間をどう育むかが個人の考えで、異なってくると思います。男性・女性共に、働きながら子供を育てやすい社会になってほしいです。
９　仕事はどちらでも。家庭の責任は、多い少ないはあっても、分担。
１０　どちらがと決めずに助け合い、分担すれば良い。
１１　男女どちらが仕事をしても、家庭の事は責任を分担するのが良い。
１２　子供のためを思うと幼稚園に行く歳になるくらいまでは、出来れば母親が家にいたほうが良いと思う。

問５　あなたは、次にあげるような活動（地域・社会活動）に参加していますか。

１　日本更生保護女性会
２　ユニセフへの寄付

問６　あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。

１　家族の介護
２　こっちに住んでいない
３　時間がない
４　音楽等、個人的な趣味はある（ピアノなど）
５　学業が忙しい
６　学校、バイトが忙しい（同様意見１件）

７　　病気　椎間板ヘルニアがひどい
８　　活動と休日が合わない
９　　仕事と育児で忙しい
１０　気付かなかった
１１　身体障害者のため（同様意見２件）
１２　考えたことが無い
１３　活動するのが苦手
１４　高齢のため（同様意見４件）
１５　病気がち
１６　広報等を見てある程度の事は知っているが、私的な学習・スポーツジム・ガーデニング等色々あり、他のことをする余裕がない
１７　班長の時は参加
１８　体調が悪い（同様意見２件）
１９　居住地、交通の便など
２０　交通手段がなくて行けない
２１　足が悪く参加できない
２２　高齢であり老人ホームに入居しているため

問８（１）あなたが、今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、誰に打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。

１　　同僚
２　　分からない（同様意見１件）
３　　占い師に相談し騙された
４　　ハローワーク
５　　労働基準監督署
６　　世話をしてくれる人
７　　人権擁護機関

問８（２）　問８（１）で「８．相談しない・しなかった」と回答した方におたずねします。
相談しない・しなかったのはなぜですか。

１　　自分で解決できる
２　　自分で何とかする
３　　相手を知っている人に相談すると、周囲から相手を見る目が変わってしまう

問１２　あなたは、男女が仕事や家庭・地域生活などを両立するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

１　年金の充実
２　男女が貧困に陥らないように、住居の確保や職業の確保を国が推進する必要があると思う。
３　学童・保育所を充実させて、待機児童がいないような環境にして欲しい。
４　地域の取組み、理解、規制法律等の再調整、見直し。
５　小学校など部活動の保護者の負担が多い。学校の先生も、昔みたいに子供に関わるべき。
６　貧しい人は子どもを作ってはいけない。お金持ちしか子育てが出来ない社会だから。
７　経済力
８　賃金の上昇
９　貧富の差を埋めて、生活の質の向上につながる施策。
１０　地域の理解
１１　周囲の人の理解。何でも母親の責任にしない。
１２　全て含まれると思います。
１３　祖母と障害者が寝ているので自分の時間がない。
１４　お金

問１３　あなたは、男女共同参画社会を築いていくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

１　社会と人が実現可能な理想を実現していき、真の意味で心身ともに豊かになるための努力をしていくこと。
２　女性のずるさをなくすこと。女性だから弱いと言うのは、なしにしてほしい。
３　保育施設や学童保育に対する法律・規制の見直し、再調整、再雇用、転職の支援。
４　男が、女が、という概念自体おかしい。女性＝育児＝社会参画できないという根本を改善すべき。
５　市ではなく国レベルの問題。
６　適性によってきっちり差別するべき。力仕事は男がするなど。
７　この問いに関しては、個々の意識による部分が多く、他人が押し付ける問題ではない。
８　男女共同参画社会は反対。
９　一方的な情報提供教育ではなく、色々な意見を出し合って話し合う場を学校・職場・市民講座などで設ける。
１０　家庭を大切にする場を設ける。
１１　平日だけでなく、夜間、土日祝日も保育施設や学童保育などの施設を充実させる。
１２　自分自身が自分の役割をよく認識する教育。
１３　特に上の世代への PR
１４　市民との会話が必要と思います。
１５　日本人の根本にある道徳に従いながら自然的に行うことが出来る社会（道徳の上に成り立つ心が必要）
１６　個人が意識を持つしかないと思う

１７　市広報にて周知されているが、いろいろなサークル・講演・講座等に参加出来ない方が多い為、上記の１～８全てお願いします。
１８　男性の意識改革を図る。

問１４　あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。

１　労働時間を短縮しても、賃金が下がらない。
２　収入に対する税金の負担を減らす。（扶養範囲内の収入にしているため）
３　子育てのサポートを充実
４　（選択肢が）二つでは足りない。
５　強いリーダーを作ればいい。
６　男性は子どもを産むことができず、女性は2，３日の通し残業が困難であるなど、平等で見ることは難しい。
７　求人の際、男性・女性という区切りの募集は減っているが、未だに性別でまず区別している場合が多いので、適しているかどうかを性差で判断しないということを周知していく必要があると思う。
８　正社員だけではなく、パートや契約社員等でもいろいろなサービスが受けられるといい。
９　企業のトップや管理者の意識改革が必要。

問１５　あなたは、男女共同参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。

１　性別による特性を理解して、必要とするサポートを考え発信する。
２　寿退社しないで、ずっと会社にいれるようにする。
３　自分も含めて無責任・無関心の人が多すぎるので、一人一人が責任感のある人間を作ればよい。

男女共同参画社会に関する市民意識調査

【調査ご協力のお願い】

日頃から、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では平成２４年に「第２次那須塩原市男女共同参画行動計画」を策定し、男女がお互いに人権を尊重しつつ責任も分かち合い、個性と能力を十分に発揮することができ、いきいきと暮らせる「男女共同参画社会」の実現を目指し、様々な取り組みを進めています。

この調査は、市民の皆さまのご意見をお聞かせいただき、実態を把握するとともに、今後の取り組みに反映させるために実施するものです。

市内に住む２０歳以上の方、２，０００人を無作為に選ばせていただきましたところ、あなた様に調査をお願いすることになりました。

調査結果は、数字で統計的に処理しますので、個人のお名前や意見などが公表されることはありません。ふだんから考えていることをありのままお答えください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

平成２５年１１月

那須塩原市長　阿久津　憲二

◆ご記入にあたってのお願い

①宛名のご本人がお答えください。

②回答は、あてはまる番号を〇で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は、（　　）内に具体的に記入してください。

③質問によって、回答いただく方が限られる場合があります。各質問や注意事項をよくお読みいただきご回答ください。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて

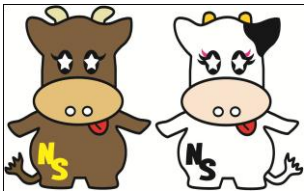
１２月１日（日）までに

ご投函願います。

お問い合わせ先

那須塩原市企画部市民協働推進課男女共同参画係

☎　０２８７－６２－７０１９　FAX　０２８７－６２－７２２０



あなたご自身のことについてお伺いします

統計処理上必要ですので、それぞれについて、あてはまるものを１つずつお選びください。
（○は１つずつ）

性　　別	１．男性　　２．女性
年　　齢	１．２０～２９歳　２．３０～３９歳　３．４０～４９歳 ４．５０～５９歳　５．６０歳以上
結　　婚	１．未婚　２．既婚（事実婚を含む）　３．離別または死別 ⬇
	※既婚の方のみお答えください １．夫婦とも働いている　２．夫だけ働いている　３．妻だけ働いている ４．夫婦とも働いていない
世帯構成	１．一人世帯　２．一世代世帯（夫婦のみ）　３．二世代世帯（親と子） ４．三世代世帯（親と子と孫）　５．その他の世帯
職　　業	【自営業】 １．商工サービス業　２．農林業　３．自由業（文筆業など） 【勤め人】 ４．常勤職員、社員など　５．臨時職員・パート・アルバイトなど 【その他】 ６．専業主婦・主夫　７．学生　８．無職

男女平等についてお伺いします

問１　あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の（１）～（８）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを１つずつお選びください。**（○は１つずつ）**

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
（１）家庭生活	1	2	3	4	5	6
（２）職場	1	2	3	4	5	6
（３）学校教育	1	2	3	4	5	6
（４）町内会や自治会などの地域社会	1	2	3	4	5	6
（５）社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
（６）政治の場	1	2	3	4	5	6
（７）法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
（８）社会全体	1	2	3	4	5	6

問２　**勤め人の方におたずねします。（１ページの職業欄が４．及び５．の方）**

あなたの職場では、次の（１）～（７）のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。それぞれについて１つずつお選びください。**（○は１つずつ）**

	平等	ほぼ平等	あまり平等とはいえない	男女の差が相当ある	わからない
（１）募集や採用の条件	1	2	3	4	5
（２）人事配置や昇進	1	2	3	4	5
（３）教育や研修制度	1	2	3	4	5
（４）福利厚生	1	2	3	4	5
（５）定年、退職、解雇	1	2	3	4	5
（６）賃金	1	2	3	4	5
（７）仕事の内容	1	2	3	4	5

男女の役割についてお伺いします

問３　「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどう思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを１つだけお選びください。**（○は１つだけ）**

１．男は仕事、女は家庭にいるのがよい
２．男女とも仕事をもち、家庭のことも責任を分担するのがよい
３．男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい
４．男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をしても家庭にいてもよい
５．その他（　　）
６．わからない

問４　日常生活における夫婦の分担をどのようにしていますか。配偶者がいない方は、いると仮定してどのようにしたいと思いますか。次の（１）～（９）それぞれについて、あてはまるものを１つずつお選びください。**（○は１つずつ）**

	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦同じ程度	どちらかといえば妻	主に妻	その他
⑴食事のしたく	1	2	3	4	5	6
⑵食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
⑶そうじ	1	2	3	4	5	6
⑷ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
⑸洗濯	1	2	3	4	5	6
⑹子どもの世話	1	2	3	4	5	6
⑺親や身内の介護	1	2	3	4	5	6
⑻家計の管理	1	2	3	4	5	6
⑼町内行事などの参加	1	2	3	4	5	6

男女の地域・社会参画についてお伺いします

問５　あなたは、次にあげるような活動に参加していますか。あてはまるものをすべてお選びください。**（○はいくつでも）**

１．自治会、婦人会などの地域活動
２．ＰＴＡや子ども会などの青少年育成活動
３．文化、スポーツ、学習などのサークル活動
４．福祉、ボランティア活動
５．リサイクル、共同購入などの消費生活活動
６．自然保護、環境美化などの環境保全活動
７．国際交流、国際協力活動
８．その他（　　）
９．参加していない　⇒問６へ

問６　問５で「９．参加していない」を選んだ方におたずねします。
あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。次の中から、あてはまるものを２つまでお選びください。**（○は２つまで）**

１．仕事が忙しい	６．家族の理解や協力がない
２．家事や育児、介護が忙しい	７．近くに活動の場がない
３．経済的にゆとりがない	８．参加したいと思うものがない
４．団体や活動などの情報がない	９．その他（　　）
５．一緒に活動する仲間がいない	10．関心がない

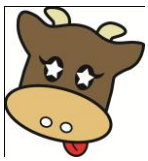
パートナー間での暴力（DV）やセクハラについてお伺いします

問７　あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。（１）～（１２）それぞれについてお答えください。**（○は１つずつ）**

	どのような場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う	暴力にあたると思わない
（１）平手で打つ	1	2	3
（２）足でける	1	2	3
（３）身体を傷つける可能性のある物などで殴る	1	2	3
（４）殴るふりをして脅す	1	2	3
（５）刃物などを突きつけて脅す	1	2	3
（６）交友関係や電話を細かく監視する	1	2	3
（７）何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
（８）相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
（９）見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
（１０）「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などと言う	1	2	3
（１１）大声で怒鳴る	1	2	3
（１２）生活費や小遣いを渡さない	1	2	3

問８（１）　あなたが、今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、だれに打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。**（○はいくつでも）**

１．親族
２．友人・知人
３．同じような経験をした人
４．市や県などの窓口・電話相談など
５．家庭裁判所、弁護士、警察など
６．医師・カウンセラーなど
７．その他（　　）
８．相談しない・しなかった⇒問８（２）へ



問８（２）　問８（１）で「８．相談しない・しなかった」と回答した方におたずねします。
相談しない・しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべてお選びください。
（○はいくつでも）

１．自分（当事者）が我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから
２．自分（当事者）にも悪いところがあると思うから
３．相談しても無駄だと思うから
４．相談するほどのことではないと思うから
５．他人を巻き込みたくないから
６．相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思うから
７．世間体が悪いから
８．相手の行為は愛情の表現だと思うから
９．どこ（誰）に相談してよいのかわからないから
１０．その他（　　）

問９　あなたは、次のようなことでセクハラだと感じたことがありますか。またそれはどこで感じましたか。（１）～（７）のそれぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。
（○はいくつでも）

	感じたことがある			感じたことはない
	職場で	地域で	その他	
（１）体を触われる	1	2	3	4
（２）宴会でダンスやデュエット、お酌を強要される	1	2	3	4
（３）体をじろじろ見られる	1	2	3	4
（４）異性の年齢や容姿などを話題にされる	1	2	3	4
（５）卑猥な冗談を言われる	1	2	3	4
（６）「彼女（彼氏）いないの」、「結婚しないの」などと聞かれる	1	2	3	4
（７）「子どもはまだできないの」などと聞かれる	1	2	3	4

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）についてお伺いします

問１０　あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか。次の中からあてはまるものを１つだけお選びください。**（○は１つだけ）**

１．十分知っている
２．ある程度知っている
３．聞いたことはあるが、内容は知らない
４．聞いたこともないし、内容も知らない

問１１（１）　あなたは、日常生活の中で、次の（１）～（５）について、満足する時間が取れていますか。それぞれについて、あてはまるものを１つずつお選びください。

（○は１つずつ）

	十分取れている	ある程度取れている	あまり取れていない	ほとんど取れていない	わからない
（１）家庭生活のための時間	1	2	3	4	5
（２）仕事のための時間	1	2	3	4	5
（３）地域活動に参加する時間	1	2	3	4	5
（４）学習・趣味・スポーツなどのための時間	1	2	3	4	5
（５）休養のための時間	1	2	3	4	5

問１１（２）　あなたは、日常生活の中で、次の（１）～（５）について、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。それぞれについてあてはまるものを１つずつお選びください。

（○は１つずつ）

	大いに増やす	もう少し増やす	このままでよい	もう少し減らす	わからない
（１）家庭生活のための時間	1	2	3	4	5
（２）仕事のための時間	1	2	3	4	5
（３）地域活動に参加する時間	1	2	3	4	5
（４）学習・趣味・スポーツなどのための時間	1	2	3	4	5
（５）休養のための時間	1	2	3	4	5

問１２　あなたは、男女が仕事や家庭・地域生活などを両立するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。**（○はいくつでも）**

１．パートナーの理解や家事・育児などへの参加
２．パートナー以外の家族の理解や家事・育児などへの参加
３．保育施設や学童保育の充実
４．福祉施設やホームヘルパーなどの在宅福祉サービスの充実
５．労働時間の短縮、フレックスタイム制などの導入
６．企業など職場の理解
７．育児、昇給などの職場での男女平等の確保
８．その他（　　）
９．わからない

※ワーク・ライフ・バランスとは・・「仕事と生活の調和」の意味であり、仕事や家庭・地域生活などに、やりがいや充実感を感じ、自ら希望する選択・生き方ができること。

男女共同参画社会づくりのための取り組みについてお伺いします

「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」のことです。

問１３　あなたは、このような社会を築いていくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から２つまでお選びください。**（○は２つまで）**

１．広報紙やパンフレットなどで、男女共同参画社会についてＰＲする
２．審議会委員など市の政策・方針決定の場や管理職に女性を積極的に登用する
３．女性リーダーなど人材を育成する
４．学校教育の場で男女の平等についての学習や人権教育を進める
５．職場における男女の均等な扱いについて周知を行う
６．保育施設や学童保育などの子どもを預かってくれる施設を充実する
７．高齢者や障害者に対する介護施設の整備や在宅福祉サービスを充実する
８．各種講座・講演会の開催や社会活動の情報提供を充実する
９．その他（　　）
10．特にない　　11．わからない

問１４　あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から２つまでお選びください。**（○は２つまで）**

１．意欲や能力のある女性を、採用、昇進などで評価する
２．研修など職業能力の開発・向上の機会を女性に提供する
３．女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する
４．男女とも育児休業や介護休業を取りやすくし、休業後は、職場へ復帰しやすくする
５．育児休業中の諸手当を充実する
６．労働時間を短縮するなど、男女とも家事や子育てなどがしやすいようにする
７．託児・保育施設を設置するなど、子どもを持つ男女が働きやすいようにする
８．職場での女性に対する偏見、固定的な役割分担意識をなくすようにする
９．その他（　　）
10．特にない　　11．わからない

問１５　あなたは、男女共同参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から２つまでお選びください。**（○は２つまで）**

１．差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする
２．女性自身が、積極的に社会的活動への参画意識を持つようにする
３．夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする
４．男女にとらわれず、個性や能力を発揮できるような子育てを行うようにする
５．男女共同参画を推進する事業に積極的に参加する
６．家庭や職場、地域などで男女共同参画について話し合う
７．その他（　　）
８．取り組む必要はない　　９．わからない

問１６　あなたは、那須塩原市で取り組んでいる下記の男女共同参画施策を知っていますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。**（○はいくつでも）**

１．那須塩原市男女共同参画推進条例
２．那須塩原市男女共同参画行動計画
３．男女共同参画広報紙「みいな」の発行
４．男女共同参画フォーラム『女と男　ともに輝くまちづくり』の開催
５．男女共同参画セミナー『誰もがきらりセミナー』の開講
６．女性の人材リストの整備
７．男女共同参画施策に関する意見の申出書の受付
８．その他（　　）
９．全く知らない

問１７　男女共同参画社会づくりについて、ご意見ご要望などがありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。